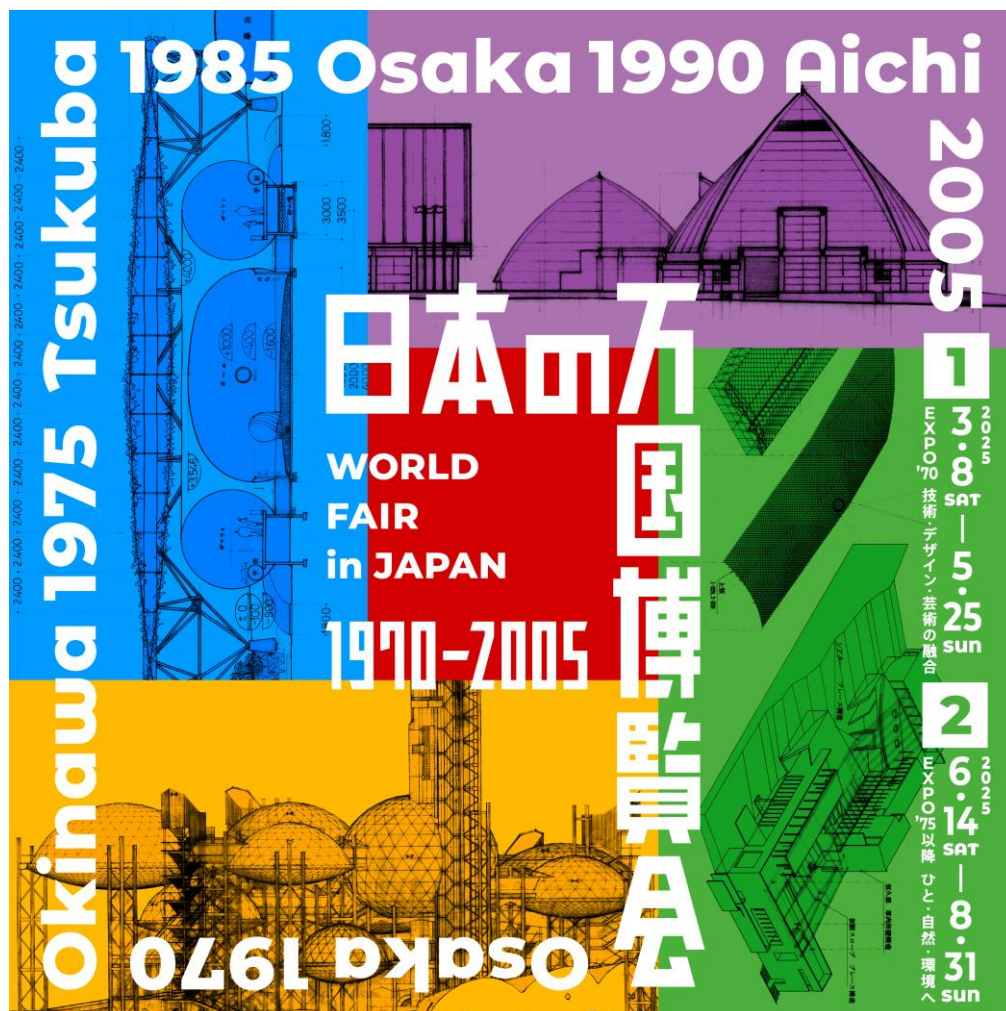


文化庁国立近現代建築資料館展覧会

「日本の万国博覧会 1970-2005」展 報告書



株式会社 SD アート

## 目次

企画趣旨.....	2
概 要 .....	3
制作物.....	5
展 示.....	47
広 報.....	69
実施記録.....	91
体制・協力者.....	103

## 企画趣旨

万国博覧会（国際博覧会、エクスポ、ともいう）は、元々は、19世紀に各国の優れた物品を集めて展示する展覧会として始まり、現在では、国際博覧会条約（BIE条約、1928年成立）に基づいて行われる複数の国が参加する博覧会を指します。その内容も、展示に限らず、イベント、アミューズメント含めて多様化してきました。

万国博覧会の建築は、展示品の器の役割を果たすためのものですが、近代建築の発展に大きな貢献をもたらしました。1851年の第1回ロンドン万国博覧会の展示館クリスタル・パレス（水晶宮）は、鉄骨造の外壁全体をガラスで覆うという、鉄とガラスの時代の到来を告げました。また、1889年の第4回パリ万国博覧会に際して、会場のゲートおよび展望台として建設されたエッフェル塔は、当時最先端の鉄骨造建築であり、今日でもパリのランドマークとして機能しています。万国博覧会が、国の威信をかけた催事であると同時に、短期間のみ使用される建築であることが、様々な建築的な実験を促し、その結果、万博建築は近代建築の進化に貢献することになったのです。

日本国内では、これまで日本万国博覧会（大阪万博、EXPO'70、1970年）、沖縄国際海洋博覧会（1975年）、つくば国際科学技術博覧会（1985年）、国際花と緑の博覧会（1990年）、日本国際博覧会愛・地球博（2005年）の5回の万国博覧会が開催されており、大阪・関西万博[2025年4月13日(日)–10月13日(月)184日間開催]がそれに続き、6回目ということになります。

本展覧会は、当館が所蔵する図面や企画段階の資料を中心とした展示を行い、来館者の皆様に、これまでの5回の万国博覧会の会場計画と施設デザインに関する理解を深めていただくことを目的とします。本展覧会は、2部に分けて、約半年間開催されます。

第1部「EXPO'70 人類の進歩と調和」[2025年3月8日(土)～5月25日(日)]では、5回の万国博覧会の概要を紹介しつつ、特に日本万国博覧会（大阪万博）について代表的な施設の図面等を展示します。万国博覧会の建築には、独特なデザインが採用されていますが、まだコンピュータを使った作図（CAD）が一般的でない時代に、建築家たちが手書きで難しい形を描いて、建築を実現するという努力を感じ取っていただけるでしょう。

第2部「ひと・自然・環境へ」[2025年6月14日(土)～8月31日(日)]では、日本万国博覧会（大阪万博）に加えて、他の4つの博覧会に関する収蔵図面と資料を展示します。EXPO'70の技術の進歩を前面に出したデザインに現われた総合テーマから、人間の居住、海や山などの自然、さらに地球の環境への配慮へと総合テーマが変化し、それに伴って、博覧会の会場計画の手法や建築デザインも変化を遂げます。また、それぞれの万博終了後の敷地活用をどうするかという点も重要であり、その一端をご理解いただける展示とします。

本展覧会を通じて、万国博覧会が果たした建築史上の役割を理解していただき、博覧会建築ならではの建築デザイン上の創意工夫を鑑賞いただけることを願っております。

## 概要

### ■基本情報

主催：文化庁

企画：文化庁国立近現代建築資料館

協力：公益財団法人東京都公園協会

会場：文化庁国立近現代建築資料館

(〒113-8553 東京都文京区湯島 4-6-15 湯島地方合同庁舎内)

会期：第1部「EXPO'70 技術・デザイン・芸術の融合」

2025年3月8日(土)～5月25日(日)

第2部「EXPO'75 以降ひと・自然・環境へ」

2025年6月14日(土)～8月31日(日)

休館日：毎週月曜日但し、祝日の月曜日は開館し翌平日休館。

(5月5日、6日、7月21日、8月1日開館、7月22日、8月12日休館)

(5月26日～6月13日展示入れ替えにつき休館)

時間：10:00～16:30





## ■ 関連イベント

### 館内シンポジウム

#### 第1部 館内シンポジウム

主題：「EXPO'70（大阪万博）を回想し、再考する」

日時：3月23日（日）14:00～15:30

場所：文化庁国立近現代建築資料館展示室前ロビー（2階）

#### 第2部 館内シンポジウム

主題：「知られざる試みと隠れた意義—EXPO'75以降の万博会場デザインについて」

日時：6月28日（土）14:00～15:30

場所：文化庁国立近現代建築資料館展示室前ロビー（2階）

### 当館展示担当職員によるガイドツアー

#### 第1部ガイドツアー

4月3日（木）、4月17日（木）、5月1日（木）、5月15日（木）

時間：14時～15時

#### 第2部ガイドツアー

日時：7月3日（木）、17日（木）、31日（木）、8月21日（木）

時間：14時～15時

### シンポジウム上映会

8月11日（月）、16日（土）、24日（日）

制作物

キービジュアル（縦）



キービジュアル（横）





チラシ表面 | A4サイズ | 20,000部

**1985 Osaka 1990 Aichi 2005**

**日本の万国博覧会 1970-2005**

**WORLD FAIR in JAPAN**

**1970-2005**

**1** 2025 3・8 SAT — 5・25 sun  
EXPO'70 技術・デザイン・芸術の融合  
Expo'70: Synthesis of Technology, Design and Art

**2** 2025 6・14 SAT — 8・31 sun  
EXPO'75以降 ひと・自然・環境へ  
After Expo'75 Toward People, Nature and the Environment

**会場: 文化庁国立近現代建築資料館 開館時間: 10:00—16:30**

**休館日: 毎週月曜日** 但し、祝日の月曜日は開館し翌平日休館 (5/5, 5/6, 7/21, 8/11は開館、7/22, 8/12は休館)

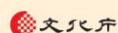
主催: 文化庁 企画: 文化庁国立近現代建築資料館 協力: 公益財団法人 東京都公園協会

Venue: National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs  
Open hours: 10:00—16:30 Closed on Mondays Open on holidays that fall on a Monday.  
In which case the following weekday will be closed: Open on 5th May, 6th May, 21st Jul, 11th Aug. Closed on 22nd Jul, 12th Aug.  
Organization: Agency for Cultural Affairs Planning: National Archives of Modern Architecture Cooperation: Tokyo Metropolitan Park Association

**文化庁**  
**国立近現代建築資料館**  
National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs

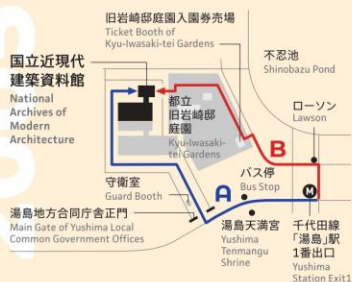
 最新情報は公式ウェブサイトをご確認ください。  
Find more detail in our official website.





## 国立近現代建築資料館

National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs



### アクセス Access

〒113-8553

東京都文京区湯島4-6-15 湯島地方合同庁舎内

4-6-15 Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8553

千代田線「湯島」駅 1番出口より徒歩8分

8-min. walk from Exit1 of Yushima Station (Tokyo Metro Chiyoda Line).

### 入館方法 Entry

国立近現代建築資料館への入場方法は2つあります。  
There are two ways to enter the National Archives of Modern Architecture.

#### A 展覧会へのみの観覧 (平日のみ利用可)

湯島地方合同庁舎正門よりご入場ください。  
入場料無料。都立旧岩崎邸庭園には入場できません。  
To view the exhibition only (open on weekdays only). Please enter from the main gate of the Yushima Local Common Government Offices. Admission is free. Visitors are not allowed to enter into the Tokyo Metropolitan Kiyu-Iwasaki-tei Gardens.

#### B 旧岩崎邸庭園と同時観覧

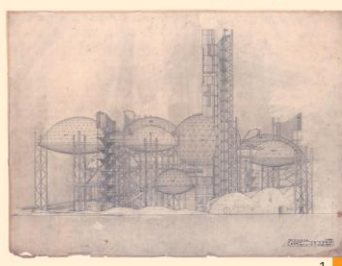
都立旧岩崎邸庭園よりご入場ください。  
旧岩崎邸庭園の入園料(一般400円)が必要となります。  
To view both the exhibition and Kiyu-Iwasaki-tei Gardens, please enter via the Kiyu-Iwasaki-tei Gardens (Admission 400 yen).

## 1 2025 3.8 SAT — 5.25 SUN

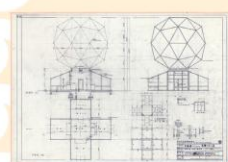
### EXPO'70 技術・デザイン・芸術の融合 Expo'70 Synthesis of Technology, Design and Art

5回の万国博覧会の概要を紹介しつつ、特に日本万国博覧会(大阪万博)について代表的な施設の図面等を通して、技術・デザイン・芸術の融合に向けた創造的な挑戦と努力の証を展示します。

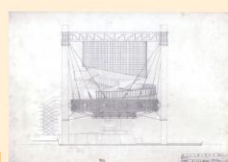
Part 1, "Expo'70 Synthesis of Technology, Design and Art" will provide an overview of these five World's Fairs, with particular attention to drawings of notable facilities at the Japan World Exposition Osaka 1970 (Expo'70). They will be a testament to the remarkable challenge and efforts made to unite technology, design and art.



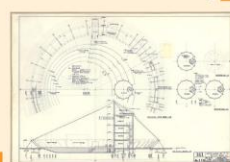
1



2



3



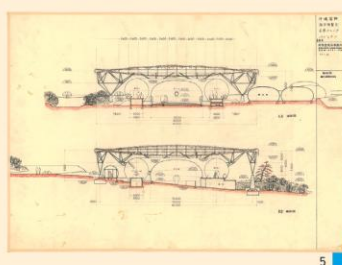
4

## 2 2025 6.14 SAT — 8.31 SUN

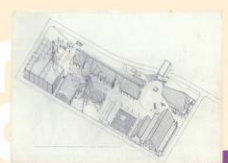
### EXPO'75以降 ひと・自然・環境へ After Expo'75 Toward People, Nature and the Environment

日本万国博覧会(大阪万博)の一部展示替えを行い、他の4つの博覧会に関する収蔵図面と資料を展示します。EXPO'70の技術を前面に出した表現から、人間の居住、海や山などの自然、さらに地球の環境への配慮へと統一テーマ自体が変化し、それに伴って、博覧会の会場計画の手法や建築デザインも変化を遂げる様子を展示します。

Part 2, "After Expo'75 Toward People, Nature, and the Environment" will display drawings and documents from the collection related to the four other World's Fairs, in addition to the Japan World Exposition Osaka 1970 (Expo'70). The general theme of Expo'70, which manifested in designs that foregrounded technological advances, has shifted toward themes that include human habitation, nature such as oceans and mountains, and consideration for the global environment, with corresponding changes in venue site-planning methods and architectural designs.



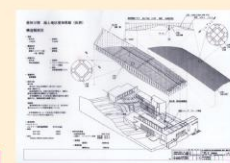
5



6



7



8

1. 大谷幸夫 | 住友重信館 北側立面図 2. 菊竹清訓 | エキスポタワー広場S3棟一般図 構造図 3. 坂倉準三 | 電力館 南立面図 4. 前川國男 | 自動車館 第2パビリオン詳細図 5. EXPO'75 村田豊 | 美音グループパビリオン 断面図 6. EXPO'85 大高正人 | Fブロック全体アクセシビリティ図 7. 建築都市ワークショップ旧蔵 国際花と緑の博覧会 関連資料 8. EXPO 2005 高橋敏一 + 第一工房 | 瀬戸会場愛知県館 構造概要図  
1. OTAKI Sachio | Sumitomo Pavilion, North Elevation 2. KIKUTAKE Kiyonori | EXPO Tower Plaza Building S3, Basic and Structural Drawing 3. SAKAKURA Junzo | Electric Power Pavilion, South Elevation 4. MAYEKAWA Rumi | Automobile Pavilion, the Second Pavilion, Detailed Drawing 5. MURATA Yutaka | FUYO Group Pavilion, Section 6. OTAKA Masato | Axonometric Drawing of Block F 7. Materials on EXPO'90, collected by WORKSHOP FOR ARCHITECTURE AND URBANISM 8. TAKAHASHI Teichi + DAIICHI-KOBE | Aichi Pavilion in Seto Site, Structure Diagram

# 日本の万国博覧会

WORLD  
FAIR  
in JAPAN

1970-2005

万国博覧会は、元々は、19世紀に各国の優れた物品を集めて展示する展覧会として始まりました。万国博覧会の建築は、展示品の役割を果たすためのものですが、近代建築の発展に大きな貢献をもたらしました。例えば、1889年パリ万国博覧会に際して、会場のゲートおよび展望台として建設されたエッフェル塔は、当時最先端の鉄骨造建築であり、今日でもパリのランドマークとして機能しています。万国博覧会が、国の威信をかけた催事であると同時に、短期間のみ使用される建築であることが、様々な建築的な実験を促し、その結果、万博建築は近代建築の進化に大きく貢献することになりました。

日本国内では、これまで日本万国博覧会(大阪万博、EXPO'70、1970年)、沖縄国際海洋博覧会(1975年)、つくば国際科学技術博覧会(1985年)、国際花と緑の博覧会(1990年)、日本国際博覧会 愛・地球博(2005年)の5回の万国博覧会が開催されており、大阪・関西万博[2025年4月13日(日)~10月13日(月)]がそれに続き、6回目ということになります。

本展覧会は、当館が所蔵する図面や企画段階の資料を中心とした展示を行い、これまでの5回の万国博覧会の会場計画と施設デザインに関する理解を深めていただくことを目的とします。本展覧会を通じて、万国博覧会が果たした建築史上の役割の一端を理解しながら、博覧会建築ならではの建築デザイン上の創意工夫をご鑑賞ください。

The World's Fair originated in the nineteenth century as an exhibition that gathered and displayed the finest goods from many countries. Though the buildings of World's Fairs are intended to serve as containers for the exhibits, they have also made significant contributions to the development of modern architecture. The Eiffel Tower, built as a gate and observation deck for the World's Fair in Paris in 1889, was the most advanced steel-framed architecture of its time, and even today functions as a Paris landmark. The fact that a World's Fair is a prestigious national event, and that the architecture is to be used only for a short period of time, has encouraged varied architectural experiments, and consequently World's Fair architecture has contributed to the evolution of modern architecture.

World's Fairs have been held in Japan five times: Japan World Exposition Osaka 1970 (Expo'70), International Ocean Exposition Okinawa 1975 (Expo'75), International Exhibition Tsukuba Japan 1985 (Expo'85), International Garden and Greenery Exposition Osaka 1990 (Expo'90), and Expo 2005 Aichi (Expo 2005). Following these, the sixth will be Expo 2025 Osaka Kansai, to be held from 13 April 2025 to 13 October 2025.

This exhibition will focus on drawings and other materials related to their planning stages held in the NAMA collection, intended to provide visitors with a deeper understanding of the master plan and facility design for the five previous World's Fairs. Through this exhibition, we hope that visitors will gain an understanding of the role that World's Fairs have played in architectural history, and an appreciation of the inventive designs that are to be found in their architecture.

### イベント Events (given only in Japanese)

会期中、シンポジウムとガイドツアーを複数回開催します。  
詳細は公式ウェブサイトでお知らせします。







日本の万国博覧会 1970-2005

屋外看板（旧岩崎邸庭園側ガラス面） | 885H×4480W | 1 式

5) 屋外看板 (旧岩崎邸庭園側ガラス面) 885H/4480W(デザイン面) 885H/2972W(見取ガラス面に出力シート貼り)



屋外看板（旧岩崎邸庭園側） | 1800H×2400W | 1 式

6) 屋外看板 (旧岩崎邸庭園側) 1800H/2400W、四方100mm余白 ※屋外用出力シート貼り

250214 MIDORIS





屋外看板（合同庁舎側） | 1200H×2400W | 1 式

250214 MIDORIS



8\_屋外看板(駐車場) 1200H/2400W、四方100mm余白 ※屋外用出力シート貼り

250214 MIDORIS





## 第2部 屋外看板 マイナーチェンジ（合同庁舎側） | 1200H×600W | 1式

7\_ 屋外看板（湯島合同庁舎正門） マイナーチェンジ 上貼り用 1200H/600W

**国立近現代建築資料館**  
National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs

**1 2025 3.8 SAT — 5.25 SUN**  
**EXPO'70 技術・デザイン・芸術の融合**  
Expo'70 Synthesis of Technology, Design and Art

**2 2025 6.14 SAT — 8.31 SUN**  
**EXPO'75 以降 ひと・自然・環境へ**  
After Expo'75 Toward People, Nature and the Environment

**開館時間: 10:00 — 16:30**  
**休館日: 毎週月曜日**

但し、祝日の月曜日は開館し翌平日休館（5/5, 5/6, 7/21, 8/11は開館, 7/22, 8/12は休館）  
主催: 文化庁 企画: 文化庁国立近現代建築資料館 協力: 公益財団法人 東京都公園協会  
Open hours: 10:00—16:30 Closed on Mondays Open on holidays that fall on a Monday.  
In which case the following weekday will be closed:  
Open on 5th May., 6th May., 21st Jul., 11th Aug. Closed on 22nd Jul., 12th Aug..  
Organization: Agency for Cultural Affairs Planning: National Archives of Modern Architecture  
Cooperation: Tokyo Metropolitan Park Association

**入館方法 Entry**

**A 展示会へのみの観覧（平日のみ利用可）**  
湯島地方合同庁舎正門よりご入場ください。  
入場料無料。都立旧岩崎邸庭園には入場できません。  
To view the exhibition only (open on weekdays only). Please enter from the main gate of the Yushima Local Common Government Offices. Admission is free. Visitors are not allowed entry into the Tokyo Metropolitan Kyo-Iwasaki-tei Gardens.

**B 旧岩崎邸庭園と同時観覧**  
都立旧岩崎邸庭園よりご入場ください。  
旧岩崎邸庭園の入場料（一般400円）が必要となります。  
To view both the exhibition and Kyo-Iwasaki-tei Gardens, please enter via the Kyo-Iwasaki-tei Gardens (Admission 400 yen).

250217 再入稿 MIDORIS

7\_ 屋外看板（湯島合同庁舎正門）  
展示入替期間用 剥がせるシール 吹き出し型 300H/350W



250217 MIDORIS



## 第2部 屋外看板（駐車場側）マイナーチェンジ ジ | 1200H×600W | 1式

8\_ 屋外看板（駐車場） マイナーチェンジ 上貼り用 1200H/600W

**国立近現代建築資料館**  
National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs

**1 2025 3.8 SAT — 5.25 SUN**  
**EXPO'70 技術・デザイン・芸術の融合**  
Expo'70 Synthesis of Technology, Design and Art

**2 2025 6.14 SAT — 8.31 SUN**  
**EXPO'75 以降 ひと・自然・環境へ**  
After Expo'75 Toward People, Nature and the Environment

**開館時間: 10:00 — 16:30**  
**休館日: 毎週月曜日**

但し、祝日の月曜日は開館し翌平日休館（5/5, 5/6, 7/21, 8/11は開館, 7/22, 8/12は休館）  
主催: 文化庁 企画: 文化庁国立近現代建築資料館 協力: 公益財団法人 東京都公園協会  
Open hours: 10:00—16:30 Closed on Mondays Open on holidays that fall on a Monday.  
In which case the following weekday will be closed:  
Open on 5th May, 6th May, 21st Jul, 11th Aug. Closed on 22nd Jul, 12th Aug.  
Organization: Agency for Cultural Affairs Planning: National Archives of Modern Architecture  
Cooperation: Tokyo Metropolitan Park Association

**入館方法 Entry**

**A 展示会へのみの観覧（平日のみ利用可）**  
湯島地方合同庁舎正門よりご入場ください。  
入場料無料。都立旧岩崎邸庭園には入場できません。  
To view the exhibition only (open on weekdays only). Please enter from the main gate of the Yushima Local Common Government Offices. Admission is free. Visitors are not allowed entry into the Tokyo Metropolitan Kyo-Iwasaki-tei Gardens.

**B 旧岩崎邸庭園と同時観覧**  
都立旧岩崎邸庭園よりご入場ください。  
旧岩崎邸庭園の入園料（一般400円）が必要となります。  
To view both the exhibition and Kyo-Iwasaki-tei Gardens, please enter via the Kyo-Iwasaki-tei Gardens (Admission ¥400 yen).

国立近現代建築資料館  
National Archives of Modern Architecture

都立旧岩崎邸庭園  
Tokyo Metropolitan Kyo-Iwasaki-tei Gardens

湯島地方合同庁舎正門  
Main Gate of Yushima Local Common Government Offices

守衛室  
Guard Booth

バス停  
Bus Stop

湯島天満宮  
Yushima Tenmangu Shrine

千代田線  
Yushima Station Exit 1

不忍池  
Shinobazu Pond

ローソン  
Lawson

旧岩崎邸庭園入園券売場  
Ticket Booth of Kyo-Iwasaki-tei Gardens

250217 再入稿 MIDORIS

10) 屋外誘導看板（旧岩崎邸正門・可動）  
展示入替期間用 剥がせるシール 円形 100H/100W



250217 MIDORIS

日本の万国博覧会 1970-2005

屋外誘導看板（可動）

| 728H×515W | 4 式

9) 屋外誘導看板(可動) B2

250214 MIDC



屋外誘導看板（旧岩崎邸正面、可動）

| 860H×410W | 1 式

10) 屋外誘導看板(旧岩崎邸正面・可動) 860H×410W ※図面は看板に遷移用出力規格シート貼付

250214 MID085



第2部 屋外誘導看板（可動）マイナーチェンジ | 136H×343W | 4式

9) 屋外誘導看板（可動）B2 マイナーチェンジ 上貼り用(1) 136H/343W

**開館時間: 10:00 — 16:30 休館日: 毎週月曜日**  
但し、祝日の月曜日は開館し翌平日休館（5/5, 5/6, 7/21, 8/11は開館、7/22, 8/12は休館）  
主催: 文化庁 企画: 文化庁国立近現代建築資料館 協力: 公益財団法人 東京都公園協会

Open hours: 10:00 — 16:30 Closed on Mondays Open on holidays that fall on a Monday.  
In which case the following weekday will be closed:  
Open on 5th May, 6th May, 21st Jul., 11th Aug. Closed on 22nd Jul., 12th Aug..  
Organization: Agency for Cultural Affairs Planning: National Archives of Modern Architecture  
Cooperation: Tokyo Metropolitan Park Association

**国立近現代建築資料館**  
National Archives of Modern Architecture

最新情報は公式ウェブサイトをご覧ください。  
Find more detail in our official website.

**入館方法 Entry**  
[A] 観覧会のみ観覧（平日のみ利用可） 湯島地方合同庁舎正門よりご入場ください。  
入場料無料。都立旧岩崎邸庭園には入場できません。  
To view the exhibition only (open on weekdays only). Please enter from the main gate of the Yushima Local Common Government Offices. Admission is free. Visitors are not allowed entry into the Tokyo Metropolitan Kyo-Iwasaki-tei Gardens.  
[B] 旧岩崎邸庭園と同時観覧 都立旧岩崎邸庭園よりご入場ください。  
旧岩崎邸庭園の入園料（一般400円）が必要となります。  
To view both the exhibition and Kyo-Iwasaki-tei Gardens, please enter via the Kyo-Iwasaki-tei Gardens (Admission 400 yen).

250217 再入稿 MIDORIS

9) 屋外誘導看板（可動）B2  
マイナーチェンジ 上貼り用(2) 43H/43W



250217 MIDORIS

第2部 屋外誘導看板(旧岩崎邸正面、可動)マイナーチェンジ | 228H×289W | 1式

10) 屋外誘導看板(旧岩崎邸正門・可動) マイナーチェンジ 上貼り用(1) 228H/289W

250214 MIDORIS

**開館時間: 10:00 — 16:30 休館日: 毎週月曜日**

但し、祝日の月曜日は開館し翌平日休館 (5/5, 5/6, 7/21, 8/11 は開館、7/22, 8/12 は休館)

主催: 文化庁 企画: 文化庁国立近現代建築資料館 協力: 公益財団法人 東京都公園協会

Open hours: 10:00 — 16:30 Closed on Mondays Open on holidays that fall on a Monday.  
 In which case the following weekday will be closed:  
 Open on 5th May, 6th May, 21st Jul., 11th Aug. Closed on 22nd Jul., 12th Aug..  
 Organization: Agency for Cultural Affairs Planning: National Archives of Modern Architecture  
 Cooperation: Tokyo Metropolitan Park Association



**国立近現代建築資料館**  
National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs



最新情報は  
公式ウェブサイトをご確認ください。  
Find more detail in our official website.

**国立近現代建築資料館**  
National Archives of Modern Architecture



入園券売場 Ticket Booth  
都立旧岩崎邸庭園 現在地  
不忍池 Shinobazu Pond  
ローソン Lawson  
バス停 Bus Stop  
湯島天満宮 Yushima Tenmangu Shrine  
千代田線「湯島」駅 1番出口 Yushima Station Exit 1

**入館方法 Entry**

**A 展示会だけの観覧(平日のみ利用可)**  
 湯島地方合同庁舎正門よりご入場ください。  
 入場料無料。都立旧岩崎邸庭園には入場できません。  
 To view the exhibition only (open on weekdays only).  
 Please enter from the main gate of the Yushima Local Common Government Offices. Admission is free. Visitors are not allowed entry into the Tokyo Metropolitan Kyu-Iwasaki-tei Gardens.

**B 旧岩崎邸庭園と同時観覧**  
 都立旧岩崎邸庭園よりご入場ください。  
 旧岩崎邸庭園の入園料(一般400円)が必要となります。  
 To view both the exhibition and Kyu-Iwasaki-tei Gardens, please enter via the Kyu-Iwasaki-tei Gardens (Admission 400 yen).

10) 屋外誘導看板(旧岩崎邸正門・可動)  
マイナーチェンジ 上貼り用(2) 42H/42W



250214 MIDORIS



屋内タイトルウォール | H2400×W2500×D670|1 式

11) タイトルウォール 縦書き仕様:H2400/W2500/D670 パネル書き込み分100mm

250214 MIDORIS



第2部 屋内タイトルウォール マイナーチェンジ | H350×W1839|1 式

11) タイトルウォール マイナーチェンジ 上掲り用(1) 350H/1839W(うち5100mm書き込み用)

250217 西入橋 MIDORIS



11) タイトルウォール  
マイナーチェンジ 上掲り用(2) 190H/190W





大型パネル「ごあいさつ」 | 1456H×1030W | 1式

ごあいさつ

日本国内では、これまで日本万国博覧会(大阪万博、EXPO'70、1970年)、沖縄国際海洋博覧会(1975年)、つくば国際科学技術博覧会(1985年)、国際花と緑の博覧会(1990年)、日本国際博覧会 愛・地球博(2005年)の5回の万国博覧会が開催されており、大阪・関西万博[2025年4月13日(日)～10月13日(月)184日間開催]が6回目ということになります。

本展覧会「日本の万国博覧会 1970—2005」は、当館が所蔵する万国博覧会関連の図面や企画段階の資料を中心とした展示を通じて、来館者の皆様に5回の万国博覧会の会場計画と施設デザインに関する理解を深めていただくことを目的とします。

万国博覧会は、元々は、19世紀に各国の優れた物品を集めて展示する展覧会として始まり、現在では、実物展示に限らず、映像、イベント、アミューズメント含めて多様化し、壮大な文化の祭典へと発展してきました。

万国博覧会の建築は、展示品の器の役割を果たすためのものですが、近代建築の発展に大きな貢献をもたらしました。1851年の第1回ロンドン万国博覧会の展示館クリスタル・パレス(水晶宮)は、鉄骨造の外壁全体をガラスで覆うという、鉄とガラスの時代の到来を告げました。また、1889年パリ万国博覧会に際して、会場のゲートおよび展望台として建設されたエッフェル塔は、当時最先端の鉄骨造建築であり、今日でもパリのランドマークとして機能しています。

本展覧会を通じて、万国博覧会が果たした建築史上の役割をご理解いただき、博覧会建築ならではの建築デザイン上の創意工夫や魅力をご鑑賞いただければ幸いです。本展覧会で得られる知見が、日本の万国博覧会および万博建築をより深く理解し、楽しむことに役立つことを願っております。

寺本 恒昌

文化庁国立近現代建築資料館長(文化庁 文化経済・国際課長)

Greetings

Five World's Fairs have been held in Japan so far: Japan World Exposition Osaka 1970 (Expo '70), International Ocean Exposition Obinawa 1975 (Expo '75), International Exhibition Tsukuba Japan 1985 (Expo '85), International Garden and Greenery Exposition Osaka 1990 (Expo '90), and Expo 2005 Aichi (Expo 2005). Expo 2025 Osaka Kansai [to be held for 184 days from 13 April (Sunday) to 13 October (Monday), 2025] will be the sixth.

This exhibition, "World Fair in Japan 1970-2005," aims to provide visitors with a deeper understanding of the venue planning and facility design of these five World's Fairs by featuring drawings and other materials from the planning stages, which are held in the museum's collection related to World's Fairs.

World's Fairs originally began in the nineteenth century as exhibitions that gathered and displayed the finest goods from around the world, but later developed into grand cultural festivals that have diversified to include not only actual exhibits, but also videos, events, and amusements.

Though the buildings of World's Fairs are intended to serve as containers for the exhibits, they have also made significant contributions to the development of modern architecture. The Crystal Palace, the exhibition hall for the first World's Fair in London in 1851, was a cast-iron structure entirely clad in plate glass, heralding the advent of the era of steel and glass. The Eiffel Tower, built as a gateway and observatory for the 1889 Paris Exposition, was the most advanced steel-framed structure of its time, and remains a landmark in Paris today.

We hope that this exhibition will help visitors to understand the role that World's Fairs have played in architectural history, and to appreciate the ingenuity and appeal of the architectural designs that characterize exposition architecture. We hope that the insights gained from this exhibition will help in better understanding and enjoying Japan's World's Fairs and exposition architecture.

TERAMOTO Tsunemasa

Director, National Archives of Modern Architecture (NAMA), Agency for Cultural Affairs (Chief of Cultural Economy and International Affairs Division, Agency for Cultural Affairs)

致 辞

在日本国内、至今已经举办过日本世界博览会(大阪世博、EXPO'70、1970年)、沖縄国際海洋博覧会(1975年)、筑波国際科学技術博覧会(1985年)、国際花と緑博覧会(1990年)、日本国際博覧会 愛・地球博(2005年)这五次世界博览会,而大阪关西世博会[2025年4月13日(星期日)~10月13日(星期一),举办184天]将会是第六次。世界博览会原本是作为在19世纪收集各国优良物品来进行展示的展览会而兴起的,如今已不再局限于实物展示,还包括影像、活动、娱乐等多样化的内容,演变成了盛大的文化盛典。

本次「日本の世界博览会 1970—2005」的展览,旨在通过以本馆所收藏的世界博览会相关图纸以及策划阶段的资料为中心的展示,加深来馆参观的各位对五次世界博览会的会场规划和设施设计的理解。

世界博览会原本是作为在19世纪收集各国优良物品来进行展示的展览会而兴起的,如今已不再局限于实物展示,还包括影像、活动、娱乐等多样化的内容,演变成了盛大的文化盛典。

世界博览会的建筑有放置展品容器的作用,亦对近代建筑的发展做出了巨大贡献。1851年第一届伦敦世界博览会的展馆水晶宫,以用玻璃覆盖整个铁骨结构外墙的方式,宣告了铁与玻璃时代的到来。此外,1889年巴黎世界博览会之际,作为会场大门以及瞭望台而建造的艾菲尔铁塔,是当时最先进的铁骨建筑,至今依旧作为巴黎的地标发挥着功能。

希望通过本次展览,您能理解世界博览会在建筑史上所起的作用,并能够欣赏到博览会建筑在建筑设计上的独特匠心与魅力,期望在本次展览中所获得的知识,有助于更深入地理解日本的世界博览会以及世博建筑,并从中体味到乐趣。

寺本 恒昌

文化庁国立近現代建築資料館長(文化庁 文化経済・国際課長)

인 사 말

일본 국내에서는, 지금까지 일본 만국 박람회(오사카 만국 박람회, EXPO'70, 1970년), 오키나와 국제 해양 박람회(1975년), 쓰쿠바 국제 과학기술 박람회(1985년), 국제 꽃과 초록의 박람회(1990년), 일본 국제 박람회 사람 지구 박람회(2005년)와 같이 5번의 만국 박람회가 개최되었으며, 오사카-간사이 만국 박람회[2025년 4월 13일(일)-10월 13일(월) 184일간 개최]가 6번째인 셈입니다.

본 전람회「일본의 만국 박람회 1970-2005」는, 저희 자료관이 소장하는 만국 박람회와 관련된 도면이나 기획 단계의 자료를 중심으로 한 전시를 통해, 내방하시는 여러분에게 5번의 만국 박람회의 회장 계획과 시설 디자인에 관한 이해를 높이기 위한 것을 목적으로 합니다.

만국박람회는 원래 19세기에 각국의 우수한 물품을 모아 전시하는 전람회로 시작하여 현재는 실물 전시뿐만 아니라 영상, 이벤트, 놀이를 포함하여 다양화되고 광대한 문화 축제로 발전해 왔습니다.

만국박람회의 건축은 전시품의 그릇 역할을 하기 위한 것이지만 근대건축의 발전에 크게 기여했습니다. 1851년 제1회 런던 만국박람회의 전시관 크리스털 팰리스(수정궁)는 철골조의 외벽 전체를 유리로 감싸는 철과 유리 시대의 도래를 알렸습니다. 또한, 1889년 파리 만국박람회 때에 행사장 게이트 및 전망대로 건설된 에펠탑은 당시 최첨단 철골조 건축물이자 오늘날에도 파리의 랜드마크 역할을 하고 있습니다.

본 전람회를 통해, 만국박람회가 이룩한 건축사에서의 역할을 이해하고, 박람회 건축만이 가능한 건축 디자인상의 창의적 고안이나 매력을 감상해 주시면 감사하겠습니다. 본 전람회에서 얻은 지식이, 일본의 만국박람회 및 만국박람회 건축을 보다 깊이 이해하고, 즐기는 데에 도움이 되기를 바랍니다.

테라모토 쓰네타마사

문화청 국립근현대건축자료관장 (문화청 문화경제·국제과장)

## 大型パネル「はじめに」 | 1456H×1030W | 1 式

### はじめに

## 万国博覧会を理解して、 万博建築の魅力を楽しむ

万国博覧会(国際博覧会、エクスポ、ともいう)は、元々は、19世紀に各国の優れた物品を集めて展示する展覧会として始まり、現在では、国際博覧会条約(BIE条約、1928年成立)に基づいて行われる複数の国が参加する博覧会を指します。万国博覧会は、近現代の発展史の中で重要な役割を果たすと共に、万国博覧会の建築は、単なる展示館であることを超えて、近代建築の発展に大きな貢献をもたらしました。パリのエッフェル塔が1889年パリ万国博覧会の産物であったことは有名ですが、万国博覧会は近代建築の挑戦と冒険の場でした。

現在の国際博覧会条約では、万国博覧会を、登録博(5年ごと)と認定博(登録博覧会の間で1回)の2つのタイプに分けて、統一テーマの内容、開催期間、会場規模などを規定しています。日本国内では、これまでに5回の万国博覧会—日本万国博覧会(大阪万博、EXPO'70、1970年)、沖縄国際海洋博覧会(1975年)、国際科学技術博覧会(1985年)、国際花と緑の博覧会(1990年)、日本国際博覧会 愛・地球博(2005年)—が開催されました。本展覧会では、5回の万国博覧会に関して、当館が所蔵する図面や企画段階の資料を中心とした展示を行い、図面や資料から、これらの万国博覧会の会場計画と施設デザインに関する理解を深めていただくことを目指します。

本展覧会は、2部に分けて、約半年間開催されます。

第1部「EXPO'70 技術・デザイン・芸術の融合」[2025年3月8日(土)～5月25日(日)]では、5回の万国博覧会の概要を紹介し、特に日本万国博覧会(大阪万博)について代表的な施設の図面等を通して、技術・デザイン・芸術の融合に向けた創造的な挑戦と努力の証を展示します。万国博覧会の建築には、独特なデザインが採用されますが、まだコンピュータを使った作図(CAD)が一般的でない時代に、建築家たちが手描きで難しい形の図面を描いて、建築を実現するという努力を感じ取っていただけるでしょう。

第2部「EXPO'75以降 ひと・自然・環境へ」[2025年6月14日(土)～8月31日(日)]では、日本万国博覧会(大阪万博)の一部展示替えを行い、他の4回の博覧会に関する収蔵図面と資料を展示します。EXPO'70の技術を前面に出したテーマから、人間の居住、海や山などの自然、さらに地球の環境への配慮へとテーマが変化し、それに伴って、博覧会の会場計画の手法や建築デザインも変化を遂げる様子を展示します。

本展覧会を通じて、万国博覧会が果たした建築史上の役割の一端を理解していただきつつ、日本の万国博覧会の変遷および博覧会建築ならではの建築デザイン上の創意工夫と魅力をご鑑賞ください。

小林 克弘

当館主任建築資料調査官・東京都立大学名誉教授

注記 万国博覧会の名称や諸データについては、和文では外務省公式HP「日本における国際博覧会」(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/hakurankai/banpaku/nihon.html>)を参照し、英文では、国際博覧会事務局公式HP(<https://www.bie-paris.org/site/en/>)を参照しました。

### Preface

## To understand World's Fair and enjoy the attractive Expo Architecture

The World's Fair (also called International Exposition or Expo) originated in the nineteenth century as an exhibition that gathered and displayed the finest goods from many countries, and now refers to exhibitions in which multiple countries participate under the auspices of Bureau International des Expositions (BIE, established in 1928). Though the buildings of World's Fairs are intended to serve as containers for the exhibits, they have also made significant contributions to the development of modern architecture. It is a famous fact that the Eiffel Tower, the most advanced steel-framed architecture of its time, was built as a gate and observation deck for the 1889 World's Fair in Paris. World's Fair is a prestigious field where challenges and experiments of modern architecture have been encouraged.

In the current International Expo Treaty, the World Exposition is divided into two types, a registered expo (every 5 years) and a recognized expo (during the interval between two registered expos), and contents of the unified theme, the venue, and the scale of venue are specified.

World's Fairs have been held in Japan five times: Japan World Exposition Osaka 1970 (Expo '70), International Ocean Exposition Okinawa 1975 (Expo '75), International Exhibition Tsukuba Japan 1985 (Expo '85), International Garden and Greenery Exposition Osaka 1990 (Expo '90), and Expo 2005 Aichi (Expo 2005).

This exhibition will focus on drawings and other materials related to their planning stages held in the NAMA collection, intended to provide visitors with a deeper understanding of the venue planning and facility design for the five previous World's Fairs.

This exhibition will be divided into two parts, and be held for approximately six months.

Part 1, "Expo '70 Synthesis of Technology, Design and Art" [8 March 2025 (Saturday) to 25 May 2025 (Sunday)], will provide an overview of these five World's Fairs, with particular attention to drawings of notable facilities at the Japan World Exposition Osaka 1970 (Expo '70). They will be a testament to the creative efforts made to unite technology, design and art. Unique design approaches have been adopted in World's Fair architecture, and visitors will be able to perceive the efforts made by architects drawing difficult shapes by hand in order to implement architecture in an era when CAD (Computer-Aided Drawing) was not yet commonplace.

Part 2, "After Expo '75 Toward People, Nature, and the Environment" [14 June 2025 (Saturday) to 31 August 2025 (Sunday)] will display drawings and documents from the collection related to the four other World's Fairs, in addition to the Japan World Exposition Osaka 1970 (Expo '70). The general theme of Expo '70, which manifested in designs that foregrounded technological advances, has shifted toward themes that include human habitation, nature such as oceans and mountains, and consideration for the global environment, with corresponding changes in venue site-planning methods and architectural designs.

Through this exhibition, we hope that visitors will gain an understanding of the role that World's Fairs have played in architectural history, and an appreciation of the inventive designs that are to be found in their architecture.

KOBAYASHI Katsuhiro  
Chief Senior Specialist for Architectural Documents,  
Emeritus Professor of Tokyo Metropolitan University

Note: The names and other data of the World Expositions are based on "World Expositions in Japan" on the official website of Ministry of Foreign Affairs in Japanese language and the official website of the Bureau of International Expositions in English language.



## コラム

### 近現代を先導した 万博建築

小林克弘

当館主任建築資料調査官・東京都立大学名誉教授

国内の新しい物品を集めて展示する博覧会の始まりは、フランス革命時のパリと言われる。その後、他の国でも内国博覧会が行われるようになり、フランス首相が国際的な博覧会の開催を提唱して、1851年にロンドンで第1回万国博覧会が開催されることになった。この時から、博覧会の建築は、建築デザインの発展に大きな影響を与えることになる。

ロンドン万国博覧会(第1回、1851年、図1)の展示館であったクリスタル・パレス(水晶宮)は、巨大な鉄骨造建築であり、その外壁全体をガラスで覆うという、鉄とガラスの時代の到来を告げた。昨夏のパリ・オリンピックの重要な舞台の一つ、エッフェル塔(図2)は、1889年パリ万国博覧会場のゲートおよび展望台として建設された鉄骨造モニュメントであった。同じく、同オリンピックで用いられたグランパレ(図3)は、1900年パリ万国博覧会の会場であり、これらの万博施設は100年以上過ぎた今でも、世界的イベントの舞台として活用されている。

1920年代になると、万博は、新たな技術の実現の場というよりは、新たなデザインを追求する場となる。1925年パリ万国博覧会は、正式名称を現代産業装飾芸術国際博覧会といい、その略語からアールデコという言葉が生まれるが、過去の様式建築とは異なる近代風デザインのパビリオンが連なった。一角には、ル・コルビュジエがデザインしたレスブリヌーボー館が展示され、近代建築デザインの一端が大衆の目に触れることになった。

1929年バルセロナ博覧会のドイツ・パビリオン(図4)は、後に近代建築の巨匠となるミース・ファン・デル・ローエによってデザインされた小規模なパビリオンだったが、大きく飛び出た屋根、柱と壁による空間構成は、当時の近代建築デザインの一つの到達点の姿を示した。1937年パリ万国博覧会の日本パビリオン(坂倉準三設計、図5)は、エッフェル塔対岸のシャイヨ旧宮周りのトロカデロ庭園の斜面の上に浮かぶ、軽快な鉄骨造の箱とスロープの構成であり、その近代的デザインはグランプリを得ると高い評価を受けた。

ヨーロッパを追いかけると、アメリカでも盛んに万国博覧会が開かれた。ロンドンの第1回万国博覧会の2年後には、ニューヨーク万国博覧会(図6)で水晶宮を模した展示館が作られる。この博覧会で重要だったのは、水晶宮の隣に木製の高さ315フィート(96m)のラッティング展望台という、当時のニューヨーク市で最も高い施設が建てられ、その中に、落下防止装置を備えた巻き上げロープ式

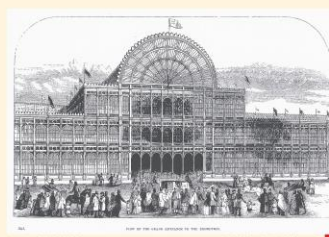


図1 クリスタル・パレス(水晶宮) 本図: Official description and illustrated catalogue of the Great Exhibition of 1851. 図説: Crystal Palace, London 1851. Source: Official description and illustrated catalogue of the Great Exhibition of 1851. Reproduced from National Diet Library Website



図2 エッフェル塔 写真提供: Eiffel Tower, Paris 1889. Photo by the author

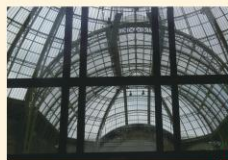


図3 グランパレ 写真提供: The Grand Palais, Paris 1900. Photo by the author



図4 1929年バルセロナ博覧会ドイツ・パビリオン 写真提供: The German Pavilion at the 1929 Barcelona International Exposition. Photo by the author



図5 1937年パリ万国博覧会日本パビリオン(坂倉準三設計) 写真提供: The Japanese Pavilion at the 1937 Paris Exposition Internationale. Photo by the author



図6 1853年ニューヨーク万国博覧会 Crystal Palace 写真提供: Crystal Palace, New York 1853. Source: Historical Photo by the author

の安全なエレベータが設置されたことだった。エリシャ・オーチスという人物が発明した、この世界初の実用的な人用のエレベータは、数年後にはニューヨークの市中で使われ始めて、建築の高層化を可能とすることに貢献する技術となった。

一方、シカゴ・コロンビア博覧会(1893年、図7)は、他の多くの博覧会が、近代的技術を駆使して進歩的なイメージの会場計画を行っていたのに対して、会場全体を新古典主義建築で統一して「ホワイト・シティ」と呼ばれた。当時のシカゴは、近代的なオフィスビルの原型と言えるような鉄骨骨組の高層建築では世界の最先端であったが、アメリカ全体としては、ヨーロッパの伝統的建築デザインを追い求めていて、博覧会のデザインにも、そうした様式を採用したのである。ルイス・サリヴァンのような近代建築家は、進歩的なシカゴでこうした伝統的建築様式が選ばれたことを大いに嘆いた。しかし、この博覧会では、日本が平等院鳳凰堂と類似した「鳳凰殿」(図8)とい

## Expo Architecture has Led the Modern Era

う名称の施設が展示されていた。サリヴァンの弟子であったフランク・ロイド・ライトは、この日本建築が持つ水平な屋根の構成、自然と一体になった行まいに大きな触発を受けて、独自の外観と空間を備えた住宅を生み出して近代建築を先導することになる。シカゴは、次の万国博覧会(1933年)では、「進歩の一世紀」という通称を掲げ、

進歩主義的な方向を目指すことになる。この万博は統一テーマを掲げた最初の万博となった。

第二次世界大戦後になると、欧米各都市で、盛んに万国博覧会が開催される。その中で、1960年代までは、特に北米での展覧会が影響力をもった。シアトル万国博覧会(1962年、図9)は、「宇宙時代の人類」をテーマとして、シアトルのシンボルタワーになるスペース・ニードルおよび交通機関であるシアトル・センター・モノレールを建設することで、博覧会と都市拡張を連携した博覧会を目指した。ニューヨーク万国博覧会(1964年、図10)は、一年半に渡り開催される「アメリカ史上最大規模の万博」と銘打ち、アメリカの大企業中心のパビリオン群は莫大な費用をかけて宣伝効果を高めた。そこでは、万博の商業主義的性格が顕著となった。

モントリオール万国博覧会(1967年、図11、12)では、バックミンスター・フラー設計のアメリカ館「バイオスフェア」、モシェ・サフディ設計の住居ユニットを段上に積み上げた集合住宅「ハビタ67」、芦原義信設計の校倉作りをモチーフとした日本館、など、多くの優れた建築デザインが生まれた。

1970年日本万国博覧会は、そうした革新的な建築デザインの実験場としての博覧会の性格を引継ぐとともに、アジア初の万国博覧会として、万国博覧会がより世界に広まる大きな契機となる役割を果たすことになる。

実は、日本万国博覧会の30年前の1940年に紀元二千六百年記念日本万国博覧会(図13、14)の開催が準備されていた。実現はしなかったが、東京湾に面する月島と横浜を敷地として、壮大な計画が進められていたのである。具体的な会場計画、展示館の設計競技の実施、展示品の検討など、計画はかなり具体的に進んでいた。しかし、1940年東京オリンピック計画同様、日々激化する戦争のゆえに、実現することはなかった。設計競技で上位に選ばれた展示館(図15)は、当時の日本の伝統主義デザインを反映している。1940年と1970年の間の30年という時間を経て、日本における万国博覧会は、国粋主義から、技術主義、進歩主義、未来主義的な建築表現へと進化を遂げたのであった。



シカゴ万国博覧会(1893年) | 出典: The Book of the Fair at 1893  
The Chicago World Fair 1893 | Source: Hancock, H. H., The Book of the Fair at 1893  
Reprinted from National Diet Library Website



セントルイス万国博覧会(1904年) | 出典: The Book of the Fair at 1904  
The St. Louis World Fair 1904 | Source: Hancock, H. H., The Book of the Fair at 1904  
Reprinted from National Diet Library Website



シアトル万国博覧会(1962年) | 写真提供  
The Space Needle at 1962 | Photo by the author



ニューヨーク万国博覧会(1964年) | 写真提供  
The USA New York World Fair 1964 | Photo by the author



バイオスフェア、モントリオール万国博覧会(1967年) | 写真提供  
The Biosphere at 1967 | Photo by the author



「ハビタ67」、モントリオール万国博覧会(1967年) | 写真提供  
Habitat 67, Montreal World Fair 1967 | Photo by the author



紀元二千六百年記念日本万国博覧会計画、鳥居清信  
出典: 紀元二千六百年記念日本万国博覧会計画、鳥居清信  
紀元二千六百年記念日本万国博覧会計画、鳥居清信  
Outline of the plan for the 2600th anniversary of Japan's founding



紀元二千六百年記念日本万国博覧会計画、鳥居清信  
出典: 紀元二千六百年記念日本万国博覧会計画、鳥居清信  
紀元二千六百年記念日本万国博覧会計画、鳥居清信  
Outline of the plan for the 2600th anniversary of Japan's founding



紀元二千六百年記念日本万国博覧会計画、鳥居清信  
出典: 紀元二千六百年記念日本万国博覧会計画、鳥居清信  
紀元二千六百年記念日本万国博覧会計画、鳥居清信  
Outline of the plan for the 2600th anniversary of Japan's founding

大型パネル「謝辞」 | 1456H×1030W | 1式

謝 辞

本展覧会の開催にあたり、下記の機関、関係者各位にご協力を賜りました。  
深く感謝を申し上げます。(敬称略、50音順)

石川 敦子	田路 貴浩	愛・地球博記念公園管理事務所
宇野 求	塚本 二郎	一般財団法人 地球産業文化研究所
上田 清隆	橋本 功	一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー
大関 慶	前田 尚武	大阪府 日本万国博覧会記念公園事務所
大高 真紀子	村田 あが	沖縄県公文書館
川添 歩	三谷 彰一	株式会社 講談社
菊竹 三訓	山田 実紀子	株式会社 坂倉建築研究所
菊竹 雪	山本 敬則	株式会社 情報建築
嶋田 裕子		株式会社 TANGE建築都市設計
杉浦 一徳		株式会社 東京印書館
鈴木 明		株式会社 乃村工藝社
鈴木 有介		株式会社 前川建築設計事務所
スミス 睦子		公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会
高橋 真		公益財団法人 つくば科学万博記念財団

撮影者名を含む写真のクレジットは、写真のキャプションに記しました。  
一部著作権者未詳の写真について、写真の諸権利をお持ちの  
個人または団体は、文化庁国立近現代建築資料館までご連絡ください。

Photography credits are indicated in captions.  
As some of the pictures were taken by unknown photographers, we kindly ask any individuals or organizations  
who have the rights thereof to contact National Archives of Modern Architecture, Agency of Cultural Affairs.

日本の万国博覧会 1970—2005

第1部	EXPO'70 技術・デザイン・芸術の融合 会期 2025年3月8日～5月25日
第2部	EXPO'75以降 ひと・自然・環境へ 会期 2025年6月14日～8月31日
主催	文化庁
協力	公益財団法人 東京都公園協会
企画	文化庁国立近現代建築資料館

企画・解説・資料担当  
小林克弘／主任建築資料調査官 [KK]  
王聖美／研究補佐員 [OS]  
川瀬優／研究補佐員 [KY]  
秋岡安季／研究補佐員 [AA]  
齋藤藤那／研究補佐員 [SN]

運営  
山崎智紀／副館長  
橋本純／主任建築資料調査官  
Lambiasi James／主任建築資料調査官  
平川千絵子／事務補佐員  
室田恵美／事務補佐員  
北島真希子／事務補佐員

翻訳  
Thomas DANIELL  
  
グラフィックデザイン  
成田可奈子 森田尚恵  
藤井北斗 董懿萱／MIDORIS

制作・設営  
株式会社 SDアート  
吉原聖／Sei movie studio  
株式会社 芸宣  
株式会社 トップアート鎌倉  
合同会社 サムサラ

警備・美観管理  
株式会社 新東美装



## 第2部 大型パネル「謝辞」 | 1456H×1030W | 1式

### 謝 辞

本展覧会の開催にあたり、下記の機関、関係者各位にご協力を賜りました。  
深く感謝を申し上げます。(敬称略、50音順)

石川 敦子	田路 貴浩	愛・地球博記念公園管理事務所	建築・都市ワークショップ
宇野 求	塚本 二郎	一般財団法人 地球産業文化研究所	佐藤工業株式会社
上田 清隆	橋本 功	一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー	鈴木了二
大関 慶	前田 尚武	大阪府 日本万国博覧会記念公園事務所	八束はじめ
大高 真紀子	村田 あが	沖縄県公文書館	Coop Himmelb(l)au
川添 歩	三谷 彰一	株式会社 講談社	Martínez Lapeña - Torres Architects
菊竹 三訓	山田 実紀子	株式会社 坂倉建築研究所	Morphosis
菊竹 雪	山本 敬則	株式会社 情報建築	Peter Wilson
嶋田 裕子		株式会社 TANGE建築都市設計	Studio Andrea Branzi
杉浦 一徳		株式会社 東京印書館	
鈴木 明		株式会社 乃村工芸社	
鈴木 有介		株式会社 前川建築設計事務所	
スミス 睦子		公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会	
高橋 真		公益財団法人 つくば科学万博記念財団	

撮影者名を含む写真のクレジットは、写真のキャプションに記しました。  
一部著作権者未詳の写真について、写真の諸権利をお持ちの  
個人または団体は、文化庁国立近代建築資料館までご連絡ください。

Photography credits are indicated in captions.  
As some of the pictures were taken by unknown photographers, we kindly ask any individuals or organizations  
who have the rights thereof to contact National Archives of Modern Architecture, Agency of Cultural Affairs.

### 日本の万国博覧会 1970-2005

第1部	EXPO'70 技術・デザイン・芸術の融合 会期 2025年3月8日～5月25日
第2部	EXPO'75以降 ヒト・自然・環境へ 会期 2025年6月14日～8月31日
主催	文化庁
協力	公益財団法人 東京都公園協会
企画	文化庁国立近代建築資料館

企画・解説・資料担当  
小林克弘／主任建築資料調査官 [KK]  
王聖美／研究補佐員 [OS]  
川瀬優／研究補佐員 [KY]  
秋岡安季／研究補佐員 [AA]  
冨藤菜那／研究補佐員 [SN]

運営	185
山崎智紀／副館長	
橋本純／主任建築資料調査官	
松本文夫／主任建築資料調査官	
平川千絵子／事務補佐員	
室田恵実／事務補佐員	
増田悠子／事務補佐員	125

翻訳  
Thomas DANIELL  
  
グラフィックデザイン  
成田可奈子 森田尚恵  
藤井北斗 重盛寛／MIDORIS

制作・設営  
株式会社 SDアート  
吉原聖／Sei movie studio  
株式会社 芸宣  
株式会社 トップアート鎌倉  
合同会社 サムサラ

警備・美観管理  
株式会社 新東美装

# 1970 Osaka 日本万国博覧会 (大阪万博／EXPO '70)

1964年9月1日、東京オリンピック直前に博覧会調査室が設けられ、万博誘致が本格化する。翌年4月に候補地が千里丘陵に一本化され、9月に1970年万博の大阪開催が決定した。1970年3月1日の開会まで、5年半の急造事業だった。

企画は統一テーマの検討から始まった。1965年9月1日に第1回テーマ委員会が開催され、10月25日の第4回委員会でテーマ「人類の進歩と調和」が決定した。第3回委員会で、桑原武夫副委員長が「人類協和の喜ばしい一つの広場が出現するであろう」と述べ、これが「お祭り広場」へとつながる。

統一テーマが決定するやいなや、万国博協会は1965年11月に西山卯三を中心とする京都大学グループに基礎調査を委嘱し、1966年2月に大部の報告書が提出された。これと並行して1965年12月に会場計画委員会が発足し、西山と丹下健三が会場計画原案作成者に指名される。計画の前半は西山を中心に進められ、1966年4月に第一次案、5月に第二次案が提出され、6月初旬から丹下が引き継ぎ、10月に最終案が了承された。そもそも万博は最新技術のエキスポジョンであったが、大阪万博は人間と人間の交流のためのフェスティバルと位置づけられ、お祭り広場を中心とすることになった。

東西を貫く新造の幹線道路によって二分された会場は、北はパヴィリオン・エリア、南は娯楽エリアとされる。両エリアは幅150m、長さ1kmのシンボルゾーンでつながれ、そこにテーマ「人類の進歩と調和」の表現として「お祭り広場」、「太陽の塔」、演出用ロボット、美術館、劇場などが配された。シンボルゾーンから四方に延びる装置道路(動く歩道)が四方に延び、東西南北のゲートに至る。地形はゆるいすり鉢状に造成され、最低部には東西に長い人工湖、その周辺には小規模パヴィリオン、外周部に大規模パヴィリオンと配置され、観覧者の分散が図られる。幹となるシンボルゾーンと枝となる装置道路が基幹構造となり、その周囲に百花繚乱のパヴィリオン群が同心円状に展開する。こうして会場は、丹下の言う「構造的なアプローチ」によって計画された。

田路 貴浩

京都大学大学院 工学研究科 建築学専攻 教授



図1 大阪万博日本万国博覧会会場の概観図

出典: 田路 貴浩「大阪万博日本万国博覧会会場の概観図」(1970年)



図2 大阪万博日本万国博覧会会場の概観図

出典: 田路 貴浩「大阪万博日本万国博覧会会場の概観図」(1970年)



図3 大阪万博日本万国博覧会会場の概観図

出典: 田路 貴浩「大阪万博日本万国博覧会会場の概観図」(1970年)

会期	昭和45年(1970年) 3月15日～9月13日(183日間)
場所	大阪千里丘陵(約350ha)
テーマ	人類の進歩と調和
参加国	77か国(日本を含む) 4国際機関
総入場者数	6,422万人

Date	15/03/1970 - 13/09/1970
Venue	Osaka
Theme	Progress and Harmony for Mankind
Participants	77
Visitors	64,218,770

## Japan World Exposition, Osaka 1970

The Japan World Exposition Association was established on 1 September 1964, just prior to the Tokyo Olympics, allowing the bid to host the Expo to begin in earnest. In April of the following year, the candidate sites were narrowed down to Senri Hills, and in September the decision was made to hold the 1970 World's Fair in Osaka.

Planning began with the consideration of a unifying theme. The first meeting of the Theme Committee was held on 1 September 1965, and the theme, "Progress and Harmony for Mankind" was decided upon at the fourth meeting of the Committee, on 25 October 1965. At the third committee meeting, Takeo Kuwahara, vice chairman of the committee, stated that "a joyous square of human harmony should emerge," and this led to the Festival Plaza.

Once the unifying theme was decided, in November 1965 the Expo Association commissioned a basic survey to a group at Kyoto University led by Uzo Nishiyama, and the bulk of their report was submitted in February 1966. Concurrently, a venue planning committee was launched in December 1965, with Nishiyama and Kenzo Tange appointed to create a draft proposal for the venue plan. The early part of the planning was led by Nishiyama, and a first draft was submitted in April 1966, followed by a second draft in May. Tange took over in early June, and the final draft was approved in October. From the outset, it was intended to be an exposition of the latest technology, but Expo '70 was also to be a festival for interactions between people, and so it became centered on the Festival Plaza.

Bisected by a newly built east-west highway, the venue was divided into the Pavilion Area to the north and the Entertainment Area to the south. These two areas were connected by the 150-meter-wide and one-kilometer-long Symbol Zone, within which the Festival Plaza, Tower of the Sun, staging robots, a museum, and a theater were arranged so as to express the theme of "Progress and Harmony for Mankind." Moving walkways extended from the Symbol Zone to the east, west, north, and south gates. The topography of the site was given a gentle bowl shape, with a long, east-west artificial lake set at the lowest point. Small-scale pavilions were located around its edge, and larger pavilions were placed at the periphery, to disperse visitors. The trunk-like Symbol Zone and the branch-like service roads formed the essential structure, around which blossom-like pavilions were arrayed in concentric circles. The venue was thus planned according to what Tange called a "structural approach."

TAJI Takahiro

Professor,  
Department of Architecture and Architectural Engineering,  
Kyoto University Graduate School of Engineering



1975

Okinawa

## 沖縄国際海洋博覧会 (沖縄海洋博／EXPO '75)

沖縄国際海洋博覧会は、「海—その望ましい未来」をテーマに、海洋資源の保護や活用を探ることを目的に開催。万国博覧会史上初の「海」をテーマとする国際博覧会条約(BIE)による特別博であり、1972年の沖縄返還を記念し、沖縄の発展を象徴する事業として計画された。会場は約100ヘクタールの広大な敷地に広がり、自然環境との景観を重視し、博覧会全体を通じて海洋の可能性や未来への展望を示した。さらに地域文化と調和を図り、沖縄らしさを体現していた。会場は「海に親しむ」をテーマとする「魚のクラスター」、「海に生きる」をテーマとする「民族・歴史のクラスター」、「海に開く」をテーマとする「科学・技術のクラスター」、および「海を行く」をテーマとする「船のクラスター」の4つのゾーンで構成。これらのゾーンはそれぞれ異なる視点から海洋の文化、歴史、技術を紹介し、多様な展示が来場者の関心を引いた。中央エリアには「沖縄館」や「海洋文化館」などが配置され、海洋や自然に関する展示やイベントを通じて、来場者に海の魅力を伝えることを目指した。また、建築には現代的な構造技術が取り入れられる一方で、沖縄の伝統建築や自然素材を活用し地域性を強調。さらに博覧会の象徴的存在として注目を集めたのが、菊竹清訓が手がけた海上に浮かぶ建築「アクアポリス」である。これは、菊竹が生涯追求した海洋都市構想を初めて具現化した実験的建築であり、当時の技術力と未来への可能性を示す象徴的な存在であるとともに、建築そのものが展示として来場者に空間体験を提供した。博覧会終了後、会場は「海洋博公園」として整備され、現在では沖縄観光の拠点となっている。中でも「沖縄美ら海水族館」は、博覧会の理念を受け継ぎ、世界有数の規模を誇る施設として多くの来訪者を集めている。この博覧会が残した遺産は、今なお地域振興と観光発展に寄与する重要な役割を果たし続けている。

前田 尚武

京都美術工芸大学特任教授



会場：沖縄国際海洋博覧会会場「沖縄国際海洋博覧会会場」(沖縄県那覇市)



会場：沖縄国際海洋博覧会会場「沖縄国際海洋博覧会会場」(沖縄県那覇市)



会場：海洋文化博物館

会期 | 昭和50年(1975年)  
7月20日～1月18日(183日間)  
場所 | 沖縄(約100ha)  
テーマ | 海—その望ましい未来  
参加国 | 36か国(日本を含む) 3国際機関  
観入場者数 | 349万人

Date | 20/07/1975 - 18/01/1976  
Venue | Okinawa  
Theme | The Sea We would like to See  
Participants | 36  
Visitors | 3,485,750

## International Ocean Exposition, Okinawa 1975

With the theme of "The sea we would like to see," Expo '75 was held in order to explore the protection and utilization of marine resources. Planned under the auspices of the Bureau International des Expositions (BIE), it was the first specialized expo with a "sea" theme in the history of World's Fairs, and was intended to commemorate the reversion of Okinawa to Japan in 1972, and to symbolize the development of Okinawa. The venue was spread over an expansive site of approximately 100 hectares, emphasizing the natural environment and landscape. Throughout the Expo, the ocean's potential and future prospects were demonstrated. Furthermore, it was intended to harmonize with the local culture, expressing Okinawan characteristics. The venue was divided into four zones: the Fish Cluster with the theme of "Enjoying the Sea," the Peoples and History Cluster with the theme of "Living with the Sea," the Science and Technology Cluster with the theme of "Developing the Sea," and the Ship Cluster with the theme of "Man Plies the Seas." Each of these zones introduced maritime culture, history, and technology from different perspectives, and the diversity of exhibits attracted visitors' attention. The Okinawa Pavilion and Marine Culture Pavilion were arranged in the central area, with the intention of conveying to visitors the allure of the oceans through exhibitions and events related to the ocean and nature. While the architecture comprised modern structural technology, there was an emphasis on regional characteristics through the use of traditional Okinawan architecture and natural materials. The symbolic presence of the Expo was the Aquapolis, a conspicuous work of architecture floating on the sea, designed by Kiyonori Kikutake. This experimental architecture was the first manifestation of the concept of a marine city that Kikutake had pursued throughout his life. As well as being a symbolic presence that demonstrated the technological capabilities of the era and the possibilities for the future, the architecture itself was an exhibit that provided visitors with a spatial experience. Following the Expo, the venue has been maintained as Ocean Expo Park, which is currently a tourism hotspot in Okinawa. The Okinawa Churaumi Aquarium has continued the philosophy of the Expo and is one of the largest aquariums in the world, attracting many visitors. The legacy of the Expo continues to play an important role in contributing to local development and tourism.

MAEDA Naotake

Specialty Appointed Professor,  
Kyoto Arts and Crafts University



1985

Tsukuba

## 国際科学技術博覧会

(つくば科学万博／Tsukuba Expo '85)

1978年に科学技術庁がエネルギー問題を中心とした科学技術博覧会構想を立案し、1981年に、「人間・居住・環境と科学技術」を統一主題とする特別博として認定され実現に至った。会場は、現つくば市内の第一会場(メイン)と第二会場(サブ)から成る。当時の筑波研究学園都市は、交通の便が悪かったため、この国際科学技術博覧会開催に際して、鉄道および道路の整備を行うことで、この地域の今後の発展に貢献することも意図された。

第一会場は、AからHまでの8ブロックから成る。ほぼ中央に位置するEブロックが会場全体の要であり、その中を流れるように、曲線的な平面形を持った「子ども広場」が設けられた。この広場を緩く取り囲む形に、高さ42メートルのシンボルタワーを備えた政府館や歴史館が配置され、すぐ北側にはBブロックの外国展示館があり、博覧会の中心のエリアを形成した。子ども広場では、「科学する心を育む」というテーマの下に、機械仕掛けの動物で遊べる「メカ動物園」、無限の合わせ鏡エリアなどを備える「おもしろチューブ」、タイルで作った直径40mの1/10万の「日本地図」などが配置された。

Eブロックの道を挟んだ西側にDブロックのエキスポプラザ(5000人収容)があり、屋根付きのイベント・集客施設をして機能した。Dブロックのエキスポプラザ西側大半は、ぼっちゃん湖を中心とするエキスポパークという名の自然公園が計画された。

A、F、B、Gブロックは、通路を挟んで施設を並べるという配置計画であり、通路にはそれぞれ名称が付されていた。先行する日本万国博覧会に見られた、各パビリオンが目立つことを競い合うという光景ではなく、街路に沿った街並みを形成するという計画手法が意図されたことがわかる。

現在では、第一会場は、大半が筑波西部工業団地となっているが、Dブロックは、科学万博記念公園となっており、シンボルタワーを縮小した形で継承する塔状のオブジェを備える。

第二会場のつくばエキスポセンターは、現在つくばエクスプレスのつくば駅の近くという好立地を生かして、科学館として活用として活用されている。その1階に科学万博つくば'85メモリアルが設けられており、博覧会全体の模型、写真、資料、グッズなどを見ることができる。

小林 克弘

当館主任建築資料調査官 / 筑波大学名誉教授



図解：公園緑地部人・つくば科学万博記念館



図解：公園緑地部人・つくば科学万博記念館



図解：公園緑地部人・つくば科学万博記念館

会期 | 昭和60年(1985年)  
3月17日～9月16日(184日間)

場所 | 筑波研究学園都市(約100ha)

テーマ | 人間・住居・環境と科学技術

参加国 | 48か国(日本を含む) 37国際機関

総入場者数 | 2,033万人

Date | 17/03/1985 - 16/09/1985

Venue | Tsukuba Japan

Theme | Dwellings and surroundings - Science and Technology

for Man at Home

Participants | 48

Visitors | 20,334,727

## The International Exposition, Tsukuba Japan 1985

In 1978, the Science and Technology Agency proposed the idea of a science and technology exposition focused on energy issues, which was authorized and implemented in 1981 as a special expo with the unifying theme of "Dwellings and Surroundings - Science and Technology for Man at Home." The venue consisted of the first (main) venue and second (sub) venue in what is now Tsukuba City. At that time, Tsukuba Science City had poor transportation access, so the construction of railways and roads for holding Expo '85 was intended to contribute to the subsequent development of the region.

The first venue comprised eight blocks, designated A to H. Located almost in the center, Block E was the focal point of the entire venue, and the Children's Plaza, with its curvilinear plan, seemed to flow through it. The History Pavilion and Theme Pavilion, with its 42-meter-high Symbol Tower, were loosely arranged around the Plaza, and located just to the north in Block B were the foreign exhibition pavilions, forming the central area of the Expo. Under the theme of "fostering a scientific mind," the Children's Plaza contained a "Mecha Zoo" for playing with mechanical animals, a "Fun Tube" installed with an infinite array of mirrors, and a 40-meter-diameter, 1,100,000 scale "Map of Japan" made of tiles.

On the west side, across the street from Block E, was the Expo Plaza (5,000-person capacity) in Block D, which functioned as a roofed event and visitor facility. Most of the west side of the Expo Plaza in Block D was planned as a nature park named Expo Park, centered on Botchan Lake.

Blocks A, F, B, and G were laid out with facilities arranged between the paths, and each path was given a name. Clearly, the intention was not to have the pavilions compete for prominence, as had been the case at earlier World's Fairs in Japan, but rather a planning method that would form a townscape along the streets.

Currently, most of the first venue has become the Tsukuba Seibu Industrial Park, but Block D is the Science Expo Memorial Park, containing a tower-like sculpture that is a smaller version of the Symbol Tower.

The Tsukuba Expo Center in the second venue is currently being used as a science museum, taking advantage of its convenient location near Tsukuba Station on the Tsukuba Express line. The Expo Tsukuba '85 Memorial is located on the first floor, where a model of the entire expo, as well as photographs, documents, and other items can be viewed.

KOBAYASHI Katsuhiro

Chief Senior Specialist for Architectural Documents / Emeritus Professor, Tokyo Metropolitan University

1990

Osaka

## 国際花と緑の博覧会 (花博／EXPO '90)

1984年、建設省は「21世紀緑の文化形成をめざして」において、国際協調の一環とする緑の国際フェスティバル開催を提案した。市政100年記念行事に国際規模の都市緑化フェア「花の博覧会」の準備を進めていた大阪市は、建設省構想に合わせ特別博を開催したい旨を表明した。これら提案を受けた政府は、1986年5月、「国際花と緑の博覧会」の開催を博覧会国際事務局に申請、同年6月の承認を経て、1990年の実現にいたった。

会場敷地は「鶴見緑地」。1941年都市計画決定した元防空緑地162ha。かつて高射砲台が点在した地は、戦後には低湿地にレンコンなどが栽培された。1972年には都市廃棄物残土で地盤を嵩上げた標高45mの「鶴見新山」に多種の樹木と花が植えられ、市民に親しまれてきた。

「東洋初の大国際園芸博覧会」とされる花博会場の特色は、敷地北の起伏ある「山のエリア」に配された55の「国際庭園」。世界の国々と都市の庭園文化、来場者が起伏ある園路散策を楽しみながら見学する屋外展示が特色である。総合プロデューサーは、小松左京、泉真也、磯崎新。

会場中央の人工湖「いのちの海」の南に「花栈敷」、「野原のエリア」および、中央ゲートに続く「国際友好広場」と「祭り的大通り」周囲とし、博覧会のテーマ展示・各種イベントを催す「国際陳列館」、屋内に各種植物を配した「水の館」と「大地の館」、短期展示の「光の館」、大温室建築「咲くやこの花館」、大阪府出展「いちよう館」など大型建築を集めた。内外企業出展の多様な意匠のパビリオンは会場西に「街のエリア」を形成した。

「フォーリー広場」に配置した13の小建築「フォーリー」は、磯崎新とアルヴィン・ホヤースキーのコミッションで招待された世界の若手建築家設計による。回遊式日本庭園の東屋(あずまや)と同じく特定の機能を持たない、西洋庭園の風景式庭園の点景となる建築類型である。会期中、設計者による建築ツアー、国際シンポジウムが開催された。

鈴木 明

近現代建築論、工学博士



図解：国際花と緑の博覧会会場敷地図  
Expo '90 Site Map



図解：国際花と緑の博覧会会場敷地図  
Expo '90 Site Map



図解：国際花と緑の博覧会会場敷地図  
Expo '90 Site Map

会期	平成2年(1990年) 4月1日～9月30日(183日間)
場所	大阪鶴見緑地(約105ha)
テーマ	花と緑と生活の係わりを捉え21世紀へ向けて開く ある社会の創造を目指す
参加国	83か国(日本を含む)4国際機関、37国際機関、 18園芸関係等の国際団体
総入場者数	2,312万人
Date	1/04/1990 - 30/09/1990
Venue	Osaka
Theme	The Harmonious Coexistence of Nature and Mankind
Participants	83
Visitors	23,126,934

## The International Garden and Greenery Exposition, Osaka, Japan 1990

In 1984, the Japanese Ministry of Construction proposed holding an international green festival as a part of its international cooperation policy titled "Toward the Formation of Green Culture in the 21st Century." The municipal government of Osaka City was then preparing to hold an international urban green fair, called Flower Expo, to commemorate its centennial, and declared the intention to hold a special exposition in conjunction with the Ministry of Construction. In response to these proposals, in May 1986 the Japanese government applied to the Bureau International des Expositions to hold the International Garden and Greenery Exposition. Approval was received in June that year, and then implemented in 1990.

The site of the Expo was Tsurumi Ryokuchi, a 162-hectare green area that was formerly used for air defense, and was in 1941 designated as an urban planning area. Once dotted with anti-aircraft gun emplacements, after the Second World War it became a marshy lowland where lotus roots and other crops were cultivated. In 1972, excavated urban waste was used to raise the ground to an elevation of 45 meters, and this "Tsurumi Shinzan" was planted with a variety of trees and flowers for the enjoyment of citizens.

Said to be "the first major international horticultural exposition in Asia," the Expo venue featured 55 "international gardens" located in the undulating Mountain Area on the north side of the venue. It also featured outdoor exhibits of garden cultures from various countries and cities around the world, which visitors could enjoy while strolling along the undulating garden paths. General producers are Sakyo Komatsu, Shinya Izumi and Arata Isozaki.

The Floracade Circus and the Field Area were south of an artificial lake at the center of the venue, called Sea of Life, and the International Friendship Square and Festival Avenue leading to the central gate were surrounded by large-scale works of architecture that included the International Friendship Pavilion, which hosted the Expo's theme exhibitions and various events, the Aqua Hall and the Terra Hall, which were filled with various indoor plants, the Lux Hall, which hosted short-term exhibitions, the Sakuya Konohana Kan, a large greenhouse, and the Gingko Pavilion, presented by the Osaka Prefectural Government. Pavilions of diverse designs by Japanese and international exhibitors formed a City Area on the west side of the venue.

Thirteen small architectural follies were dispersed throughout the Follies Plaza, designed by young architects from around the world who were invited by Arata Isozaki and Alvin Boyarski as commissioners. Like the arbors in a Japanese stroll garden, they did not have specific functions, but were a type of architecture that provides incidental details in a Western landscape garden. During the Expo, there were architectural tours given by the designers, as well as an international symposium.

SUZUKI Akira

Theory of Modern and Contemporary Architecture,  
Dr. Eng.



# 2005 Aichi 日本国際博覧会 (愛・地球博／愛知万博／EXPO 2005)

愛・地球博は、そのタイトルに「愛」と「地球」を掲げ、環境問題への関心を喚起することを意図していた。名古屋は古くから交通の要衝として栄え、愛知県は現代のグローバル製造業が集積する地域である。

会場は、工業地帯でありながら自然豊かな愛知県が選ばれ、パビリオンは自然との共生をテーマに設計された。20世紀の万博が都市と産業の発展をテーマとしてきたのに対し、愛知万博は、地球環境の健全な発展を重視し各パビリオンも地域性と環境への配慮を競い合った。

会場には、多くの国々のパビリオンと民間企業のパビリオンが出展され、先端技術や環境問題に関する展示が行われた。中でも、トヨタグループ館はプライベートモビリティやロボットなどの技術による未来都市を展示し、プレハブ住宅の技術を応用し再利用可能な構造で設計され、環境への負荷を低減した仮設建築とされた。トヨタグループ館のプレハブ構造や、独立パビリオンの両国国旗の色彩と図柄を大きく掲げるグラフィック表現を用いたシンプルなデザインや仮設的な建築構造やリサイクル素材の活用など、パビリオンが環境への配慮を表す建築とされたことにこの万博の特色を見ることができる。

一方、環境問題への関心の高まりとは裏腹に、博覧会全体として自然と技術の融合というテーマを十分には実現、表現しきれていなかったという指摘もあったとされている。森の中の空中回廊という構想は、会場の造成で樹木が伐採されて、平地のオープンなウォークウェイとしてしか実現しなかったことなどが惜まれる。地球環境問題が気候変動に大きな影響を与えて世界各地で自然災害が増加傾向にあるなど環境問題の解決が喫緊の主題となるなか、博覧会は技術や製品の国際展示会にとどまらず持続可能な社会の実現に向けた具体的な提案を示す場としての役割を担うようになったのだといえる。愛・地球博は、21世紀に至って万博のあり方の方向性が転換した万博であり建築の役割も変わっていくことを示した万博だったといえることができる。

博覧会終了後は、愛・地球博記念公園(愛称「モリコロパーク」)として利用され、2022年には公園内にジブリ・パークが開設した。

宇野 求

東京理科大学 工学部 建築学科 嘱託教授

## The 2005 World Exposition, Aichi, Japan

With "Love" and "Earth" in its title, the Aichi Expo [in Japanese, aichi literally means "love-earth" - translator] was intended to stimulate interest in environmental issues. Nagoya City has long flourished as a major transportation hub, and Aichi Prefecture is home to many of today's global manufacturing industries. Aichi Prefecture, an industrial area rich in nature, was chosen for the venue, and the pavilions were designed around the theme of coexistence with nature. While twentieth century expos have taken urban and industrial development as their themes, the Aichi Expo was defined by an emphasis on harmony with the natural environment, and healthy development of the global environment, so each pavilion competed to show consideration for regional characteristics and environment.

The venue contained pavilions from many nations as well as pavilions from private companies, with exhibits related to advanced technologies and environmental issues. The Toyota Group Pavilion presented a futuristic city based on private mobile and robot technologies in a pavilion designed with a reusable structure based on prefabricated housing technology, resulting in a temporary structure with a reduced environmental impact. The prefabricated structure of the Toyota Group Pavilion and the simple design of the Franco-German Pavilion, with its large graphic representation of the colors of the flags of those two countries, as well as its temporary architectural structure and use of recycled materials, can be seen as exemplifying how the pavilions architecturally expressed the consideration for the environment that characterized this Expo.

On the other hand, despite the growing interest in environmental issues, it has been pointed out that the theme of merging nature and technology was not fully implemented or expressed in the Expo as a whole. Regrettably, due to the felling of trees during the preparation of the venue, the concept of a floating path through the forest was implemented as nothing more than an open walkway on flat land. As global environmental problems have a major impact on climate change, natural disasters are increasing all over the world, and solving environmental problems has become a pressing issue, so World's Fairs are not only international exhibitions of technologies and products, but also serve as venues for presenting concrete proposals for the realization of a sustainable society. "Love-Earth" Expo 2005 marked a turning point in the direction of World's Fairs for the twenty-first century, and was also a demonstration of the changing role of architecture.

After the exposition ended, the site became known as Expo 2005 Aichi Commemorative Park (nicknamed "Morikoro Park"), and in 2022, Ghibli Park was opened within its grounds.

UNO Motomu

Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Tokyo University of Science



会期	平成17年(2005年) 3月25日～9月25日(185日間)
場所	愛知県瀬戸市南東部、豊田市、長久手町(約173ha)
テーマ	自然の恵み
参加国	121か国(日本を含む) 4国際機関(国連は国連本部を含む33の国連関係機関を含む)
総入場者数	2204万9544人
Date	25/03/2005 - 25/09/2005
Venue	Aichi Japan
Theme	Nature's Wisdom
Participants	121
Visitors	22,049,544



## 作品解説パネル | 1100H×400W | 6式

エキスポタワー  
Expo Tower

1970	
設計	菊竹清訓
構造設計	松井源吾
構造	鋼管構造
高さ	127m
敷地面積	25474m <sup>2</sup>
建築面積	176m <sup>2</sup>
延床面積	709m <sup>2</sup>

この万博シンボルタワーは、北端の日本庭園入口から、お祭り広場・太陽の塔・万国博協会ビルへと、会場内を南北に伸びる都市軸(シンボルゾーン)の南端部の丘に建てられた。上部の2層の展望台からは、会場全体を眺めることができ、報道や警備関係の無線中継基地としても利用された。

構造は、一辺10.8mの正三角形平面の角から垂直に伸びる3本の鋼管主柱による立体トラス構造であり、高さ60mから85mに設置される直径約10mの大型キャビン4個と直径約7mの小型キャビン3個からなる多面体キャビン群を地上で組立て、塔の上部に運んで設置するというメタボリズムの発想で作られた。

実現に至るには多くの紆余曲折を経た。1966年10月に展望台を含むタワー計画が始まり、当初案は高さ130mから180mに回転展望台・ロープウェイ乗降駅を設けるものであった。1967年には400mの高さの案や380mの回転展望台付きタワーなどの提案がなされたが、航空路に配慮して180m程度を限度とすることが決められた。1968年3月には菊竹清訓による高さ170mの四本柱構造の設計案が作成されたものの入札不調に終わり、急遽3本柱で高さ127mに縮小するという設計変更を行って、1968年7月に着工に至った。本展で展示している四本柱案を見ると、実現案よりもさらに立体的でダイナミックな造形であったことがわかる。

1990年2月まで一般公開されていたが、老朽化により取り壊された。タワー展望室の一部はEXPO'70パビリオン前に展示されている。[KK]



図2 大阪府立・万国博覧会記念公園事務所  
Location of Osaka Prefecture Expo '70 Commemorative Park Office



Design	KIKUTAKE Kiyonori
Structure	MAITUSI Gengo (Structure)
Height	127m
SA	25474m <sup>2</sup>
BA	176m <sup>2</sup>
TFA	709m <sup>2</sup>

The Expo's symbolic tower was built on a hill at the southern end of the urban axis (Symbol Zone) that stretched north-south across the venue, from the Japanese Garden entrance at the northern end, through to the Festival Plaza, Tower of the Sun, and Expo Association Building. The two-level observation deck at the top provided a view of the entire venue, as well as being used as a radio relay station for press and security.

Built using the concepts of Metabolism, the structure was a three-dimensional truss that comprised three steel-pipe primary columns extending vertically from the corners of an equilateral triangular plan, measuring 10.8 meters per side, and a group of polyhedral cabins consisting of four larger cabins of 10 meters in diameter and three smaller cabins of 7 meters in diameter, assembled on the ground then raised to the upper part of the tower and installed at heights ranging from 60 to 85 meters.

The implementation of the project underwent many twists and turns. In October 1966, planning began for a tower including an observation deck, and the initial proposal was for a height of 130 to 180 meters with a revolving observation deck and ropeway station. In 1967, proposals for a 400-meter-high tower and a 380-meter tower with a revolving observation deck were submitted, but in consideration of air traffic it was decided to limit the height to about 180 meters. In March 1968, a design proposal by Kikutake Kiyonori for a structure comprising four 170-meter-high columns was cancelled when the tender process failed. The design was hastily changed to a structure comprising three 127-meter-high columns, and construction began in July 1968. The four-column proposal included in this exhibition reveals that it would have had an even more sculptural and dynamic form than the realized design.

The tower was open to the public until February 1990, when it was dismantled due to dilapidation. Part of the tower's observation deck is on display in front of the Expo '70 Pavilion.

メインゲート  
(中央口)  
Main Gate

1970	
設計	大高正人
構造設計	木村俊彦
構造	プレキャスト コンクリート、 鉄骨構造、 鉄筋コンクリート造
高さ	12.84m
建築面積	17800m <sup>2</sup>
延床面積	25000m <sup>2</sup>

シンボルゾーンに配置されたメインゲートは、日本万国博覧会会場の主玄関であり、鉄道と道路が通る谷で二分された会場の北ブロックと南ブロックとをつなぐ跨道橋であった。中央ゲート、北ゲート、南ゲート、メインブリッジ、サブブリッジとそれらに付随する連絡デッキ、スロープ、階段などから成る。

メインブリッジ(鉄骨造)を除き、デッキと屋根は、会期終了後に解体(理想は再利用)されることを見越し、十字型の単位梁を連ねて展開された。単位梁の寸法は中央ゲートの2.7m×2.7mと北・南ゲートの3.6/√2 m×3.6/√2 mの2種類あり、それらで形成されたグリッドにそれぞれ2.31m四方と約2.1m四方の床版が嵌められた。単位梁も床版もプレキャストコンクリートでつくられ、設計から生産、輸送、施工、解体を通して一貫した合理的なシステムであった。屋根に設けられたトップライトや照明は、格子が連続する秩序に変化を与えている。

なお、会場北ブロック内を周遊していた万国博モノレールの中央口駅とC駅も大高によって設計され、大高の仕事は連日30万人を超える人々の流動を支えた。[OS]



Design	OTAKA Masato
Structure	KIMURA Toshiko (Structure)
Height	PC-VRC
SA	12.84m
BA	17800m <sup>2</sup>
TFA	25000m <sup>2</sup>

Located in the Symbol Zone, the Main Gate was the primary entrance to the Expo '70 venue, as well as a pedestrian bridge that connected the north and south blocks of the venue, which was bisected by a valley for railways and roads to pass. It comprised the Central Gate, North Gate, South Gate, Main Bridge, Sub Bridge, and their associated decks, ramps, and stairs.

Aside from the Main Bridge (which was steel framed), the decks and roofs were developed as a series of cross-shaped unit beams in anticipation of being dismantled (or ideally, reused) after the Expo. There were two sizes of unit beams, 2.7 x 2.7 meters for the central gate and 3.6/√2 x 3.6/√2 meters for the north and south gates, which formed grids that accommodated floor slabs of approximately 2.31-meters square and 2.1-meters square, respectively. The unit beams and floor slabs were all made of precast concrete, allowing a consistent, rational system from design through to manufacture, transportation, construction, and dismantling. Skylights and lighting installed in the roofs gave variation to the repetitive order of the grids.

The Central Exit and C Station of the Expo '70 Monorail, which passed through the north block of the venue, were also designed by Otaka, and his work enabled the flow of more than 300,000 people per day.

## 電力館 Electric Power Pavilion, Electrium

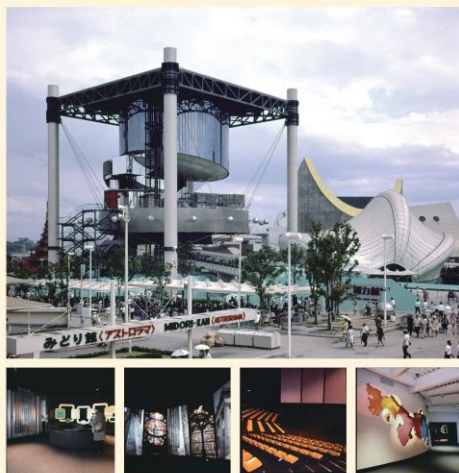
1970	
設計	坂倉準三建築研究所
構造	鉄骨造
高さ	42.7m
敷地面積	6400m <sup>2</sup>
建築面積	1734m <sup>2</sup>
延床面積	3067m <sup>2</sup>
テーマ	人類とエネルギー

電力館は、35m四方に建てられた4本の鋼管柱から、直径22mの空中劇場と直径30mの展示場を吊り下げている。

資料からは、地中と空中で大きく異なる平面を持つことがよみとれる。地階の平面図には、一見無秩序にも見える鉱物結晶のような多角形の諸室が描かれたのに対し、2～5階の平面図には、4本柱の中央に描かれた円の内側に展示スペースや劇場が描かれている。

展示場の6つのスペースでは、電気の歴史や未来の電気技術の展望が紹介された。その上部には円弧に沿うようにスロープが配され、昇った先の空中劇場では、人類とエネルギーとの関係を描いた映画「太陽の狩人」が上映された。

空中劇場のファサードに張り巡らされた鏡面には、刻一刻と変化する空の色とともに、屋根のトラスや4本の鋼管柱といった幾何形体的な構造物が湾曲して映りこむ。日が傾くと、電力館天井に整列した電灯が明かりを灯し、くっきりと現れる明暗差は万物の立体感を強調させ、宙に浮く金属質な円筒と、空気の層で覆われた水上劇場、隣り合う両者の造形の対比をより強く印象づけていたに違いない。[SN]



図説 大阪万国博覧会 万国博覧会記念公園建築事務所  
Illustration of Osaka International Exposition '70 Commemorative Park Office

Design	Sakakura Junzo Architects and Engineers
Structure	S
Height	42.7m
SA	6400m <sup>2</sup>
BA	1734m <sup>2</sup>
TFA	3067m <sup>2</sup>
Theme	Man and Energy

The Electric Power Pavilion comprised a 22-meter-diameter aerial theater and a 30-meter-diameter exhibition hall, suspended from four steel-pipe columns built on a 35-meter square.

From the documents, it may be ascertained that the underground and midair floorplans were very different. The basement floorplan, which at a glance appears disorderly, depicts polygonal rooms resembling mineral crystals, whereas the second to fifth floorplans depict exhibition spaces and the theater within circles inscribed at the center of the four columns.

The six exhibition spaces presented the history of electricity and future prospects for electrical technology. In the upper part, an arcing ramp led to the aerial theater, showing the film "Hunter of the Sun," which depicted the relationship between "Man and Energy."

The mirrored surface stretched around the facade of the aerial theater created curved reflections of the everchanging colors of the sky and the geometric shapes of the roof trusses and the four steel-pipe columns. As the sun went down, electric lights arrayed on the ceiling of the Electric Power Pavilion were turned on, and the clear distinctions between light and darkness emphasized all the sculptural qualities, undoubtedly strengthening the contrast between the adjacent forms of the metallic cylinders floating in the air and the Floating Theater wrapped with a pneumatic structure.

## 住友童話館 Sumitomo Pavilion

1970	
設計	大谷幸夫
構造設計	木村俊彦
構造	鉄骨球体連環型構造(空中部分)、 変型円座シェル鉄骨造(地上部分)
高さ	59.9m
敷地面積	11077m <sup>2</sup>
建築面積	3680m <sup>2</sup>
延床面積	5294m <sup>2</sup>
テーマ	美と愛と希望の泉

住友グループ46社共同による住友童話館は、展示室や休憩室などの9つの必要な要素が球体のイメージとして表れ、大小のそれらが空中に浮かび上がり、地上は広場として開放された、立体感と近未来感に溢れるパビリオンであった。

直径約13～24mのドームはそれぞれ柱3本を立体的に組み合わせた複合柱が3か所で支えている。施工時、ドームは地上で組み立てられ、複合柱によって約9.7～24.6mの高さにリフトアップされた。

観客は広場から導入エスカレーターで透明ステーション(0-F)の上階(FL+25.5m)に導かれ、3つのドーム(1-B、2-A、3-C / FL+22.9～24.6m)を回遊し透明ステーションの下階(FL+22.2m)に戻る。続いて、主階段で下り、4つのドーム(5-C、6-A、7-B、8-C / FL+15.7～18.3m)を巡った。

透明ステーションと結合したエレベーターと主階段で上ることのできる展望台は高さ約60mあったほか、地上には扇型屋根の「パピブッペ劇場」と事務棟が設けられた。各ドームでは「千里丘のおとぎ団地」、「東西名作ひろば」、「竜宮城」、「地球村の出来事」、「童話のプラネタリウム」、「コンピューターの天眼鏡」、「童心曼荼羅」といった内容が展示された。

所蔵資料の中には、空中部分の検討案や、地上部分の計画案が残っており、構想約2年半の足跡の一部を辿ることができる。

[OS]



図説 大阪万国博覧会 万国博覧会記念公園建築事務所  
Illustration of Osaka International Exposition '70 Commemorative Park Office

Design	OTANI Sachio KIMURA Toshikiko (Structure)
Structure	Connected Spherical (Structure), Shell Structure
Height	59.9m
SA	11077m <sup>2</sup>
BA	3680m <sup>2</sup>
TFA	5294m <sup>2</sup>
Theme	Familiar Fairy Tales of the World

The Sumitomo Pavilion, a joint project by 46 Sumitomo Group companies, was overtly sculptural and futuristic, with the nine necessary elements, such as exhibition rooms and restrooms, manifested as larger and smaller balls floating in the air, and the ground level as an open plaza.

Ranging in diameter from 13 to 24 meters, each of the domes was supported at three points by composite columns that were themselves combinations of three columns. During construction, the domes were assembled on the ground and lifted by the composite columns to heights ranging from

approximately 9.7 to 24.6 meters.

From the plaza (0-F), visitors were taken by escalator to the upper part of the transparent station (FL+25.5 meters), then on a circuit through three domes (1-A, 2-B, 3-C / FL+22.9 to 24.6 meters), and returned to the lower level of the transparent station (FL+22.2 meters). They then descended by the main staircase and toured four domes (5-C, 6-A, 7-B, 8-C / FL+15.7 to 18.3 meters).

The observatory, which could be reached from the transparent station by elevator or the main staircase, was at a height of approximately 60 meters, and set at ground level were the offices and the "Pa-Pi-Pu-Pu Theater," with its fan-shaped roof. Topics including "Fairy Tale Residence at Senriyoko," "East-West Masterpiece Plaza," "Pygopus," "Village Earth Chronicle," "Planetarium of Fairy Tales," "Computer: Our Window into the Future," and "Mandala of Child's Heart" were exhibited in individual domes.

Among the documents remaining in the collection are study of the midair part and a plan for the ground level part, tracing some of the steps during the two-and-a-half years of conceptualization.



## 自動車館 Automobile Pavilion

1970	
設計	前川國男
構造	鉄骨・テント構造
高さ	25.7m, 17m
敷地面積	9800m <sup>2</sup>
建築面積	3445m <sup>2</sup>
延床面積	4404m <sup>2</sup>
テーマ	リズムの世界

2つの変形した円錐型の展示館と交通ゲームスペースから成る。直径約40mの円形平面の第一展示館、直径約45mの円形平面の第二展示館は、大きさと形状は異なるが、両者とも偏心した位置に鉄骨造の直径6.6mの円筒形シャフトを建てて、そこから足元のリングにかけ渡したワイヤーロープからビニロンのキャンバスを吊るという構造方式をもつ。円筒形シャフトの偏心および頂部を斜めに切り落とすことで、躍動感のある外観デザインが生まれた。設計初期には様々な案も検討されており、本展ではそれらも展示した。

第一展示館では、自動車部品を組み合わせた楽器が奏でる音楽が流れ、第二展示館では『一日240時間』という安部公房脚本、勅使河原宏監督による映画が上映された。交通ゲームスペースでは、2人乗りの電気自動車50台が目標に向かうが、コンピューターによる制御により、無理な運転はできないという、現在の安全運転システムの先駆のような機構を備えていた。施設の周辺は開放的な広場だが、これは隣接する住友児童館の設計を行った大谷幸夫が、街並み創出のため広場を共有したいという提案に対して、前川が対応した結果であった。[KK]



提供：大阪府立国際博覧会記念館・住友児童館  
Courtesy of Osaka Prefectural Expo '70 Commemorative Park Office

Design	MAYEKAWA Kunio
Structure	Steel Frame and wires
Height	25.4m, 17m
SA	9800m <sup>2</sup>
BA	3445m <sup>2</sup>
TFA	4404m <sup>2</sup>
Theme	The World of Rhythm

This pavilion comprised two exhibition halls in the form of distorted cones, and a space for a traffic game. The first exhibition hall, with a 40-meter-diameter circular floorplan, and the second exhibition hall, with a 45-meter-diameter circular floorplan, differed in size and shape, but both were constructed with eccentrically positioned, 6.6-meter-diameter, steel-framed cylindrical shafts, from which vinyl fabric was hung on wire ropes connected to rings at the base. The eccentricity of the cylindrical shafts and the diagonal slices at their tops gave rise to a dynamic exterior design. Various other proposals were considered in the early planning stages, and these are also on display in this exhibition.

In the first exhibition hall, music was played on instruments made of automobile parts, and in the second exhibition hall, a film titled "240 Hours in One Day" written by Abe Kobo and directed by Teshigahara Hiroshi, was shown. In the space for the traffic game, 50 two-wheeled electric cars were available to visitors, but controlled by a computer that prevented them from being driven dangerously, a mechanism that is a precursor to present-day safe-driving systems. The facility was surrounded by an open plaza, which was Mayekawa's response to a proposal by Otani Sachio, who designed the adjacent Sumitomo Pavilion, to collaborate on the plaza so as to create a townsquare.

## 大屋根・お祭り広場 Grand Roof / Festival Plaza

1970	
デザイン監修	丹下健三
構造	鋼管構造
高さ	39.8m
敷地面積	49983m <sup>2</sup>
建築面積	27913m <sup>2</sup>

万博会場計画の原案は、西山卯三と丹下健三両氏の手によるものであるが、「お祭り広場」は、基本計画を牽引した西山が会場全体を未来都市モデルとして構想、その中心に広場を据えることを提唱し、命名したことで誕生した。西山のもとで上田篤は、日本に広場の伝統がないことを踏まえ、神社の祭りで使われる御旅所をモチーフに、日本の祭り空間と西洋の広場空間が融合した理念をまとめる。この広場を中心とした基幹施設の実施計画は、丹下の指揮のもと、建築、グラフィック、インテリア、プロダクト、現代美術などの専門家が協働、建築デザインは、広場を上田、大屋根を神谷宏治、演出諸装置を磯崎新が担った。広場は世界最大級のスペースフレーム「大屋根」で覆われ、岡本太郎の「太陽の塔」が貫き、来場者は塔内の展示を鑑賞しながら上昇、大屋根内部の回遊型展示空間へと導かれた。未来の生活をテーマにした展示では、アーキグラム(英)、モシェ・サフディ(カナダ)、ハンス・ホライン(ウィーン)、クリストファー・アレクサンダー(ウィーン)、ヨナ・フリードマン(仏)といった世界の前衛建築家たちが出展し、神谷と黒川紀章のデザインによる未来住宅の原寸モデル「住宅カプセル」が吊るされ、都市と建築の未来への鍵を示した。広場では世界各地の祭りやパフォーマンスが昼夜を問わず開催され、各国の文化や伝統を発信、国際的な交歓の場となった。「お祭り広場」はバビリオン閉館後の夜間に多くの来場者が訪れたことで、想定外の入場者数増加を生み、大阪万博を成功へと導いたのである。[前田尚武]



提供：大阪府立国際博覧会記念館・住友児童館  
Courtesy of Osaka Prefectural Expo '70 Commemorative Park Office

Design	TANGE Kenzo (Supervisor)
Structure	Steel Pipe, Space Frame
Height	39.8m
SA	49983m <sup>2</sup>
BA	27913m <sup>2</sup>

The original proposal for the Expo venue was drafted by Nishiyama Uzo and Tange Kenzo, but the Festival Plaza was born when Nishiyama, who led the basic planning and envisioned the entire site as a model for a future city, advocated and named a plaza to be placed at its center. Given that there is no tradition of public plazas in Japan, Ueda Atsushi, working under Nishiyama, conceived the idea of merging the space of a Japanese festival with the space of a Western square, based on the motif of an otobori, a place used for shrine festivals. With this plaza at the core, under Tange's direction, experts in architecture, graphic design, interior design, product design, and contemporary art collaborated on the designs for implementing the main equipment. For the architectural design, Ueda took charge of the plaza, Kamiya Koji took charge of the roof, and Isozaki Arata took charge of the staging equipment. The plaza was covered by one of the world's largest spaceframes, the Grand Roof, penetrated by Okamoto Taro's 'Tower of the Sun', through which visitors would ascend while viewing the exhibits it contained, arriving at the exhibition circuit within the Grand Roof. Suggestions for the future of cities and architecture were shown in an exhibition on the theme of future life by world-renowned avant-garde architects, including Archigram (UK), Moshe Safdie (Canada), Hans Hollein (Vienna), Christopher Alexander (Vienna), and Yona Friedman (France), as well as 'House Capsules', suspended, full-scale models of future houses designed by Kamiya and Kurokawa Kikuo. Festivals and performances from all over the world were held day and night in the Plaza, which became a place for international exchange and conveying cultures and traditions from various countries. By attracting many visitors at night, after the pavilions had closed, Festival Plaza led to an unexpectedly high attendance and the success of Expo '70.



## 第1部 作品解説パネル（A3） | 420H×297H | 4式

## 電力館 水上劇場

Electric Power  
Museum Water Theatre

1970	
設計	村田豊
構造設計	川口南
構造	鉄骨造、空気構造 (二重膜構造)
高さ	18.2m
敷地面積	6400m <sup>2</sup>
建築面積	564m <sup>2</sup>
延床面積	854m <sup>2</sup>
テーマ	人類とエネルギー

村田豊(1917-1988)は、坂倉準三建築研究所、ル・コルビュジエの事務所を経て1959年に独立。有機的な造形を好み、空気と膜を用いた曲面形態を追求した。空気膜構造は博覧会で求められる仮設的な施設の建設に適しており、村田はその博覧会で多くの作品を残すことになる。

坂倉準三建築研究所の設計した電力館(本館)に隣接する水上劇場は、池のようには浮かぶ直径23m円形プランの小劇場であった。シェルターは、直径3mのエアビーム3本を骨格とし、それらの外側と内側に被膜が張られている。外側屋根面と内側天井面の被膜の内側を気密にして気圧を下げて、屋根面は下に吸い下げられ、天井面は上に吸い上げられ、内外被膜が緊張して安定する。1階は楽屋、衣装室などのバックヤード、2階はデッキと劇場が設けられた。床は接地されず、底面に48個のフロートを備えて水盤に浮かんでおり、偏心軸を中心として回転、移動する。観客は、乗船場から水上劇場に入り、劇場が180度回転しながら対岸の降船場に移動する間に電気特性を応用したマジックショーを鑑賞した。[OS]

Design	MURATA Yutaka
Structure	KIMURA Junzo (Membrane/Structure)
Height	18.2m
SA	6400m <sup>2</sup>
BA	564m <sup>2</sup>
TA	854m <sup>2</sup>
Theme	Man and Energy

Yutaka Murata (1917-1988) worked at Sakakura Junzo Architects and Engineers and Le Corbusier's office before becoming independent in 1959. He preferred organic forms and pursued curved surface forms using air and membranes. Air-membrane structures are suitable for the construction of temporary facilities required for expositions, and Murata would leave behind many works for subsequent expositions.

Floating Theater adjacent to the Electric Power Pavilion ("Electricum"), designed by Sakakura Junzo Architects and Engineers, was a small theater with a 23-meter-diameter circular plan that floated like a boat on a pond. The shelter consists of a framework of three 3-meter-diameter air beams, which are covered on the outside and inside. The first floor was a backdrop for dressing rooms, costume rooms, etc., and the second floor was a deck and theater. The floor is not grounded, but floats on a waterbed with 48 floats on the bottom, which rotate and move around an eccentric axis. Spectators entered the water theater from the boarding area and watched a magic show that applied electrical characteristics while the theater rotated 180 degrees and moved to the disembarkation area on the opposite shore.

## 南広場

South Plaza

1970	
設計	菊竹清訓
構造	鉄骨造
高さ	7.55m
敷地面積	20973m <sup>2</sup>
建築面積	5059.4m <sup>2</sup>
延床面積	5803.6m <sup>2</sup>

※数値はすべて入礼園時点のもの

メインゲートの南側に計画された広場である。EXPO'70において菊竹清訓はエキスポタワーだけでなく、タワー周辺の塔広場をはじめ、この南広場を含むシンボルゾーンの南側エリア全体のマスタープランと基幹施設を担当していた。

広場には、参加国の企業関係者が観戦を深めるビジネス施設であったエキスポクラブ(国際親善館)と、世界各国の土産物や特色あふれる料理を提供する国際バザール(名店街)が計画された。また、中央には太陽電池と原子時計という当時の技術を駆使したタイムセンターが設けられ、EXPO'70オフィシャルタイムを会場に知らせた。

工事価格入札時の図面では、南側の1階に雁行状に配置された売店と2階にエキスポクラブ、西側および北側にレストランが配置されている。しかし、この最終案にたどり着くまでには多くのスタディが繰り返された。例えば、多角形の厨房の周りを客席が囲む案(屋根の形状も様々なパターンが検討された)、客席や店舗の配置に変化を与えながら円形の様を繋ぐ案、湾曲した棟が広場全体をうねるように配置された案など、その丹念な思考の過程が伺える。[AA]

Design	KIKUTAKE Kiyonori
Structure	S
Height	7.55m
SA	20973m <sup>2</sup>
BA	5059.4m <sup>2</sup>
TA	5803.6m <sup>2</sup>

This plaza was located south of the Main Gate. For Expo '70, Kikutake Kiyonori was not only in charge of the Expo Tower, but also the plaza around the Tower as well as the masterplan and main facilities for the entire southern area of the Symbol Zone, including this South Plaza.

The plaza plan included the Expo Club (International Friendship Pavilion), which was a business facility where people from participating countries could deepen their relationships, and the International Bazaar (specialty stores), which offered souvenirs and distinctive cuisine from around the world. Additionally, the Time Center was built in the middle to announce the Expo '70 official time, using the technology of the era-solar cells and atomic clocks.

The drawings made at the time of the construction tenders show the stores arranged in a stepping pattern along the south side of the first floor, the Expo Club on the second floor, and the restaurants on the west and north sides. However, many studies were made before arriving at this final proposal. For example, there was a proposal for guest seating surrounding a polygonal kitchen (various patterns were also considered for the shape of the roof), a proposal for connecting to a circular wing with varying layouts of guest seating and stores, and a proposal for a curved wing that undulated throughout the entire plaza, all of which demonstrate the painstaking thought-processes involved.

富士グループ  
パビリオン

Fuji Group Pavilion

1970	
設計	村田豊
構造設計	川口南
構造	本館: 空気構造(二重膜構造) 別館: コンクリートシェル
高さ	31m
敷地面積	9790m <sup>2</sup>
建築面積	3369m <sup>2</sup>
延床面積	3722m <sup>2</sup>
テーマ	21世紀へのメッセージ

36社から成る富士グループは、グループ各社の技術とサービスの結晶として大規模空気構造物と映像・音響・照明を組み合わせた総合芸術を発表した。

パビリオン本館は、直径4m、長さ72mのエアチューブ16本の端部を直径50mの円に内接するように固定し、隣り合うアーチを結んで形づくられた高さ31m、中央部高さ25mの異形ドームであった。内部は、北東側に13m×19mの大スクリーン、南西側3階にフィルム映画映写室、2階に「ターンテーブル」(回転歩道)、2階中央部に「マングラプロジェクトンブース」(映写テラス)が設けられ、内壁全体にスライドを映写する多数のプロジェクタのほか、投光器、スピーカーが配置された。

観客は、スクリーン側の2階入口から入館し、20分間で1周する回転歩道上で約15分の映画と「マングラ」を鑑賞し、「オートスロープ」または螺旋階段で1階に降りて展示物の鑑賞や「ソーダファウンテン」の利用ができた。

所蔵資料から、ドームの開口を塞ぐ妻壁案が少なくとも9案あったこと、本館1階「ソーダファウンテン」も二重膜空気構造であったことなどが読み取れる。[OS]

Design	MURATA Yutaka
Structure	MINAMIGUCHI Mamoru (Structure)
Height	31m
SA	9790m <sup>2</sup>
BA	3369m <sup>2</sup>
TA	3722m <sup>2</sup>
Theme	Message to the 21st Century

A crystallization of the technologies and services of each of the 36 companies that make up the Fuji Group, this pavilion was a total work-of-art that combined a large-scale pneumatic structure with image, sound, and light effects. The main hall of the pavilion was a 31-meter-high, 25-meter-high dome, with a central height of 25 meters, supported by 16 air-tubes, 4 meters in diameter and 72 meters long, the ends of which were fixed within a 50-meter-diameter circle, forming a series of adjoining arches. The interior consisted of a large 13-meter by 19-meter screen on the northeast side, a film projection room on the southeast side of the third floor, a turntable (rotating walkway) on the second floor, and a Mandala Projection Booth (projection terrace) in the center of the second floor, installed with many projectors for showing slides on all the interior walls, as well as floodlights and speakers. The audience entered the booth from the second-floor entrance on the screen side, watched an approximately 15-minute movie and the Mandala from the turntable, which rotated once every 20 minutes, then descended to the first floor via the Auto Ramp or spiral staircase to view the exhibits and use the Soda Fountain.

From the documents in the collection, it may be ascertained that there were at least nine proposals for a gabled wall to block the dome opening, as well as for a double-membrane pneumatic structure around the Soda Fountain on the first floor of the main building.

## 鉄鋼館

Steel Pavilion

1970	
設計	前川國男
構造	鉄骨造、鉄筋 コンクリート造
高さ	20m
敷地面積	6400m <sup>2</sup>
建築面積	3641m <sup>2</sup>
延床面積	8210m <sup>2</sup>
テーマ	鉄の歌

この現存する展示館の中央には、一辺約40m、高さ約17mの「スペース・シアター」と呼ばれる2重の鉄筋コンクリートの壁で囲まれた、最新のエレクトロニクス装置を備えた音楽堂がある。その周囲を鉄筋とガラスとで構成された開放的な「ホイエ」が取り囲んでいる。

ホールには、1000個以上のスピーカーが、天井・壁・床下に配置され、ホール全体が巨大な楽器であった。総合プロデューサー前川國男の下で、武満徹、イアニス・クセナキス、高橋悠治が作曲した作品に合わせて、宇佐美圭子によって光の空間的な演出が行なわれるという豪華な演出であった。

鉄鋼館は、建設当初から恒久的な建築として使用されることが想定されており、現在では、EXPO'70パビリオンという名称で、内部の芸術的空間の再現に加え、ホイエには、日本博覧会の複数の模型、各パビリオンの写真、多くのグッズなどが展示され、前庭には、解体されたエキスポタワーの一部も展示されている。鉄筋コンクリートの箱型建築であるため、目立つ存在というより正統的なモダニズム建築であったが、今では、日本博覧会を後世に伝えるという重要な役割を担っている。[KK]

Design	MAYEKAWA Kunio
Structure	S+HC
Height	20m
SA	6400m <sup>2</sup>
BA	3641m <sup>2</sup>
TA	8210m <sup>2</sup>
Theme	Song of Iron

At the center of this still extant exhibition pavilion is a 40-meter-per-side and 17-meter-high music hall called Space Theater, equipped with the latest electronic equipment and enclosed by double walls made of reinforced concrete. It is surrounded by an open "foyer" composed of reinforcing steel and glass.

More than 1,000 loudspeakers were installed in the ceiling, walls, and below the floor, turning the entire hall into an enormous musical instrument. Under the direction of Mayekawa Kunio, the overall producer, Isami Keiji, created a spectacular lightshow for concerts of music composed by Takemitsu Toru, Iannis Xenakis, and Takahashi Taji.

From the time it was constructed, the Steel Pavilion was intended to be used as a permanent structure. Currently, under the name Expo '70 Pavilion, the interior artistic space has been recreated, and additionally, several models of the Expo, photos of each pavilion, and various goods are displayed in the foyer, with a portion of the dismantled Expo Tower on display in the foreground. A reinforced-concrete, box-like architecture, it is more of an orthodox modernist building than a conspicuous landmark, but now plays an important role in preserving Expo '70 for future generations.

## 第2部 作品解説パネル | 1100H×400W | 8式

## 芙蓉グループ パビリオン Fuyo Group Pavilion

1975	
設計	村田豊
構造設計	川口衛
構造	[空中農園] RCコンプレッションリング付 ケーブルネット造 [展示棟] RCシェル構造 [付属棟] FRPシェル構造
高さ	10m
敷地面積	3498m <sup>2</sup>
建築面積	925m <sup>2</sup>
延床面積	964m <sup>2</sup> (展示棟664m <sup>2</sup> 、付属棟300m <sup>2</sup> )、 空中農園1256m <sup>2</sup>

バイオニクス(生体工学)による海の未来創造が提案されたこのパビリオンは、科学・技術のクラスターに位置する傾斜地に建てられた。

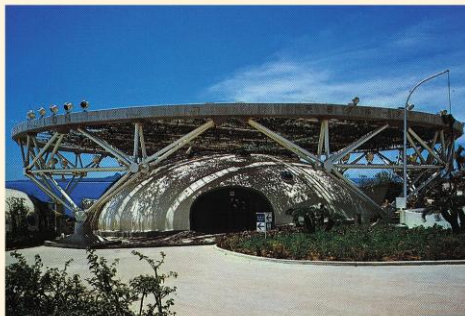
直径40mの円形のパーゴラ(天蓋)は、鉄筋コンクリートの環にケーブルを張った屋根を6組の立体トラスが支える構造である。ケーブル格子の上に網とキャットウォークを配置し、そこに植物が栽培された空中緑園(屋根)は、日陰の広場を作り出すと同時に水耕栽培を利用した実験農場でもあった。パーゴラの下には、直径28mの鉄筋コンクリートのシェル構造のドーム型の展示棟が作られた。

前庭にある付属棟は、直径8mの回転楕円体のFRPシェルドームが連なり、それぞれサロン、応接室、事務室、休憩室、電気室であった。5つのドームの外壁は網で覆われ、ヘチマ、朝顔、ササゲ等の蔓植物が育てられ、パーゴラの水耕栽培と対で植物的環境建築が目指された。

前庭に設けられたプールと砂場、海中をイメージした展示棟内では、バイオニクスから生まれた30種120匹の海の機械生物たちが様々な動きを見せ、機械水族館(メカアリウム)が繰り広げられた。また、展示棟内の映像フロアでは、13分のフィルム「永遠の海」が上映された。

所蔵資料の中には空気膜構造の検討案が含まれている。

[05]



出典: 沖縄県立美術館蔵「沖縄県立美術館創立50周年記念展」1975  
Source: Okinawa Prefectural Museum Collection, 50th Anniversary Exhibition, 1975

Design	MURATA Yutaka
Structure	KURAMAGUCHI Mamoru (Structure) [Pergola] Reinforced Concrete, Cable Net [Exhibition Pavilion] Prestressed Concrete (Shell Construction) [Annex] Fiber Reinforced Plastic (Shell Construction)
Height	10m
SA	3498m <sup>2</sup>
BA	925m <sup>2</sup>
TFA	964m <sup>2</sup> (Exhibition Pavilion 664m <sup>2</sup> , Annex 300m <sup>2</sup> ), Pergola 1256m <sup>2</sup>

A proposal for the creation of the future of the sea through bionics, this pavilion was built on sloping ground located in the Science and Technology cluster.

The 40-meter-diameter circular pergola had a structure composed of six three-dimensional trusses supporting a roof of cables stretched across a reinforced concrete ring. The aerial garden (roof), with vegetation

cultivated on the netting and catwalks placed on the cable lattice, produced a shaded plaza and simultaneously served as an experimental hydroponic farm. Built below the pergola was a domed exhibition building with a 28-meter-diameter reinforced-concrete shell structure.

The annex in the front garden consisted of a series of spherical FRP shell domes, each eight meters in diameter, containing a salon, reception room, office, break room, and electrical room, respectively. The exterior walls of the five domes were covered in netting, with growing vines that included sponge gourds, morning glories, and cowpeas, aimed at creating a botanic environmental architecture paired with the pergola hydroponics.

A pool and sandbox were installed in the front garden, and inside the exhibition wing, which gave the image of being under the sea, the varied movements of 120 mechanical sea creatures of 30 species produced by bionics could be seen, creating a mechanical aquarium (Mecharium). In addition, a 13-minute film titled "The Eternal Sea" was shown on the video floor inside the exhibition building.

The drawings in the collection include proposals for pneumatic structure.

## 水族館 構造設計資料 Aquarium Structural Documents

1975	
設計	横文彦
構造設計	木村俊彦
構造	[水族館] 鉄筋コンクリート造、鉄骨構造、 鉄骨鉄筋コンクリート造 [アーケード] プレキャストコンクリート造 [ショーブルシェルトール] 鉄骨構造
高さ	地上3階(1575m)
敷地面積	28100m <sup>2</sup>
建築面積	6057m <sup>2</sup>
延床面積	7629m <sup>2</sup> (水族館本体5308m <sup>2</sup> 、 アーケード1700m <sup>2</sup> 、ショーブル観覧高99m <sup>2</sup> )

アーチ群を特徴とした水族館は、会場北端に位置する魚クラスターの中核となる「海洋生物園」の主要な建物として、東に小高い丘と西に海岸線を望む環境に建設された。当時世界最大の大水槽によって、魚群の生態をリアルに体験できる内部空間が演出され、人と海の生物との出会いの場を提供する、先駆的な水族館であった。

建物は、観覧・サービス・日陰の3つのゾーンに大別された。「黒潮の海」とよばれる大水槽(長さ26m×奥行12m×水深3.5m)には、厚さ20cmの大型アクリル板が使用され、大きい水圧に変形せず、もとの水面を保持する構造設計が取り入れられた。またアーケードを構成するアーチは、5m×3.6mの矩形板から四半円をくりぬいた形状のPC板からできており、同型のパネル300枚が組み合わさって豊かな空間を構築した。アーケードのもつ機能として、内部空間に向かう人々に対して様々な表情と陰影をもたらすこと、日差しから人々を守る日陰を提供すること、内側から外をみるときの額縁効果を果たすことが意図されている。巨大な水槽を有する内部空間と、ビクチャレスクの要素をもつ外部空間によって構成される水族館は、鑑賞者に鮮烈な視覚体験を与えていただろう。

恒久施設として万博閉幕後も人々に親しまれていたが2002年に閉館し、跡地に「沖縄美ら海水族館」が開館した。[KY]



出典: 沖縄県立美術館蔵「沖縄県立美術館創立50周年記念展」1975  
Source: Okinawa Prefectural Museum Collection, 50th Anniversary Exhibition, 1975



出典: 日経アーキテクチュア  
Source: Nikkei Architecture

Design	MAKI Fumihiko
Structure	KIMURA Toshihiko (Structure) [Aquarium] RC+S+SRC [Arcade] PC [Open air pool shelter] S
Height	Three-story (1575m)
SA	28100m <sup>2</sup>
BA	6057m <sup>2</sup>
TFA	7629m <sup>2</sup> (Aquarium 5308m <sup>2</sup> , Arcade 1700m <sup>2</sup> , Open air pool bleachers 99m <sup>2</sup> )

The aquarium, which featured a group of arches, was the main building of the Marine Life Park, the core of the Fish Cluster located at the northern end of the venue, built in an environment with a view of small hills to the east and the coastline to the west. With a water tank that was the world's largest at the time, it was a pioneering aquarium that provided a place for people to encounter marine life, producing an interior space in which visitors could truly experience the behavior of schools of fish.

The building was divided into three main zones: viewing, service, and shade. The huge (26 meter long x 12 meter wide x 3.5 meter deep) water tank, named the Kuroshio Sea, was made of large, 20 centimeter-thick acrylic panels, with a structural design that maintained the original water surface without becoming deformed due to high water pressure. The arches that composed the arcade were made of 5-meter x 3.6-meter rectangular reinforced-concrete panels with quarter-circle shapes sliced from them, and a rich space was produced by 300 identical panels. Functioning as an arcade, it was intended to produce a variety of expressions and shadows for people walking toward the interior space, providing shade to protect people from the sun, and giving a framing effect when looking out from the inside. The aquarium, comprising an interior space with a huge water tank and an exterior space with picturesque elements, must have given viewers a striking visual experience.

Maintained as a permanent facility after the Expo finished, it was popular with the public, but it closed in 2002 and the Okinawa Churaumi Aquarium was opened on its former site.



## Fブロック 外国館、 エキスポホール (星丸シアター)

F Block  
Foreign Pavilion,  
Expo Hall (Hoshimaru Theater)

1985	
設計	大高正人
構造設計	青木繁
構造	鉄骨3ヒンジアーチ構造とプレキャストコンクリート部材によるラーメン構造
高さ	[外国館] 19.24m(F-1棟)/14.25m(F-2・3・4棟) [エキスポホール(星丸シアター)] 24.2m
建築面積	[外国館] 3782.16m <sup>2</sup> (F-1棟) 3192.84m <sup>2</sup> (F-2・3・4棟)
延床面積	[エキスポホール(星丸シアター)] 1598.17m <sup>2</sup> [外国館] 3302.38m <sup>2</sup> (F-1棟) 3884.50m <sup>2</sup> (F-2・3・4棟)
	[エキスポホール(星丸シアター)] 2157.56m <sup>2</sup>

国際科学技術博覧会の主要各ブロック内の外国館については、過去の博覧会建築に見られたような、それぞれの個性が際立つ建築形態ではなく、全体の調和のとれたものが目指された。Fブロックには、大高建築設計事務所が担当した2棟の外国館とエキスポホールのほか、3つの民間パビリオン(「電力館」、「テクノコスモス」、「詩人の家」)、ゴンドラ駅舎などがあった。

外国館、エキスポホールは、ともに解体と移築が可能な仮設建築をコンセプトに設計された。外国館のうち、大架構のF-1棟は展示室とレストランから成り、ソ連館として公開された。F-2・3・4棟は、ファンタジー通り沿いに3つのボリュームが連なり、ブルガリア館、ソ連館、WTO館、南太平洋(9か国)館、ADB館、OECD館、アフリカ(4か国)館として公開された。

エキスポホールは、プロセニウム形式の舞台に円形のオーブンステージが付いた、円形劇場の効果を併せもった観客席約550席の多目的ホールである。中では、子ども向けの演劇、コンサートなどが行われた。合金メッキ鋼板でできた屋根は、ホールを覆うように設計され、外国館と同じ薄い金色に塗装されていた。[OS]



写真: 大高正人、大高建築設計事務所  
Courtesy of TOSAKA EXHIBITION FOUNDATION



写真: 日経アーキテクチュア  
Photo by Nihon Architecture



写真: 日経アーキテクチュア  
Photo by Nihon Architecture

Design	OTAKA Masato
Structure	ADKI Shigeru (Structure) Post-and-beam structure using a three-hinge steel arch structure and precast concrete
Height	[Foreign Pavilion] 19.24m (Bldg F-1), 14.25m (Bldg F-2・3・4) [Expo Hall(Hoshimaru Theater)] 24.2m
BA	[Foreign Pavilion] 3782.16m <sup>2</sup> (Bldg F-1), 3192.84m <sup>2</sup> (Bldg F-2・3・4) [Expo Hall(Hoshimaru Theater)] 1598.17m <sup>2</sup>
TFA	[Foreign Pavilion] 3302.38m <sup>2</sup> (Bldg F-1), 3884.50m <sup>2</sup> (Bldg F-2・3・4) [Expo Hall(Hoshimaru Theater)] 2157.56m <sup>2</sup>

(Electric Power Pavilion, Technocosmos, and House of the Poet) and a gondola station.

The international pavilions and the Expo Hall were designed using the concept of temporary buildings that could be dismantled and relocated. Among the international pavilions, the large framework of the F-1 block, consisting of an exhibition hall and restaurant, was opened to the public as the Soviet Union Pavilion. The F-2, 3, and 4 blocks, three volumes set along Fantasy Road, were opened to the public as the Bulgarian Pavilion, a second Soviet Union Pavilion, WTO Pavilion, South Pacific Pavilion (nine nations), ADB Pavilion, OECD Pavilion, and African Pavilion (four nations).

The Expo Hall was a multipurpose hall with seating for approximately 550 spectators, comprising a proscenium-style stage connected to a circular open stage, giving an amphitheater effect. Inside, concerts and plays aimed at children were held. Made of alloy-plated steel sheets, the roof was designed to cover the hall and, like the international pavilions, painted a light gold color.

## Bブロック 外国館 B Block Foreign Pavilions

1985	
設計	菊竹清訓
構造設計	松井源吾
構造	鉄骨造
高さ	12.5m
建築面積	12159m <sup>2</sup>
延床面積	12507m <sup>2</sup>

この外国展示館は、Bブロックの中心に位置し、南西から東北を貫くboulevard通りの軸線、Eゾーンのシンボルタワー・日本館へと向かう軸線という二つの軸線が交差する位置に建ち、主にEU諸国のパビリオンであった。

建築自体の外観を目立たせるという、万国博覧会で一般的方針ではなく、敷地内の外部通路から内部展示空間の間にセミパブリック・スペースを設けるという、通常の公共建築を作る際の考え方が取り入れられている。二つの軸線の交差点に面して、庇の役割を果たす大きく飛び出た上階、こども広場の緑を連続させた外部空間などが、セミパブリック・スペースに居心地の良さを与える。

博覧会建築の仮設の性格への対処、すなわち組み立てやすく、解体もしやすく、再利用も可能という点に配慮されている点も特徴的である。鉄骨部材が3.6mモジュールに基づき格子状に組まれた壁面、スペースフレームを用いた天井面を基本的な構造方式としつつ、庇や外部に対応した凹凸感や流動感のある変形を作り出すことに成功している。

菊竹は、ここでは強烈な造形力を備えたパビリオンではなく、外部の快適な公共空間の創出および仮設的建設への対処を通じて、万国博覧会建築としての別のアプローチを探索している。[KK]



写真: 大高正人、大高建築設計事務所  
Courtesy of TOSAKA EXHIBITION FOUNDATION, TOSAKA EXHIBITION



Design	KIKUTAKE Kiyonori
Structure	MATSUI Gengo (Structure)
Height	5
BA	12.5m
TFA	12159m <sup>2</sup> 12507m <sup>2</sup>

Intended mainly for EU countries, this foreign exhibition pavilion was located in the center of Block B, at the intersection of two axes: the axis of Boulevard Street, running from southwest to northeast, and the axis leading to the Japan Pavilion and the symbol tower in Zone E.

Rather than the usual World's Fair principle of making the exterior of the building itself conspicuous, a semi-public space was created between the exterior gateway on the site and the interior exhibition space, adopting a way of thinking usually taken in the construction of public buildings. Facing the intersection of the two axes, the large projecting upper level, which served as eaves, and the exterior space continuous with the greenery of the Children's Plaza gave this semi-public space an intimate feeling.

It was also characterized by a response to the temporary nature of exposition architecture, that is, being easy to assemble, disassemble, and reuse. While the structural scheme was based on walls with steel members assembled in a grid pattern with a 3.6-meter module and a ceiling comprising spaceframes, the building succeeded in creating a sense of irregularity and fluidity in the way it was deformed in response to the eaves and the exterior.

Rather than a pavilion with intense formal power, KIKUTAKE Kiyonori here explored a different approach to World's Fair architecture by creating a comfortable public space outside, and dealing with temporary construction.



## 迎賓館 (協会本部別館) Guest House

1985	
設計	高橋誠一+第一工房
構造	鉄骨造
高さ	地上1階
建築面積	1206.9m <sup>2</sup>
延床面積	1083.41m <sup>2</sup>

万博会場敷地の北東端、協会本部に隣接して計画された迎賓施設である。国内外のVIPを歓待する「ハレ」の空間として、非日常性が追求された。小規模なプロジェクトであったことから、第一工房では事務所内に1/50の模型を作成し、高橋自らその模型を壊したり作ったりしながら空間の検討を進めたという。

約30m×80mの敷地は、高さ4mの塀と外周をめぐる回廊によって周囲の喧騒から隔離され、内部に静謐な空間を生み出す。柱脚をもつ正四角錐という単位空間が軸線上に4つ並んでメインの空間を構成し、左右には関係諸室が配置された。全体の構成は完全なシンメトリーを成している。

庭にあたる部分は水を張った「水床」とし、床面と同一平面上に置くことによって、訪れた人々はまるで建物が浮遊しているかのような感覚に陥る。部戸や格子戸といった建具はいずれも透過性と遮断性を兼ね備えており、水面とともに建築の境界を曖昧にし、この建物の虚構性や非日常感を高めている。また、ラウンジとレセプションホールの内装を彩る和紙は柔らかく軽やかでありながら、同時に迎賓施設にふさわしい華やかさを与え、後年、高橋はこの和紙を自邸の和室にも使用した。

[AA]



撮影：田嶋アキオ・タナカ



Design	TAKAHASHI Teichi + DAICHI-KOBO
Structure	S
Height	One-story
BA	1206.99m <sup>2</sup>
TFA	1083.41m <sup>2</sup>

This guest facility was planned for the northeastern edge of the Expo venue, adjacent to the Expo Association headquarters. As a "celebratory" space for welcoming VIPs from Japan and abroad, it aimed to be extraordinary. Because it was a small-scale project, a 1:50 scale model was built in the office of DAICHI-KOBO Architects, and the space was developed by TAKAHASHI Teichi himself breaking apart and rebuilding the model.

The approximately 30 meter x 80 meter site was isolated from the surrounding tumult by means of a 4-meter-high wall and peripheral corridor, producing a tranquil space within. The main space comprised four spatial units of square pyramids set on a podium, with related rooms located on either side. The overall composition was perfectly symmetrical.

Due to part of the garden being a "water floor," covered with water set at the same level as the interior floor, visitors had the sensation that the building was floating. The fittings, such as shikomi (latticed shutters) and koshido (lattice doors), were both permeable and isolating, blurring the boundary between the architecture and the water surface, while enhancing the fictional and extraordinary feeling of the building. The washi (Japanese paper) decorating the interiors of the lounge and reception hall was soft and light, but simultaneously possessed a splendor appropriate to a facility for welcoming honored guests. Some years later, TAKAHASHI used this same washi in the washtsu (Japanese-style room) of his own residence.

## 国際陳列館 International Exhibition Hall 水の館 Water Hall

1990	
設計	磯崎新
構造	鉄骨コンクリート(下部) 鉄骨造(上部)
高さ	地上5階
建築面積	2107.73m <sup>2</sup>
延床面積	5792.42m <sup>2</sup>

[水の館]	
設計	磯崎新
構造	鉄骨コンクリート造
高さ	地上2階
建築面積	5476m <sup>2</sup>
延床面積	7035m <sup>2</sup>

### [国際陳列館]

博覧会の国際性を高め、諸外国友好のシンボルとなる中心施設。博覧会の中心的な展示および催事を開催し、博覧会終了後には存置施設とされた。敷地は、メインゲート北側、博覧会場を一望する、山のエリア・街のエリア・野原のエリアの交差点にある。

最上階(4階:展示空間)は、外周をガラス壁面とする、高さ5mの直方体トラス構造のヴォリューム。左右のコアで持ち上げ、両端を20mのキャンティレバーで張り出すメガストラクチャーである。一方、3階はベルヴェデーレ(展望台)として外気に開放し、待合ホールとしての機能をもっている。

上部と対照的な石貼りの基底部をなす1~2階は、内部を吹抜けとするイベントホールとし、海外賓客を迎えるVIPルームは吹抜け上部を囲むように配している。

[鈴木明]



撮影：田嶋アキオ・タナカ



撮影：田嶋アキオ・タナカ

### [International Exhibition Hall]

Design	ISOZAKI Aneta
Structure	RC (Bottom), S (Top)
Height	Five-story
BA	2107.73m <sup>2</sup>
TFA	5792.42m <sup>2</sup>

This was the central facility, which enhanced the international nature of the Expo and served as a symbol of friendship between nations. It hosted the Expo's main exhibitions and events, and has been maintained as a permanent facility since the Expo finished. The site was located north of the main gate, at the intersection of the Mountain Area, City Area, and Field Area, with a view of the whole Expo venue.

The upper level (fourth floor: exhibition space) is a 5-meter-high, rectangular truss-structure volume, with glazed walls around the perimeter. A megastructure supported by cores at the left and right, it has 20-meter cantilevers extending either side. The third floor is open to the exterior as a belvedere (observation deck) and functions as a lobby.

Comprising a stone-clad base that contrasts with the levels above, the first and second floors were used as an event hall with an interior atrium, and a VIP room for welcoming international guests was located in the upper part.

### [水の館]

博覧会協会のシンボリックなパヴィリオン。会期終了後にも存置される恒久施設である。敷地はメインゲートの南西に位置し、前面の池には2本の橋を設け、来客者を両腕で迎えるような建築の形状とした。

世界各国からの樹木・草花を集める内部展示室は、面積約5000m<sup>2</sup>、高さ15m強の円周状の壁面とその周縁部屋根をガラス張りとした。

巨大な空間は、4本の柱と直径36mの円形屋根で構成される。上部屋根は細い鉄骨で組んだリングを、互いに細い鋼材でつなぐテンセグリティ構造による架構とした。その構造は、地上で組み立て、その後15m高まで引っ張り上げる「リフトアップ」工法とし、工期の短縮および安全性を獲得した。[鈴木明]



撮影：田嶋アキオ・タナカ



撮影：田嶋アキオ・タナカ

### [Water Hall]

Design	ISOZAKI Aneta
Structure	RC, Frame: S (Tensegrity Structure)
Height	Two-story
BA	5476m <sup>2</sup>
TFA	7035m <sup>2</sup>

This was the symbolic pavilion of the Exposition Association. It has also been maintained as a permanent facility after the Expo finished.

Located on a site southwest of the main gate, the architectural form included two bridges over the pond in front, welcoming visitors with open arms.

Approximately 5,000 square meters in area and a little over fifteen meters in height, with curving walls and a glazed roof around the perimeter, the interior exhibition hall contained a collection of trees and flowers from all over the world.

This huge space is sheltered by a 36-meter-diameter circular roof supported by four columns. The upper part of the roof is a tensegrity structural frame consisting of thin steel rings interconnected by thin steel members. In order to shorten the construction period and increase safety, the structure was assembled on the ground and then raised to a height of fifteen meters.

## グローバル・ループ Global Loop

2005	
設計	菊竹清訓・環境システム 研究所設計共同体
構造	鉄骨造
高さ	15.9m
建築面積	総面積55662.78m <sup>2</sup> (高架部44499.44m <sup>2</sup> )
延床面積	44499.44m <sup>2</sup> (高架部)

広大な丘陵地である長久手会場のメインルートとして設けられた、6つのグローバル・コモンを繋ぐ高架型の回廊である。「自然への叡智」という万博全体のテーマから、建設においては地盤の改変を最小限に留めることが重要とされた。これに加えて、グローバルループでは①地盤の起伏を効率よく解消すること②躯体下部の空間が柔軟に有効利用できることが必要条件であり、3つを満たす構造システムとして、地盤から放射状に柱が伸びる鉄骨構造が採用された。全長2.6kmの躯体を起伏に富んだ土地から持ち上げるため、4・8・12本の柱数パターンや、平坦部・斜面部合わせて15種の柱脚掘削方式が思索された。床面は歩行者が安全且つ快適に移動できる1/20以下の勾配で、土地の起伏が緩やかに反映された。その下部には樹状の柱群が立ち並び、上部にはびんと張られた白帆の屋根が軽やかに連なる光景となった。基本設計時には解体が計画されていたが、コモン3に位置した185mは会期終了後も残されることとなった。2025年現在、かきつばた池の西側に佇むグローバルループは、ネコバスや魔女たちを静かに見守っている。[SN]



Design	KIKUTAKE Kiyonori-ESCO
Structure	S
Height	15.9m
BA	55662.78m <sup>2</sup> (Elevated section: 44499.44m <sup>2</sup> )
TTA	44499.44m <sup>2</sup> (Elevated section)

This was an elevated circuit connecting the six Global Commons, installed as the main route through the vast hilly area of the Nagakute site. Given the Expo's overall theme of "Nature's Wisdom," it was important to minimize ground modification during construction. In addition, the Global Loop had to (1) efficiently compensate for the undulations of the ground, and (2) allow for flexible and effective use of the spaces below the structure. As a structural system that satisfied these three requirements, fan-shaped steel frames were used, with columns extending radially from the ground. In order to elevate this 2.6-kilometer-long structure above the undulating ground, patterns of four, eight, or twelve columns, with fifteen different types of excavated foundations, were considered for both the flat and the sloping areas. To allow safe and comfortable pedestrian movement, the floor surface had an inclination of less than 1:20, gently reflecting the undulations of the site. Tree-like clusters of columns were aligned below, above which was the spectacle of a lightweight, extended roof, clad with tightly stretched white sails. Though at the time of the basic design it was intended to be demolished, the 185-meter-long part located in Common 3 was retained after the Expo finished. As of 2025, the Global Loop, standing on the west side of Kakitubata Pond, quietly watches over Studio Ghibli's Cat Buses and Witches.

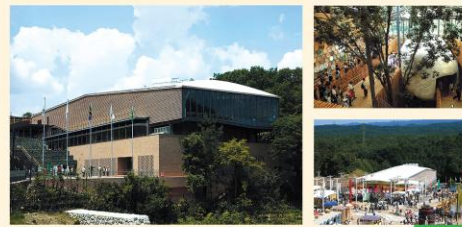
## 瀬戸 愛知県館 Aichi Pavilion Seto

2005	
設計	高橋誠一+第一工房
構造	RC造、一部鉄骨造
高さ	地上3階、地下1階
敷地面積	125566.10m <sup>2</sup>
建築面積	1775.77m <sup>2</sup>
延床面積	2999.94m <sup>2</sup>
テーマ	森の鼓動と呼吸— かつてない自然発見の場
2006年改修を経て、現在あいち 海上の森センター	

愛・地球博の原点である瀬戸市・海上の森に位置するパビリオン。博覧会建築の多くが仮設を前提としていたのに対し、この建物は会期終了後も森林に関する学習および交流施設として利用されることが決定していた。そこで高橋は、蓋をかぶせるようにパビリオン施設を配置し、その蓋を取り去ることで恒久施設が現れるような建築を計画した。

全体は高低差のある土地形状に合わせて階段状に配置された三層構造となっている。仮設部分は地元産の木材(会期後は近隣の小学校で再利用された)を使用した外壁・床と、ネジ鉄筋をUボルトで緊結した大屋根から成り、内部には繭の形をした展示室のほか、工事により伐採予定だったコナラの木が移植された。風が中を吹き抜けるようになっていたため、会期中には近くの森からムササビがやってきて、コナラの木を駆けていく姿も見られたという。

また、周辺外構に連続して作られた石積みメッシュは土地を安定化させるだけでなく、その一部にカスケードとして水が流れていたため、涼感効果により空調負荷を減らす役割も担っていた。一見ごくシンプルなものにも見える建築だが、環境に配慮し周囲の森林との一体化を目指して、第一工房らしい緻密に計算しつくされた作品である。[AA]



Design	TAKAHASHI Teiichi + DAICHI-KOBO
Structure	RC+S
Height	Three-story+B
SA	125566.10m <sup>2</sup>
BA	1775.77m <sup>2</sup>
TTA	2999.94m <sup>2</sup>
Theme	Discovering the Forest's Life Cycles
After renovation in 2006, now Aichi Forest Center	

This pavilion is located in the Kaisho Forest, Seto, the original site of Aichi Expo 2005. While most World's Fair architecture is assumed to be temporary, it was decided that this building would be used as a facility for forest-related learning and exchange even after the Expo had finished. Therefore, TAKAHASHI Teiichi designed the architecture of the pavilion facility as if it were covered with a lid, and removing this lid revealed the permanent facility.

Overall, it is a three-level structure arranged in a tiered form to fit the height differences in the site topography. The temporary part consisted of exterior walls and floors made of local timber (which was reused for a nearby elementary school after the Expo) and a large roof fastened with U-bolts of threaded steel rods. Inside, in addition to a cocoon-shaped exhibition room, were transplanted jolcham oak trees that had been felled during construction. Since breezes could pass through the building, Japanese giant flying squirrels from the nearby forest were seen racing through the jolcham oak trees during the Expo.

A masonry lattice, built continuous with the peripheral exterior walls, not only stabilized the ground but also served to reduce the air-conditioning load, due to the cooling effect of the water cascade flowing down part of it. At first glance, the architecture appears quite simple, but it is a meticulously calculated work that is typical of DAICHI-KOBO, showing consideration for the environment by aiming at integration with the surrounding forest.



## 第2部 フォリー解説パネル（A4） | 12 式

### 13 フォリー OSAKA Follies

総合プロデューサー | 磯崎新  
建築家選定・コミッショナー | 磯崎新  
アルヴィン・ボヤースキー  
設計デザイン・コーディネーション | 八東はじめ  
事務局 | 建築・都市ワークショップ

General Producer | ISOZAKI Arata  
Architect Selection Commissioners | ISOZAKI Arata, Alvin Boyarsky  
Design Coordination | YATSUKA Hajime  
Administration | WORKSHOP FOR ARCHITECTURE AND URBANISM

### フォリー1 Folly 1

マクドナルド&ソルター  
設計 | クリス・マクドナルド+ピーター・ソルター  
設計協力 | ミケーレ・ロエロフスマ  
ローカル・アーキテクト | アトリエ・モビル(丸山啓也、筒井義典)

土と小石そして藁が露出する版築による土壁、そして木材の立体格子による内部空間。自然素材による日本民家の伝統的材料と工法を用いている。独特の外観とヴォリューム内部にある空間は、博覧会場の雑踏を忘れさせる微気候を作りだし、来訪者に安息と安堵を用意した。[鈴木明]

**Macdonald & Salter**  
Design | Chris Macdonald+Peter Salter  
Collaborator | Michele Roelofsma  
Local Architect | MARUYAMA Kinya, TSUTSUI Toshitake, Atelier Mobile

The natural materials and traditional construction methods of Japanese minka (vernacular houses) were used, with rammed-earth walls comprising clay, pebbles, and straw, and interior spaces comprising three-dimensional wooden lattices. The distinctive exterior and interior spaces of the volume created a microclimate that provided visitors with a sense of repose and relief, allowing them to forget the tumult of the Expo venue.

### フォリー2 Folly 2

アーキテクチュラルビュロー ボレス=ウィルソン  
設計 | ピーター・ウィルソン、久富敏明、ディトマー・ベルナー  
ローカル・アーキテクト | 浅野英彦  
構造設計 | ステム構造設計(岩本秀典)

「いのちの海」の畔に停泊する船あるいは潜水艦を思わせる構造体。一部露わにされた骨組みから、絶えることなく水が滴り落ちている。来訪者は水盤に渡されたデッキを渡り内部に入るが、壁の中身はもぬけの殻で、そこを抜けると人工的な緑に塗られた舞台にとびだしてしまう。モニターからは琵琶湖の映像が流し続けられている。意味を生まない機械としての建築。[鈴木明]

**Architekturbüro Bolles-Wilson**  
Design | Peter Wilson, HISATOMI Toshiaki, Dietmar Berner  
Local Architect | ASANO Hidehiko  
Structural Designer | Stem Sekkei

This was a structure reminiscent of a ship or submarine, anchored on the shore of the Sea of Life. Water dripped incessantly from the part with an exposed frame. Visitors crossed a deck over a pond to enter the interior, but the walls were empty shells. Having passed through, they encountered a stage painted an artificial green. A monitor continuously played images of Lake Biwa. This was architecture as a machine that produced no meaning.

### フォリー3 Folly 3

ザハ・ハディッド  
設計 | ザハ・ハディッド  
ローカル・アーキテクト | 銭高組設計部、大橋諭

複数の園路が交差する「香りの辻(つじ)」に建つ「長さ」と厚みの異なる五本の斜路が地面に沿って伸びる。複数の壁とそれらの影からなる造形物としてのフォリー。待合せの道標あるいはベンチとして機能した。空中を走るCTM/パノラマ・ライナー\*の乗客からも次に訪れる目標・待合せの目印として役立てられた。[鈴木明]

\*Continuous Transit system by Magnet, Panorama Liner

**Zaha Hadid**  
Design | Zaha Hadid  
Local Architect | OHASHI Satoshi, The Zenitaka Corporation Design Department

Built at the Kaori no Tsuji (Fragrant Crossing), where multiple garden paths intersected, this folly was a sculpture comprising multiple walls and their shadows, with five slopes of different lengths and thicknesses extending across the ground. It functioned as a meeting-place sign or bench. Passengers on the CTM (Continuous Transit system by Magnet) Panorama Liner, which ran in mid-air, also used it as a guide to their next destination or meeting point.

### フォリー4 Folly 4

鈴木了二  
設計 | 鈴木了二+板田道、玉置順  
構造設計 | 山辺豊彦(山辺構造設計事務所)

20世紀初頭のアヴァンギャルド(前衛)建築家は、建築に「傾斜」を多く用いた。「つねに重力によって拘束され、抑圧され続けてきた全(建築の)歴史への反撃」へのオマージュとして、水平にも垂直にも傾斜した壁と床、そして階段と高みの演説台が設けられている。しかし、そこには20世紀初頭に活躍したイデオログや、扇状的なスローガンが失われている。[鈴木明]

**SUZUKI Ryoji**  
Design | SUZUKI Ryoji + SAKURADA Shigeru, TAMAKI Jun, Ryoji Suzuki Architect and Partners  
Structural Designer | YAMABE Toyohiko, Yamabe Structure

Avant-garde architects of the early twentieth century often used "slopes" in their buildings. In homage to the notion that all of (architectural) history is a challenge to the constraint and oppression of gravity, the walls and floors were sloped both horizontally and vertically, and integrated with stairs and elevated podiums. However, the activist ideology and incendiary slogans of the early twentieth century are absent here.



## フォリー 5

### Folly 5

クック&ホーリー	
設計	ピーター・クック +クリスティーナ・ホーリー
ローカル・アーキテクト	安藤和浩、赤星文比古
構造設計	一條典

このフォリーは大池の畔に建つが、無表情な仮面のごとき壁が立ちはだかり、来訪者の眺望を閉ざしている。ときどき聞こえる大きな音と共に大きく揺れる「振り子」を訝しく思いつつ階段を昇り、上方入り口から壁の裏側に抜けると、そこは全面ガラス張りの温室が池に面している。しかしその屋根は水が流れるカスケードで、せっかくの景色を歪ませてしまっている。

仕方なく階段を降り水が滴る苔生す坪庭に降り立ち、時折聞こえる水が溢れる音と「振り子」の正体に気づくころには、このフォリーが日本庭園の静寂を破る「鹿おどし」を演じていることを理解するのである。

[鈴木明]

<b>Cook &amp; Hawley</b>		This folly stood on the shore of a large pond, blocking the sightlines of visitors with a wall resembling an expressionless mask. Ascending the stairs while wondering at the occasional loud noise and swinging
Design	Peter Cook + Christine Hawley	
Local Architect	ANDO Kazuhiro, AKABOSHI Fumihiko	
Structural Designer	ICHIJO Tsukasa	

through the upper entrance to the other side of the wall, where an entirely glazed greenhouse faced onto a pond. However, this special view was distorted by the cascade of water flowing over the roof.

Unavoidably descending the stair to stand in the wet, moss-covered *tsubo-niwa* (courtyard garden), as one became aware of the occasional sound of overflowing water and the identity of the "pendulum," one understood that the folly was acting like a *shishi-odoshi* ("deer frightener"), which breaks the silence in a Japanese garden.

## フォリー 6

### Folly 6

コープ・ヒンメルブラウ	
設計	コープ・ヒンメルブラウ (ヴォルフ・D・プリックス +ヘルムート・シュヴィツィンスキー)
構造エンジニア	オスカー・グラフ
ローカル・アーキテクト	石田壽一
日本側構造設計	今川憲英(TIS&パートナーズ)

将来、設計することになるかも知れない建築プロジェクトの断片からなるスタディまたは彫刻と言ったら良いか。その構成は頭と胴体、その素材は鉄とガラスからなっている。このフォリーは、一枚のスケッチ(素描)からフォルムとプロポーションを確かめ、模型をつくりさらにコンピュータで構造とディテールを詰めるという作業を行った。設計者は超高層ビルと同じ方法でデザインしたと言う。[鈴木明]

Coop Himmelbl(l)au Design		This might be described as a study or sculpture comprising fragments for an architectural project to be designed in the future. The composition consisted of a head and torso made of steel and glass. The form and proportion of the folly was determined by a single sketch from which a model was made, and then the structure and details were resolved on a computer. The architects stated that they would use the same method when designing a skyscraper.
Structural Engineer	Coop Himmelbl(l)au (Wolf D. Prix + Helmut Swiczinsky)	
Local Architect	Oskar Graf	
Local Structural Engineer	ISHIDA Toshikazu IMAGAWA Norihide, TIS & PARTNERS	

## フォリー 7

### Folly 7

マルティネス・ラペニャ&トーレスアーキテクト	
設計	ホセ・アントニオ・マルティネス・ラペニャ、 エリ阿斯・トーレス・トゥール
ローカル・アーキテクト	石田壽一、ティアナ・ユラノヴィック

建築と植物の対話: ある「機械的な」寓話—トレイに載せられた四つのパビリオンは、植物に関わる、庭園には典型的な、建築・構造物からなっている。

①屋上庭園: 屋根上の植物と室内の鉢植えと花瓶、花の絵画

②パティオ: 植物は家具、または装飾モチーフになる

③温室: 一定条件のみで生きる植物のため

④パーゴラ: 木の幹を這う蔦はスモークとなる

[鈴木明]

<b>Martínez Lapeña -Torres Architects</b>		This was a dialogue between architecture and vegetation, a "mechanical" fable – four pavilions placed on a tray, consisting of architecture and structures related to
Design	José Antonio Martínez Lapeña, Eliás Torres Tur	
Local Architect	ISHIDA Toshikazu, Diana Juranovic	

vegetation typical of gardens.

(1) Rooftop garden: Vegetation on the roof, indoor potted plants and flower vases, paintings of flowers

(2) Patio: Vegetation as furniture, as well as being a decorative motif

(3) Green house: Vegetation that can survive only under certain conditions

(4) Pergola: Ivy creeping on tree trunks, becoming smoke

## フォリー 8

### Folly 8

モーフォシス	
設計	トム・メイ +マイケル・ロンドンディ
ローカル・アーキテクト	加藤樹衛
構造設計	今川憲英 (TIS&パートナーズ)

人間と自然の調和を表現する門。人間と機械、そして自然とのバランスを表現したフォリー。大きなトピアリー(刈込まれた庭園)に支持された機械、そして通気口から空気が吐き出される。これらは2本のたよりないケーブルで支えられ均衡を保つが、それは人間と自然の結びつきの儚さを示している。[鈴木明]

<b>Morphosis</b>		This was a gate that expressed harmony between people and nature, or a folly that expressed the balance between man, machine, and nature. It was a machine supported by a large topiary (trimmed hedge), with air expelled
Design	Thom Mayne + Michael Rotondi	
Local Architect	KATO Toshiaki	
Structural Design	IMAGAWA Norihide, TIS&PARTNERS	

through vents. These were kept in balance by two delicate cables, which illustrated the fragile connection between people and nature.

through vents. These were kept in balance by two delicate cables, which illustrated the fragile connection between people and nature.

## フォリー 9

Folly 9

ダニエル・リベスキンド	
設計	ダニエル・リベスキンド
ローカル・アーキテクト	銭高組設計部

大文字の建築(Architecture)で終わりを告げようとしている幾何学を、幾何学ルールに基づき、立方体を単純なルールながら徐々に解体を重ねて、複雑な様相化していく様を表している。それは「大文字の自然」として表した、と言える。[鈴木明]

<b>Daniel Libeskind</b>		Geometry marking the end of "Architecture with a capital A," this was a cube following simple rules that had been gradually dismantled and transformed into a complex object based on geometric rules. It might be said to have represented "Nature with a capital N".
Design	Daniel Libeskind	
Local Architect	The Zenitaka Corporation	
	Design Department	

geometric rules. It might be said to have represented "Nature with a capital N".

## フォリー 10

Folly 10

アンドレア・ブランツィ	
設計	アンドレア・ブランツィ
ローカル・アーキテクト	竹中工務店設計部

このフォリーのテーマは「人間と自然との関係」を表している。人間を取り巻く自然、さらに人工的自然を含む声やメッセージ、時には灰色のノイズから歌を聴きわかる耳を必要としている。フォリー上部に付けられた「黒い耳」は、このような人間の努力を表している。[鈴木明]

<b>Andrea Branzi</b>		The theme of this folly was a representation of the "relationship between people and nature." People need ears to hear the songs of the voices, messages, and sometimes the gray noise of the surrounding nature, which includes artificial nature. The "black ear" attached to the top of the folly expressed this human endeavor.
Design	Andrea Branzi	
Local Architect	Takenaka Corporation	
	Design Department	

which includes artificial nature. The "black ear" attached to the top of the folly expressed this human endeavor.

## フォリー 11

Folly 11

ジガンテス&ゼンゲリス	
設計	エレニ・ジガンテス + エリア・ゼンゲリス
ローカル・アーキテクト	八東はじめ、芝裕仁 (UPM)
構造設計	今川憲英 (TIS&パートナーズ)

フォリー11は「いのちの海」に接して建つ。巨大な「フライング・ストーン」(鋭角クサビ状の黒大理石)が空中に浮き、水面に突き出しているのが遠方から確認できる。透明の壁が水が伝って流れおちているが、夜になると発光する。

一方、大通りに向けた円形ステージでは時折、ジャズ演奏が行われ、来園者を楽しませる。これらの構成は「地・水・風」を表現している。

[鈴木明]

<b>Gigantes &amp; Zenghelis</b>		Folly 11 was built adjacent to the Sea of Life. A huge "flying stone" (wedge-shaped black marble) floated in the air and projected over the water, visible from a great distance. Water flowed down the transparent wall, which glowed at night.
Design	Eleni Gigantes + Elia Zenghelis	
Local Architect	YATSUKA Hajime, SHIBA Hirohito, UPM	
Structural Design	IMAGAWA Norihide (TIS&PARTNERS)	

Visitors were entertained by occasional jazz performances on a circular stage facing the main path. This composition represented "earth, water, and wind".

## フォリー 12・13

Folly 12・13

八東はじめ	
設計	八東はじめ+UPM (芝裕仁、森本リス、工藤京子)
構造設計	今川憲英(TIS&パートナーズ)、 若本秀貴(STEM構造設計)
サウンドスケープ	庄野孝子

フォリー12、13は、会場中央の大池「いのちの海」の「海の道・虹の橋」を軸に、一対をなす「花鳥風月」を表す。双方とも初期の近代建築を思わせる不安定な構造、奇妙な機械を思わせるディテールからなる。また、センサー技術を用いたサウンドスケープを備えた。

フォリー12は、支柱からケーブルで支えられたバラバラ状に広がる薄い面で「風」を、足元の造形は雲がかりの「月」を表すパヴィリオンとした。池の水面に映り込んだ「月」の像はゆらぎ、風センサーと連動したサウンドスケープ(音景)と混ざり合い、来場者を包み込む。

\*Soundscape: 風景 | ランドスケープ | Landscape: に対して、「音景」を意味する造語。

フォリー13は、羽ばたく鳥を上部に掲げた黒い壁。そこに穿たれた開口から覗かれる。池に面して白い花びらが3連に並べられている。スポンサー化粧品会社は、開発したばかりの花(蘭)から抽出した香りを3本のパイプから噴霧し、サウンドスケープと相まって来訪者の五感に「花鳥」を訴えた。[鈴木明]

<b>YATSUKA Hajime</b>		Follies 12 and 13 were a pair that expressed the "beauty of nature" along the axis of the Sea Path and Rainbow Bridge of the large pond called Sea of Life, located in the center of the venue. Both comprised unstable structures reminiscent of early modern architecture, with details reminiscent of strange machines. They also featured a
Design	YATSUKA Hajime + UPM (SHIBA Hirohito, MORIMOTO Rie, KUDO Kyoko)	
Structural Design	IMAGAWA Norihide, TIS & PARTNERS, Stem Sekkei	
Soundscape	SHONO Taiko	

soundscape that utilized sensor technology.

Folly 12 was a thin, paraboloidal surface supported by cables from braces, representing "wind", and the form of the pavilion at the base represented a cloud-covered "moon". The reflected image of the "moon" shimmered on the surface of the pond, blending with the soundscape linked to wind sensors, which enveloped visitors.

Folly 13 was a black wall, on top of which was a bird flapping its wings. Peering through an opening pierced in it, white flower petals were visible, arranged in a row of three, facing the pond. The sponsoring cosmetics company sprayed fragrance extracted from newly developed flowers (orchids) through three pipes, which combined with the soundscape to appeal to all five senses of visitors to this "flower bird".

第 2 部 作品解説（A4） | 2 式

# アクアポリス

Aquapolis

1975	
設計	菊竹清訓
共同設計者	日本海洋開発産業協会、三菱重工業
構造	4ロワーハル16コラム 立体トラスラーメン
高さ	32m
床面積	7400㎡(上甲板面)

日本政府が出展したアクアポリスは、海上都市の実験であり、沖縄国際海洋博覧会のシンボリック存在であった。その原型は菊竹が構想した「海上都市」であり、1959年「国際建築」、1960年「METABOLISM/1960 都市への提案」に発表されていたが、構想から15年も経たずに、部分的に実現することとなったのは驚くべきことである。

この施設は、4本のロワーハルと呼ばれる巨大な浮き(水中に隠れており「潜水体」とも呼ばれる)の上に16本の円柱形の柱(コラム)を立てて主甲板を支える構造であり、ロワーハル内のタンクに海水を注入することで、施設が海中に沈む深さを約5mから20mまで変化でき、柱下部にあるウィンチで沖合200mまで移動が可能であった。

実現案では、アクアポリスの主甲板には、大スクリーンや仮設舞台を持つ「アクアホール」、食堂などが備わり、その上の上甲板にはヘリポートや水耕栽培エリアが設けられた。展示図面の中には、初期段階には様々な案が検討され、幾つかのタイプに分類しながら検討が進められていたことを示す資料もある。

博覧会終了後は、さまざまな活用が検討されたが、残念ながら1993年に閉館し、2000年に上海に曳航されて解体された。[KK]

Design	KIKUTAKE Kiyonori
Collaborators	Japan Ocean Industries Assoc., Mitsubishi Heavy Industries, Ltd.
Structure	4 lower hulls, 16 columns, trussed frame
Height	32m
FA	7400㎡(upper deck)

Aquapolis, exhibited by the Japanese government, was an experimental maritime city and the symbol of the International Ocean Exposition. Its prototype was the Marine City conceived by KIKUTAKE Kiyonori, published in Kokusai Kenchiku [International Architecture] in 1959 and in METABOLISM/1960: The Proposals for New Urbanism in 1960, but it is astonishing that it was partially realized less than fifteen years after its conception.

The facility structure consists of sixteen cylindrical columns on top of four huge floats called "lower hulls" (also called "submersibles" because they are hidden underwater), which support the main deck. By injecting seawater into the tanks in the lower hulls, the depth to which the facility was submerged in the sea could be varied from about 5 meters to 20 meters, and the winches located at the bottom of the columns could move it up to 200 meters offshore.

In the implemented plan, the main deck of Aquapolis was furnished with an Aqua Hall containing a large screen and temporary stage, a cafeteria, and so on, above which was an upper deck equipped with a helipad and a hydroponics area. Among the exhibition drawings are various proposals considered in the early stages, which were classified into several types.

After the exposition, various other uses were considered, but unfortunately it was closed in 1993, and towed to Shanghai for demolition in 2000.

# 国際科学技術博覧会会場計画資料

Master Plans in the First Stage

座長	川添登
委員	大塚正人 堀文彦 菊竹清訓 磯崎新 黒川紀章 安久庵憲司 栗津潔 泉英也 曾根幸一

1980年11月のBIE総会において、国際科学技術博覧会の主会場が茨城県谷田部町に正式決定した。この102haのゆるやかな丘陵地における会場基本計画を定めるべく、座長の建築評論家・川添登を筆頭に、日本を代表する建築家・デザイナー10名から構成される研究会が組織され、翌年1月から開催された。しかし、会場計画を規定する多くの要素が不確定であったため、当初の研究会は実際の計画を細かく策定するというよりも、世界的にも類を見ない研究集団地区である筑波研究学園都市で、科学技術を対象とした国際博覧会を開くことの意義について、会場論としてアプローチし、コンセプトを抽出することを目指して議論が進められた。7名の委員がそれぞれ会場計画のイメージや交通システムについて提案を行い、そのコンセプトスケッチが残されている。閉じたチューブの中にバビリオンなどの各種装置をおさめた菊竹案や、地上部分は古墳のようなモニュメントのみとして全てのバビリオンを地下に埋蔵する磯崎案、1つの巨大な箱の中にマンダラ図を描くように各バビリオンを配置する栗津案など、いずれも創造性に富んだものであった。これらの提案を元に、曾根が中心となった作業チームにより、主会場構想の試案がまとめられた。[AA]

Chairperson	KAWAZOE Noboru
Member	OTAKA Masatoshi, MAKI Fumihiko, KIKUTAKE Kiyonori, ISOZAKI Arata, KUROKAWA Kisho, EKUAN Kenji, AWAZU Kiyoshi, OTSUKI Shinya, SONE Koichi

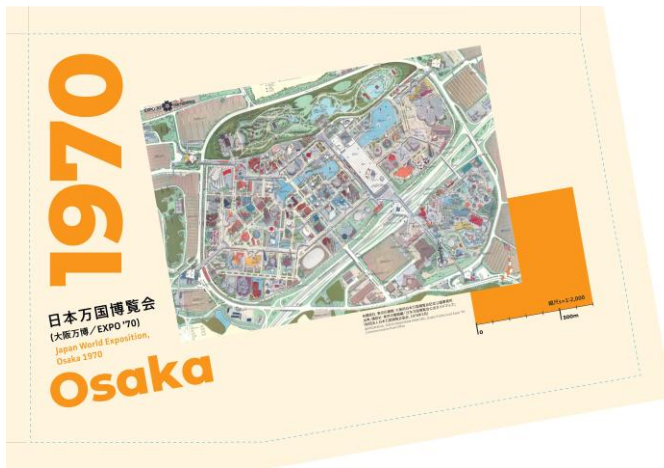
At the Bureau International des Expositions (BIE) General Assembly in November 1980, Yatabemachi, Ibaraki Prefecture, was officially selected as the main venue for the International Science and Technology Exhibition. In order to decide on a masterplan for 102-hectare hilly site, a research committee was organized, consisting of ten of Japan's leading architects and designers chaired by architectural critic KAWAZOE Noboru, which began meeting in January the following year. However, since many of the

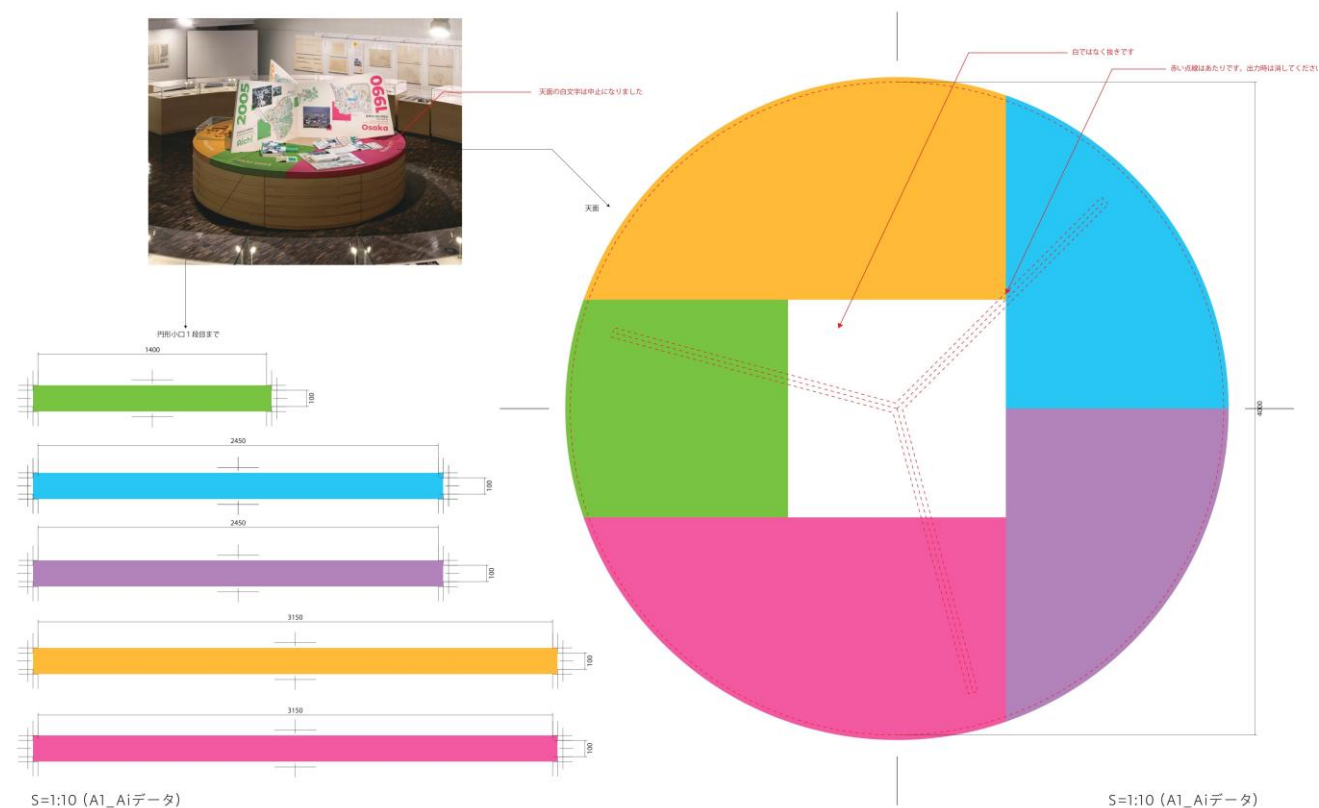
factors that would determine the venue masterplan were still uncertain, rather than a detailed formulation of the actual plan, the research committee initially took the approach of theorizing the venue in terms of the significance of holding a World's Fair on science and technology in the globally unprecedented research cluster of Tsukuba Science City, and held discussions with the aimed of identifying concepts. Seven of the committee members made proposals for the image of the venue planning and transportation system, and their concept sketches still remain. KIKUTAKE Kiyonori's proposal was to contain the pavilions and other equipment within a closed tube. ISOZAKI Arata's proposal was to bury all the pavilions underground, with the only above-ground portion being a monument that resembled a kofun (ancient burial mound). AWAZU Kiyoshi's proposal was to arrange the pavilions in a single huge box, like a mandala. Based on these proposals, a working team led by SONE Koichi put together a draft concept for the main venue.



日本の万国博覧会 1970-2005

中央円形台用大型パネル | 3 面





## カッティングシートサイン | 5か所

CS 232 マンダリン

Osaka  
1970

CS 621 ライトバイオレット

Tsukuba 1985

CS 127 プリムラ

Osaka 1990

CS 454 アボカド

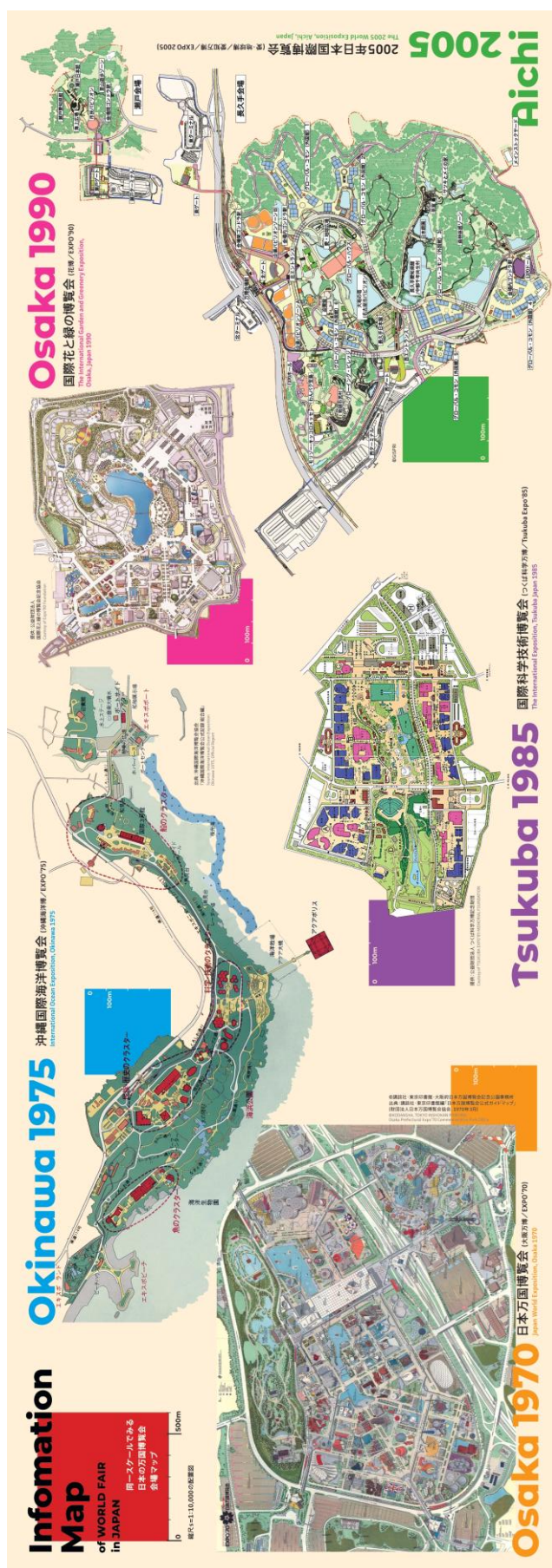
Aichi 2005

CS 535 ビーコックブルー

Okinawa 1975

S=1:10 (A1\_Aiデータ)







図録 | B5サイズ | 表裏カラー100頁 | 5,000部



表紙



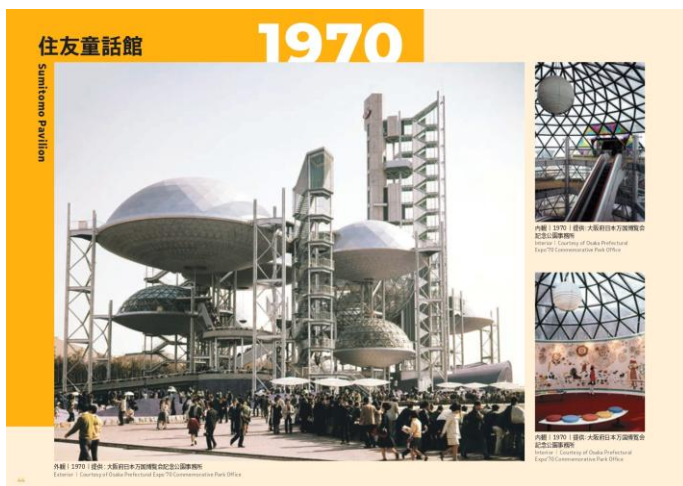
裏表紙



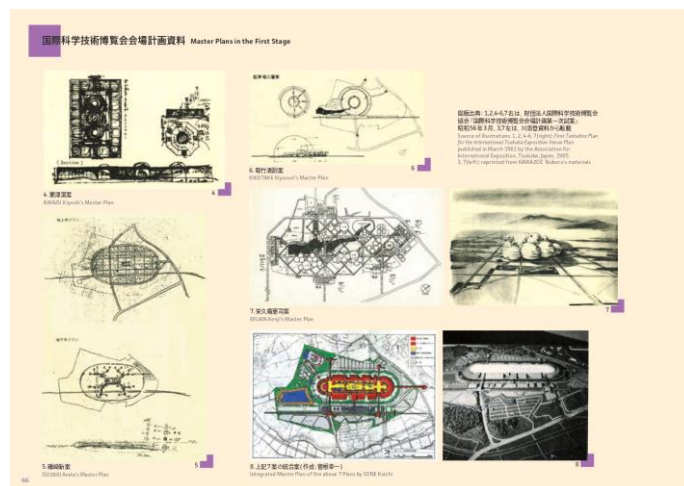
4 頁



5 頁



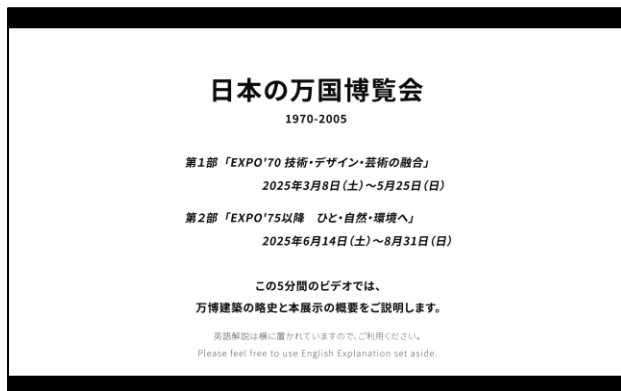
44 頁



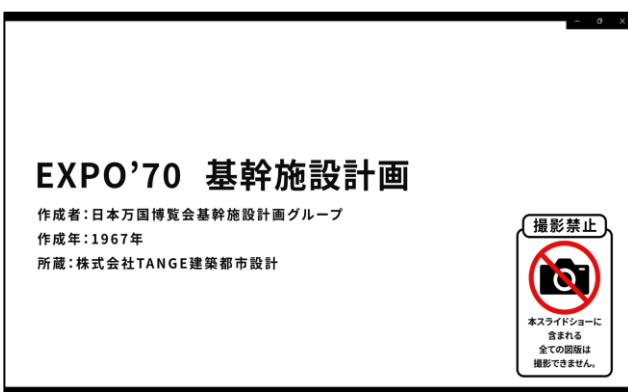
66 頁



## ■ロビー導入動画 | 4 分 40 秒 |



## ■丹下スライドショー | 4 分 33 秒 |



## ■オーラルヒストリー

- オーラルヒストリー 木村俊彦 -住友童話館 構造設計について- | 2019 | 13 分 11 秒 |
- オーラルヒストリー 村田豊 -富士グループパビリオンについて- | 2017 | 23 分 42 秒 |
- オーラルヒストリー 村田豊 -電力館水上劇場について- | 2017 | 11 分 23 秒 |
- オーラルヒストリー 村田豊 -芙蓉グループパビリオンについて- | 2017 | 15 分 14 秒 |



## 展 示



# 日本の万国博覧会 1970-2005

## 第 1 部 出品リスト

Section 1. シンボルゾーン	Section 1. Symbol Zone	資料番号
エキスポタワー 立面図   -   -   インク、紙、ラミネート加工   3545×910   所蔵：株式会社情報建築	Expo Tower Elevation   Ink on Paper, Laminated   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】
<b>1 丹下健三「基幹施設計画 大屋根・お祭り広場」</b>	<b>TANGE Kenzo "Grand Roof・Festival Plaza"</b>	
大屋根・お祭り広場、シンボルゾーン設計図 (11点)   1970   マイクロフィルムをデジタル複製   サイズ可変   デザイン監修：丹下健三、所蔵：株式会社TANGE建築都市設計	11 Drawings of Grand Roof, Festival Plaza, Symbol Zone   Digital Images   Courtesy of Tange Associates	tng_m_057_0115, tng_m_057_0060~0065, 0066~0069, 0070, 0071, 0072, 0073, 0074, 0075, 0076, 0077, 0078, 0079
EXPO'70基幹施設計画 (21点)   1967   マイクロフィルムをデジタル複製   サイズ可変   作成：日本万国博覧会基幹施設計画グループ、所蔵：株式会社TANGE建築都市設計	21 Drawings of Core Facility   Digital Images   Courtesy of Tange Associates	tng_m_057_0001, 0002, 0003, 0007, 0013, 016, 0023, 0024, 0008, 0011, 0015
日本万国博覧会写真 (7点)   1970年頃   撮影者未詳、提供：大阪府日本万国博覧会記念公園事務所	7 Photos of EXPO'70   Courtesy of Osaka Prefectural Expo '70 Commemorative Park Office	
『世界一大きい絵本』   1970   編著：川添登、勝井三雄、山口克己、加藤秀俊、制作・発行：講談社   川添登旧蔵書誌	KAWAZOE Noboru and others, <i>The Largest Picture Book in the World</i> , Kodansha, 1970   Collected by KAWAZOE Noboru	
『世界一大きい絵本 人類はなにを見てきたか』   1970   編著：川添登、発行：講談社   川添登旧蔵書誌	KAWAZOE Noboru, <i>The Largest Picture Book in the World</i> , Kodansha, 1970   Collected by KAWAZOE Noboru	
<b>2 菊竹清則「南広場」</b>	<b>KIKUTAKE Kiyonori "South Plaza"</b>	
1階平面図   -   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   419×593	1st Floor Plan   Pencil and Ink on Tracing Paper	15-1014-40
2階平面図   -   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   421×593	2nd Floor Plan   Pencil and Ink on Tracing Paper	15-1014-41
配置図   1:200   1969   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   539×756	Site Plan   Pencil and Ink on Tracing Paper	15-1014-39
1階平面図、2階平面図   -   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   551×798	1st Floor Plan and 2nd Floor Plan   Pencil and Ink on Tracing Paper	15-1014-6
2階平面図   1:200   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   554×803	2nd Floor Plan   Pencil and Ink on Tracing Paper	15-1014-30
立面図、断面図   1:200   未詳   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   552×801	Elevation and Section   Pencil and Ink on Tracing Paper	15-1014-31
1階平面図   1:200   未詳   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   555×801	1st Floor Plan   Pencil and Ink on Tracing Paper	15-1014-32
外観   提供：大阪府日本万国博覧会記念公園事務所	Exterior   Courtesy of Osaka Prefectural Expo '70 Commemorative Park Office	
外観   提供：大阪府日本万国博覧会記念公園事務所	Exterior   Courtesy of Osaka Prefectural Expo '70 Commemorative Park Office	
<b>3 菊竹清則「エキスポタワー・塔広場」</b>	<b>KIKUTAKE Kiyonori "Expo Tower" and "Plaza around the Tower"</b>	
配置図   1:500   -   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   547×795   所蔵：株式会社情報建築	Site Plan   Pencil and Ink on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】231追加工事_040
キャンピ詳細図B   1:50   -   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   552.5×797   所蔵：株式会社情報建築	Cabin, Detailed Drawing B   Pencil and Ink on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】231_14_018
立面図   -   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   548.5×794   所蔵：株式会社情報建築	Elevation   Pencil and Ink on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】231_15_017
アクソメ   -   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   547×796	Axometric Drawing   Pencil and Ink on Tracing Paper	15-1009-004
EXPO・サービス施設 食堂 平面図 詳細図   1:200 1:50   1969   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   548×799	EXPO Service Facilities and Dining Room, Plan and Detailed Drawing   Pencil and Ink on Tracing Paper	15-1009-007
S3棟一般図、構造図   1:50   1969   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   555×793.5	Building S3, Basic and Structural Drawing   Pencil and Ink on Tracing Paper	15-1009-008
東立面図   1:200   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   547×797   所蔵：株式会社情報建築	East Elevation   Pencil and Ink on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】231_11_010
0.1.2.3階平面図   1:200   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   546×795.5   所蔵：株式会社情報建築	Ground floor, 1st, 2nd and 3rd Floor Plan   Pencil and Ink on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】231_11_007
立面図   -   -   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   1065×506   所蔵：株式会社情報建築	Elevation   Pencil and Ink on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】231_10_014
<b>4 大高正人「メインゲート」</b>	<b>OTAKA Masato "Main Gate"</b>	
万国博中央口新築工事 屋根伏図   1:300   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   550×1178	Main Gate Roof Plan   Pencil on Tracing Paper	10-971-1
万国博中央口新築工事 1階平面図   1:300   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   560×1160	Main Gate 1st Floor Plan   Pencil on Tracing Paper	10-972-1
万国博中央口新築工事 地階平面図   1:300   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   710×1180	Main Gate Basement Plan   Pencil on Tracing Paper	10-971-3
万国博中央口新築工事 立面図   1:300   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   550×1205	Main Gate Elevations   Pencil on Tracing Paper	10-971-2
万国博中央口新築工事 断面図   1:300   鉛筆、トレーシングペーパー   545×1290	Main Gate Sections   Pencil on Tracing Paper	10-972-2
万国博中央口新築工事 断面詳細図   1:20   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   442×980	Main Gate Detailed Section   Pencil on Tracing Paper	10-534-23
万国博中央口新築工事 部分詳細図   1:20   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   445×1013	Main Gate Detailed Drawing   Pencil on Tracing Paper	10-534-10
模型写真   撮影年未詳   写真アルバム「万国博中央口」   撮影：大高建築設計事務所	Models   EXPO'70 Main Gate, Photo Album   Photo by Otaka Architect and Associates	10-1188
竣工写真   1970   写真アルバム「竣工記念写真集 万国博メインゲート建築工事」   作成：佐藤工業・鉄建建設・東急建設JV	Completion Photo   Completion Photo Album   by Sato Kogyo, Tekken Corporation, Tokyu Construction JV	10-1193
モノレール駅内観写真   未詳   写真ファイル「事務所作品模型写真集成」   撮影：大高建築設計事務所	Interior of Monorail Station   Architectural Works and Model Photo Album   Photo by Otaka Architect and Associates	10-930
工事写真   1969~1970   写真アルバム「EXPO'70」 1~5   作成：佐藤工業・鉄建建設・東急建設JV	Construction Photo   EXPO'70 1~5, Photo Collection   by Sato Kogyo, Tekken Corporation, Tokyu Construction JV	10-1190, 912, 1191, 1192, 913
<b>Section 2. パビリオン</b>	<b>Section 2. Pavilions</b>	
<b>5 坂倉準三「電力館」</b>	<b>SAKAKURA Junzo "Electric Power Pavilion – Electrium"</b>	
配置図   1:200   1968   鉛筆、フィルム   550×801	Site Plan   Pencil on Film	041-003
GF平面図   1:100   1969   鉛筆、フィルム   549×801	GF Plan   Pencil on Film	041-004
2F平面図   1:100   1968   鉛筆、フィルム   549×800	2nd Floor Plan   Pencil on Film	041-006
3-4F平面図   1:100   1968   鉛筆、フィルム   550×800	3-4th Floor Plan   Pencil on Film	041-008
4-5F平面図   1:100   1968   鉛筆、フィルム   550×800	4-5th Floor Plan   Pencil on Film	041-010
南立面図   1:100   1968   鉛筆、フィルム   551×801	South Elevation   Pencil on Film	041-013
16-32断面図   1:100   1968   鉛筆、フィルム   552×801.5	16-32 Section   Pencil on Film	041-015
<b>6 村田豊「電力館水上劇場」</b>	<b>MURATA Yutaka "Electric Power Pavilion – Floating Theater"</b>	
『人類とエネルギー EXPO'70 電力館の記録』   1970   編集：「電力館の記録」編集委員会、発行：株式会社電通   村田豊旧蔵書誌	<i>Human and Energy</i> , EXPO'70 Report of Electric Power Pavilion, 1970   Collected by MURTA Yutaka	7-59-85
配置図   non scale (1:200)   1969   プリント、トレーシングペーパー   236×362	Site Plan   Print on Tracing Paper	7-47-70
1階平面図   non scale (1:50)   1969   プリント、トレーシングペーパー   298×420	1st Floor Plan   Print on Tracing Paper	7-25-163
2階平面図   non scale (1:50)   1969   プリント、トレーシングペーパー   298×420	2nd Floor Plan   Print on Tracing Paper	7-25-160
立面図   non scale (1:100)   1969   プリント、トレーシングペーパー   298×420	Elevations   Print on Tracing Paper	7-25-157
矩計図   non scale (1:50)   1969   プリント、トレーシングペーパー   298×420	Detaill Section   Print on Tracing Paper	7-25-162
矩計図   non scale (1:50)   1969   プリント、トレーシングペーパー   298×420   裏焼を反転	Detaill Section   Print on Tracing Paper	7-25-166
EXPO'70 FLOATING THEATER YUTAKA MURATA ARCHITECT   -   -   プリント、トレーシングペーパー   302×420	EXPO'70 FLOATING THEATER YUTAKA MURATA ARCHITECT   Print on Tracing Paper	7-25-159
EXPO'70 THE FLOATING THEATER OF ELECTRIC ENERGY PAVILION FLOATING SYSTEM   -   -   プリント、トレーシングペーパー   298×420	EXPO'70 THE FLOATING THEATER OF ELECTRIC ENERGY PAVILION FLOATING SYSTEM   Print on Tracing Paper	7-25-164
模型写真   撮影年未詳   写真ファイル「万博 電力館水上劇場」	Electric Power Pavilion Floating Theater   Photo Album	7-47-102, 7-50-14

## 日本の万国博覧会 1970-2005

工事写真   撮影年未詳   写真アルバム「EXPO'70 水上劇場」	EXPO'70 Floating Theater   Photo Album	7-50-1-1
日本万国博覧会館別館設計要旨   -   1970 (推定)   青焼、カバー   297×210	Design summary of Electric Power Pavilion, 1970 (estimated)   Blueprint	7-54-3
EXPO'70 THE SHOWBOAT OF ELECTRIC ENERGY PAVILION 日本万国博覧会館 20   青焼製本   426×300	EXPO'70 THE SHOWBOAT OF ELECTRIC ENERGY PAVILION 20   Blue Print   426×300	7-47-6
EXPO'70 THE SHOWBOAT OF ELECTRIC ENERGY PAVILION 日本万国博覧会館 25   青焼製本   426×300	EXPO'70 THE SHOWBOAT OF ELECTRIC ENERGY PAVILION 25   Blue Print   426×300	7-47-7
外観   プリントから複写   出典: 村田豊建築設計	Exterior   Source:MURATA Yutaka Archive	
外観   プリントから複写   出典: 村田豊建築設計	Exterior   Source:MURATA Yutaka Archive	
内観   プリントから複写   出典: 村田豊建築設計	Interior   Source:MURATA Yutaka Archive	
<b>7 村田豊「富士グループパビリオン」</b>	<b>MURATA Yutaka "Fuji Group Pavilion"</b>	
「膜構造の建築」対談: 村田豊・川口衛、『approach』   1982   編集・発行: Takenaka Komuten Co. Ltd.   村田豊旧蔵書誌	"Pneumatic Structure by Yutaka Murata, Mamoru Kawaguchi", <i>approach</i> , Takenaka Komuten Co. Ltd., 1982   Collected by MURATA Yutaka	
村田豊「空気構造の建築」、『季刊 カラム No.71』   1978   発行: 新日本製鉄株式会社   村田豊旧蔵書誌	MURATA Yutaka, Penumatic Structure, <i>Quarterly COLUMN</i> , 1978   Collected by MURATA Yutaka	
模型写真   撮影年未詳   写真ファイル「万博 富士グループパビリオン」	Fuji Group Pavilion   Photo Album	7-47-106
配置図   non scale (1:500)   1968   プリント、トレーシングペーパー   300×420	Site Plan   Print on Tracing Paper	7-25-137
別館 平面図、断面図   non scale (1:50)   1969   プリント、トレーシングペーパー   300×420	Anex Plan and Section   Print on Tracing Paper	7-25-133
1階平面図   non scale (1:200)   1968   プリント、トレーシングペーパー   300×420	1st Floor Plan   Print on Tracing Paper	7-25-136
2階平面図   non scale (1:200)   1968   プリント、トレーシングペーパー   300×420	2nd Floor Plan   Print on Tracing Paper	7-25-138
内部詳細図   non scale (1:50)   1969   プリント、トレーシングペーパー   300×420	Detailed Drawings   Print on Tracing Paper	7-25-124
ソーダファウンテン平面図   non scale (1:50)   1969   プリント、トレーシングペーパー   300×420	Plan of Soda Fountain   Priint on Tracing Papper	7-25-135
内観写真 (ソーダファウンテン)   プリントから複写   出典: 村田豊建築設計	Interior   Source:MURATA Yutaka Archive	
立面図   non scale (1:200)   1968   プリント、トレーシングペーパー   300×420	Elevation   Print on Tracing Paper	7-25-140
断面図   non scale (1:200)   1968   プリント、トレーシングペーパー   300×420	Section   Print on Tracing Paper	7-25-128
断面図   1:200   1968   インク、トレーシングペーパー   595×840	Section   Ink on Tracing Paper	7-13-14
内観透視図   -   未詳   プリント、トレーシングペーパー   300×420	Interior Perspective   Print on Tracing Paper	7-25-130
内観透視図   -   未詳   プリント、トレーシングペーパー   300×420	Interior Perspective   Print on Tracing Paper	7-25-139
日本万国博富士グループ館 EXPO'70 FUJI GROUP PAVILION 妻壁計画案   青焼製本   430×300	EXPO'70 FUJI GROUP PAVILION Drafts of Elevation   Blueprint	7-47-98
詳細図   1:100, 1:20   1969   鉛筆、トレーシングペーパー   545×800	Details   Pencil on Tracing Paper	7-13-15
テスト風景写真   未詳   写真アルバム「富士P東松山試験」	Fuji Group Pavilion   Photo Album	7-56-26
工事写真   未詳   写真アルバム「大阪万博現場 5/26」	Construction Site on 26 May   Photo Album	7-51-57
外観   プリントから複写   出典: 村田豊建築設計	Exterior   Source:MURATA Yutaka Archive	
外観   提供: 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所	Exterior   Courtesy of Osaka Prefectural Expo '70 Commemorative Park Office	
内観   提供: 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所	Interior   Courtesy of Osaka Prefectural Expo '70 Commemorative Park Office	
内観   提供: 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所	Interior   Courtesy of Osaka Prefectural Expo '70 Commemorative Park Office	
<b>8 大谷幸夫「住友話館」</b>	<b>OTANI Sachio "Sumitomo Pavilion"</b>	
7階平面図   1:100   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   800×1095	7th Floor Plan   Pencil on Tracing Paper	32-130-8
9階平面図   1:100   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   800×1095	9th Floor Plan   Pencil on Tracing Paper	32-130-10
北側立面図   1:100   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   800×1095	North Elevation   Pencil on Tracing Paper	32-130-9
ろーろ断面図   1:100   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   800×1095	Section   Pencil on Tracing Paper	32-130-11
0-F ドーム割付図No.1   1:50   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   550×1096	0-F Dome Layout Drawing No.1   Pencil on Tracing Paper	32-616-60
0-F 9階詳細図   1:10, 1:50   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   550×1096	0-F 9th Floor, Detailed Drawing   Pencil on Tracing Paper	32-616-50
管理棟 劇場棟 立面図   1:100   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   550×798	Administration Building and Theater Building, Elevation   Pencil on Tracing Paper	32-616-32
劇場棟 1階平面図   1:100   鉛筆、トレーシングペーパー   550×798	Theater Building, 1st Floor Plan   Pencil on Tracing Paper	32-616-27
住友話館スケッチ (6点)   作成年未詳   青焼、鉛筆、インク、トレーシングペーパーほか	Sketches of Sumitomo Pavilion   Blueprint, Pencil, Ink on Tracing Paper	32-126、32-130-12
住友話館 (21点)   作成年未詳   デジタル複製 (青焼、鉛筆、色鉛筆、インク、トレーシングペーパーほか)	Sketches of Sumitomo Pavilion   Digital Images (Blueprint, Pencil, Colored Pencil, Ink on Tracing Paper)	32-126
<b>9 前川國男「自動車館」</b>	<b>MAYEKAWA Kunio "Automobile Pavilion"</b>	
屋根伏図   1:200   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   800×800	Roof Plan   Pencil and Ink on Tracing Paper	24-129-16
平面図 ソノ1 (1階)   1:200   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   800×800	Plan No.1 (1st Floor)   Pencil and Ink on Tracing Paper	24-129-30
立面図   1:200   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   590×843	Elevation   Pencil and Ink on Tracing Paper	24-129-10
断面図   1:200   1968   鉛筆、色鉛筆、インク、トレーシングペーパー   550×800	Section   Pencil, Colored Pencil and Ink on Tracing Paper	24-129-17
第2パビリオン 詳細図 その1   1:100   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   550×800	The Second Pavilion, Detailed Drawing Part1   Pencil and Ink on Tracing Paper	24-129-21
第2パビリオン平面詳細図 (変更図)   1:100   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   540×800	The Second Pavilion, Detailed Plan (Revised Drawing)   Pencil and Ink on Tracing Paper	24-129-36
第一パビリオン 詳細図   1:100   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   550×800	The First Pavilion, Detailed Drawing   Pencil and Ink on Tracing Paper	24-129-18
EXPO'70日本自動車工業会パビリオン計画案 (草案) 立面図 平面図   1:500   未詳   鉛筆、色鉛筆、インク、トレーシングペーパー   423×620	EXPO'70 Japan Automobile Manufacturers Association's Pavilion Proposal Design (Draft), Elevation and Plan   Pencil, Colored pencil and Ink on Tracing Paper	24-129-107
自動車館スケッチ (6点)   作成年未詳   青焼、鉛筆、色鉛筆、インク、トレーシングペーパーほか	Sketches of Automobile Pavilion   Blueprint, Pencil , Colored Pencil, Ink on Tracing Paper	24-129-112,113,123,127,139,141
自動車館関連   1970   デジタル複製 (インク、紙)   提供: 大阪府日本万国博覧会記念公園事務所	Items on Automobile Pavillion   Courtesy of Osaka Prefectural Expo '70 Commemorative Park Office	
<b>10 前川國男「鉄鋼館」</b>	<b>MAYEKAWA Kunio "Steel Pavilion"</b>	
外観パース   -   未詳   インク、トレーシングペーパー   375×440   所蔵: 前川建築設計事務所	Perspective Drawing of Exterior   Ink on Tracing Paper   courtesy of MAYEKAWA ASSOCIATES, ARCHITECTS & ENGINEERS	【借用】 Courtesy of MAYEKAWA_steel_1(1)
鉄鋼館 ホール内部   -   未詳   インク、トレーシングペーパー   420×760   所蔵: 前川建築設計事務所	Steel Pavilion Inside the Hall   Ink on Tracing Paper   courtesy of MAYEKAWA ASSOCIATES, ARCHITECTS & ENGINEERS	【借用】 Courtesy of MAYEKAWA_steel_1(2)
VARIATION NO.3   -   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   280×560   所蔵: 前川建築設計事務所	VARIATION NO.3   Pencil on Tracing Paper   courtesy of MAYEKAWA ASSOCIATES, ARCHITECTS & ENGINEERS	【借用】 Courtesy of MAYEKAWA_steel_1(43)
VARIATION NO.4   -   未詳   鉛筆、色鉛筆、トレーシングペーパー   280×560   所蔵: 前川建築設計事務所	VARIATION NO.4   Pencil and Colored Pencil on Tracing Paper   courtesy of MAYEKAWA ASSOCIATES, ARCHITECTS & ENGINEERS	【借用】 Courtesy of MAYEKAWA_steel_1(14)
鉄鋼パビリオン 第一案   -   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   420×560   所蔵: 前川建築設計事務所	Steel Pavilion First Scheme   Pencil on Tracing Paper   courtesy of MAYEKAWA ASSOCIATES, ARCHITECTS & ENGINEERS	【借用】 Courtesy of MAYEKAWA_steel_1(12)
計画案   -   未詳   鉛筆、色鉛筆、トレーシングペーパー   420×550   所蔵: 前川建築設計事務所	Proposal Design   Pencil and Colored Pencil on Tracing Paper   courtesy of MAYEKAWA ASSOCIATES, ARCHITECTS & ENGINEERS	【借用】 Courtesy of MAYEKAWA_steel_1(49)
1階平面図   1:200   未詳   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   540×800   所蔵: 前川建築設計事務所	1st Floor Plan   Pencil and Ink on Tracing Paper   courtesy of MAYEKAWA ASSOCIATES, ARCHITECTS & ENGINEERS	【借用】 Courtesy of MAYEKAWA_steel_1(32)



## 日本の万国博覧会 1970-2005

ホール内各所詳細図   1:50   1968   鉛筆、トレーシングペーパー   540×800   所蔵：前川建築設計事務所	Inside the Hall, Detailed Drawing   Pencil on Tracing Paper   courtesy of MAYEKAWA ASSOCIATES, ARCHITECTS & ENGINEERS	【借用】Coutesy of MAYEKAWA_steel_2(16)
西北側 立面図   1:200   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   540×800   所蔵：前川建築設計事務所	West, North Elevations   Pencil on Tracing Paper   courtesy of MAYEKAWA ASSOCIATES, ARCHITECTS & ENGINEERS	【借用】Coutesy of MAYEKAWA_steel_1(37)
断面図   1:200   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   540×800   所蔵：前川建築設計事務所	Section   Pencil and Ink on Tracing Paper   courtesy of MAYEKAWA ASSOCIATES, ARCHITECTS & ENGINEERS	【借用】Coutesy of MAYEKAWA_steel_1(39)
外観   提供：大阪府日本万国博覧会記念公園事務所	Exterior   Courtesy of Osaka Prefectural Expo '70 Commemorative Park Office	
内観   提供：大阪府日本万国博覧会記念公園事務所	Interior   Courtesy of Osaka Prefectural Expo '70 Commemorative Park Office	
内観   提供：大阪府日本万国博覧会記念公園事務所	Interior   Courtesy of Osaka Prefectural Expo '70 Commemorative Park Office	
内観   提供：大阪府日本万国博覧会記念公園事務所	Interior   Courtesy of Osaka Prefectural Expo '70 Commemorative Park Office	
内観   提供：大阪府日本万国博覧会記念公園事務所	Interior   Courtesy of Osaka Prefectural Expo '70 Commemorative Park Office	
<b>展示室内・ロビー映像</b>		<b>Movie Contents</b>
オールヒストリー 木村俊彦-住友会館 構造設計について-   2019   13分11秒   木村（伊藤）久枝、渡辺邦夫、佐々木睦朗、浜田英明   制作：文化庁国立近現代建築館   撮影・編集：青山真也   編集（本展覧会版）吉原聖／セイムービースタジオ	Oral history KIMURA Toshihiko - Structural Design of the Sumitomo Pavilion   13min 11sec   KIMURA (ITO) Hisae, WATANABE Kunio, SASAKI Mutsuro, HAMADA Hideaki   Production: National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs   Filming/Editing: AOYAMA Shinya   Editing (Exhibition Version): YOSHIHARA Sei/SEI MOVIE STUDIO	
オールヒストリー 村田豊 -富士グループパビリオンについて-   2017   23分42秒   川口衛、宇野求、永野宏、村田あが   制作：文化庁国立近現代建築館   撮影・編集：杉本康貴   編集（本展覧会版）吉原聖／セイムービースタジオ	Oral history MURATA Yutaka - FUJI Group Pavilion   23min 42sec   KAWAGUCHI Mamoru, UNO Motomu, NAGANO Hiroshi, MURATA Aga   Production: National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs   Filming/Editing: SUGIMOTO Koki   Editing (Exhibition Version): YOSHIHARA Sei/SEI MOVIE STUDIO	
オールヒストリー 村田豊-電力館水上劇場について-   2017   11分23秒   川口衛、宇野求、永野宏、村田あが   制作：文化庁国立近現代建築館   撮影・編集：杉本康貴   編集（本展覧会版）吉原聖／セイムービースタジオ	Oral history MURATA Yutaka - Electric Power Pavilion - Floating Theater   11min 23sec   KAWAGUCHI Mamoru, UNO Motomu, NAGANO Hiroshi, MURATA Aga   Production: National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs   Filming/Editing: SUGIMOTO Koki   Editing (Exhibition Version): YOSHIHARA Sei/SEI MOVIE STUDIO	
イントロダクション   2025   4分40秒   制作：文化庁国立近現代建築館   編集：吉原聖／セイムービースタジオ	Introduction   4min 40sec   Production: National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs   Editing: YOSHIHARA Sei/SEI MOVIE STUDIO	
<b>万博会場マップ</b>		<b>Information Map of WORLD FAIR in JAPAN</b>
村田豊旧蔵 EXPO'70関連書誌	Books and Magazines Collected by MURATA Yutaka	図書番号 02425, 02435, 02433
大高正人建築設計 EXPO'70関連	Documents on OTAKA Masato Archive	10-1189, 10-2000-48, 10-2000-242, 10-1948
大高正人旧蔵 EXPO'70関連書誌	Books and Magazines Collected by OTAKA Masato	図書番号 02225, 02226
木村俊彦構造設計 図面角筒	Old Case of Drawings Used by KIMURA Toshihiko	
坂倉準三旧蔵 EXPO'70関連書誌	Books and Magazines Collected by SAKAKURA Junzo	坂倉 105-1-14, 坂倉 105-1-12
川添登旧蔵 EXPO'70関連書誌	Books and Magazines Collected by KAWAZOE Noboru	真鍋博『万国博イメージ旅行』
館蔵 EXPO'70関連書誌	Books and Magazines Collected by NAMA	図書番号 02198, 02199, 02205, 02203, 02204
大高正人建築設計 EXPO'75・EXPO'85関連	OTAKA Masato Archive	
川添登旧蔵書誌 菊竹清訓編『エコポリス・海岸都市』勁草書房、1994	KIKUTAKE Kiyonori, International Forum of Young Architects Kobe 93 Organized by IAA, the Book Collected by KAWAZOE Noboru	
大高正人建築設計 EXPO'90関連	OTAKA Masato Archive	
館蔵 EXPO2005関連書誌	Books and Magazines Collected by NAMA	

## 日本の万国博覧会 1970-2005

## 第2部 出品リスト

1970 日本万国博覧会（大阪万博）	EXPO'70 Osaka	資料番号
エキスポタワー 立面図   -   インク、紙、ラミネート加工   3545×910   所蔵：株式会社情報建築	Expo Tower Elevation   Ink on Paper, Laminated   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】
丹下健三「基幹施設計画 大屋根・お祭り広場」	TANGE Kenzo "Grand Roof・Festival Plaza"	
EXPO'70基幹施設計画（21点）   1967   マイクロフィルムをデジタル複製   サイズ可変   作成：日本万国博覧会基幹施設計画グループ、所蔵：株式会社TANGE建築都市設計	21 Drawings of Core Facility   Digital Images   Courtesy of Tange Associates	tng_m_057_0115, tng_m_057_0060-0065, 0066-0069, 0070, 0071, 0072, 0073, 0074, 0075, 0076, 0077, 0078, 0079
大屋根・お祭り広場、シンボルゾーン設計図（11点）   1970   マイクロフィルムをデジタル複製   サイズ可変   デザイン監修：丹下健三、所蔵：株式会社TANGE建築都市設計	11 Drawings of Grand Roof, Festival Plaza, Symbol Zone   Digital Images   Courtesy of Tange Associates	tng_m_057_0001, 0002, 0003, 0007, 0013, 016, 0023, 0024, 0008, 0011, 0015
日本万国博覧会写真（7点）   1970年頃   撮影者未詳、提供：大阪府日本万国博覧会記念公園事務所	7 Photos of EXPO'70   Courtesy of Osaka Prefectural Expo '70 Commemorative Park Office	
菊竹清訓「エキスポタワー・塔広場」	KIKUTAKE Kiyonori "Expo Tower" and "Plaza around the Tower"	
北立面図   1:200   1968   プリント、インク、紙   800×551   所蔵：株式会社情報建築	North Elevation   Print and Ink on Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	231追加工事_013
東立面図   1:200   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   797×547   所蔵：株式会社情報建築	East Elevation   Pencil and Ink on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	231_11_010
0.1.2.3階平面図   1:200   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   546×795.5   所蔵：株式会社情報建築	Ground floor, 1st, 2nd and 3rd Floor Plan   Pencil and Ink on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	231_11_007
大高正人「メインゲート」	OTAKA Masato "Main Gate"	
万国博中央口新築工事 屋根伏図   1:300   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   550×1178	Main Gate Roof Plan   Pencil on Tracing Paper	10-971-1
万国博中央口新築工事 1階平面図   1:300   未詳   鉛筆、トレーシングペーパー   560×1160	Main Gate 1st Floor Plan   Pencil on Tracing Paper	10-972-1
EXPO'70 1～5   1969-1970   写真アルバム   作成：佐藤工業・鉄建建設・東急建設JV	Construction Photo Album 1～5   by Sato Kogyo, Tekken Corporation, Tokyu Construction JV	10-1190, 912, 1191, 1192, 913
菊竹清訓「南広場」	KIKUTAKE Kiyonori "South Plaza"	
1階平面図   -   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   419×593	1st Floor Plan   Pencil and Ink on Tracing Paper	15-1014-40
2階平面図   -   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   421×593	2nd Floor Plan   Pencil and Ink on Tracing Paper	15-1014-41
配置図   1:200   1969   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   539×756	Site Plan   Pencil and Ink on Tracing Paper	15-1014-39
外観（2点）   提供：大阪府日本万国博覧会記念公園事務所	Exterior   Courtesy of Osaka Prefectural Expo '70 Commemorative Park Office	
村田豊「電力館水上劇場」	MURATA Yutaka "Electric Power Pavilion – Floating Theater"	
矩計図   non scale（1:50）   1969   プリント、トレーシングペーパー   298×420   裏焼を反転	Detaild Section   Print on Tracing Paper	7-25-166
万博 電力館水上劇場   撮影年未詳   写真ファイル	Electric Power Pavilion Floating Theater   Photo Album	7-47-102, 7-50-14
『人類とエネルギー EXPO'70 電力館の記録』   1970   編集：「電力館の記録」編集委員会、発行：株式会社電通   村田豊旧蔵書誌	<i>Human and Energy, EXPO'70 Report of Electric Power Pavilion</i> , 1970   Collected by MURTA Yutaka	7-59-85
日本万国博電力館別館設計要旨   -   1970（推定）   青焼、カバー   297×210	Design summary of Electric Power Pavilion, 1970 (estimated)   Blueprint	7-54-3
村田豊「富士グループパビリオン」	MURATA Yutaka "Fuji Group Pavilion"	
1階平面図   non scale（1:200）   1968   プリント、トレーシングペーパー   300×420	1st Floor Plan   Print on Tracing Paper	7-25-138
内観透視図   -   未詳   プリント、トレーシングペーパー   300×420	Interior Perspective   Print on Tracing Paper	77-25-139
万博 富士グループパビリオン   撮影年未詳   写真ファイル	Fuji Group Pavilion   Photo Album	7-47-106
富士P東松山試験   撮影年未詳   写真アルバム	Fuji Group Pavilion   Photo Album	7-56-26
前川國男「鉄網館」	MAYEKAWA Kunio "Steel Pavilion"	
外観バース   -   未詳   インク、トレーシングペーパー   375×440   所蔵：前川建築設計事務所	Perspective Drawing of Exterior   Ink on Tracing Paper   courtesy of MAYEKAWA ASSOCIATES, ARCHITECTS & ENGINEERS	【借用】 MAYEKAWA_steel_1(1)
1階平面図   1:200   未詳   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   540×800   所蔵：前川建築設計事務所	1st Floor Plan   Pencil and Ink on Tracing Paper   courtesy of MAYEKAWA ASSOCIATES, ARCHITECTS & ENGINEERS	【借用】 MAYEKAWA_steel_1(32)
外観   提供：大阪府日本万国博覧会記念公園事務所	Exterior   Courtesy of Osaka Prefectural Expo '70 Commemorative Park Office	
内観（4点）   提供：大阪府日本万国博覧会記念公園事務所	Interior   Courtesy of Osaka Prefectural Expo '70 Commemorative Park Office	
坂倉準三「電力館」	SAKAKURA Junzo "Electric Power Pavilion – Electrium"	
南立面図   1:100   1968   鉛筆、フィルム   551×801	South Elevation   Pencil on Film	041-013
GF平面図   1:100   1969   鉛筆、フィルム   549×801	GF Plan   Pencil on Film	041-004
大谷幸夫「住友話館」	OTANI Sachio "Sumitomo Pavilion"	
いーい断面図   1:100   -   鉛筆、トレーシングペーパー   800×1095	Section   Pencil on Tracing Paper	A-082
スケッチ   -   -   鉛筆、トレーシングペーパー	Sketches of Sumitomo Pavilion   Pencil on Tracing Paper	32-126-38
前川國男「自動車館」	MAYEKAWA Kunio "Automobile Pavilion"	
第一パビリオン 詳細図   1:100   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   550×800	The First Pavilion, Detailed Drawing   Pencil and Ink on Tracing Paper	A-082
平面図 ノ1（1階）   1:200   1968   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   800×800	Plan No.1 (1st Floor)   Pencil and Ink on Tracing Paper	24-129-30
万博会場マップ	Infomation Map of WORLD FAIR in JAPAN	
村田豊旧蔵 EXPO'70関連書誌	Books and Magazines Collected by MURATA Yutaka	02425, 02435
坂倉準三旧蔵 EXPO'70関連書誌	Books and Magazines Collected by SAKAKURA Junzo	坂倉105-1-12,105-1-14
『図集 EXPO'70』   1969   編集：大阪府建築部 日本万国博覧会建築物等設計図集編集委員会、発行：社団法人大阪府建築士会   大高正人旧蔵書誌	<i>Illustrated book EXPO'70</i> , 1969   Collected by OTAKA Masato	
『架構 空間 人間－日本万国博建築写真集・資料集』   1971   編集・発行：第2回日本建築祭実行委員会	<i>Structure Space Mankind EXPO'70</i> , 1971   Owned by NAMA	
『日本万国博覧会 公式ガイド』   1970   編集・発行：日本万国博覧会協会   大高正人旧蔵書誌	<i>Expo '70 Official Guidebook</i> , 1970   Collected by OTAKA Masato	
『日本万国博覧会公式ガイドマップ』   1970   編集：講談社・東京図書館、発行：大阪府日本万国博覧会記念公園事務所   大高正人旧蔵書誌	<i>Expo '70 Official Guide Map</i> , 1970   Collected by OTAKA Masato	
『日本万国博の建築』   1970   編集・発行：朝日新聞社   大高正人旧蔵書誌	<i>THE EDIFICE IN EXPO'70</i> , 1970   Collected by OTAKA Masato	
『沖縄国際海洋博覧会 公式ガイドマップ』   1975   編集：株式会社講談社・株式会社電通、発行：財団法人沖縄国際海洋博覧会協会	<i>International Ocean Exposition Okinawa 1975, Official Guide Map</i> , 1976   Owned by NAMA	
『沖縄国際海洋博覧会 公式記録（総合編）』   1976   編集：株式会社電通、発行：財団法人沖縄国際海洋博覧会協会   大高正人旧蔵書誌	<i>International Ocean Exposition Okinawa 1976, Official Report</i> , 1976   Collected by OTAKA Masato	
『沖縄国際海洋博覧会 公式ガイドブック』   1975   編集：株式会社講談社・株式会社電通、発行：財団法人沖縄国際海洋博覧会協会	<i>International Ocean Exposition Okinawa 1975, Official Guidebook</i> , 1975   Owned by NAMA	
『沖縄海洋博建築写真集 自然と海と人間の記録』   1975   発行：株式会社新建築社	<i>EXPO'75, OKINAWA ARCHITTECTURE IN PHOTOGRAPHS</i> , 1975   Owned by NAMA	
『Tsukuba Expo'85 公式記録写真集』   1986   編集・発行：国際科学技術博覧会協会   大高正人旧蔵書誌	<i>Tsukuba Expo'85 Pictorial Report</i> , 1986   Collected by OTAKA Masato	
『「科学万博つくば'85」建築の記録』   1985   編集：「科学万博つくば'85」建築の記録刊行委員会、発行：財団法人日本建築学会   大高正人旧蔵書誌	<i>Tsukuba Expo'85 Architectural Record</i> , 1985   Collected by OTAKA Masato	
『新しい会場環境の創造：国際科学技術博覧会会場基盤整備建設記録』   1985   編集：住宅都市整備公団、発行：住宅・都市整備公団研究・学園都市開発局   大高正人旧蔵書誌	<i>Venue Infrastructure Construction Record</i> , 1985   Collected by OTAKA Masato	



## 日本の万国博覧会 1970-2005

『国際科学技術博覧会 会場計画・建設の記録 別冊会場施設図面集』   1986   編集・発行：財団法人国際科学技術博覧会協会、株式会社計画連合   川添登旧蔵書誌	<i>Record of Venue Planning and Construction</i> , 1986   Collected by KAWAZOE Noboru	
『国際花と緑の博覧会・公式ガイドブック』   1990   編集・発行：国際花と緑の博覧会協会   大高正人旧蔵書誌	<i>The International Garden and Greenery Exposition Official Guidebook</i> , 1990   Collected by OTAKA Masato	
国際花と緑の博覧会 関連パンフレット   1990   館蔵大高正人建築設計資料	Pamphlets of Expo '90   OTAKA Masato Archive	
外国庭園出展プラン図面集   1990   館蔵大高正人建築設計資料	Illustrated book for Foreign Garden Exhibition Plans   OTAKA Masato Archive	
国際花と緑の博覧会 第二次会場計画（案）   1988   館蔵大高正人建築設計資料	Second Venue Plan (draft)   OTAKA Masato Archive	
国際花と緑の博覧会 第二次会場計画（案） 検討資料   -   館蔵大高正人建築設計資料	Second Venue Plan (draft) Study Materials   OTAKA Masato Archive	
『2005年日本国際博覧会愛・地球博公式ガイドブック』   2005   発行：2005年日本国際博覧会協会	<i>The 2005 World Exposition, Aichi, Japan, Official Guidebook</i> , 2005   Owned by NAMA	
『2005年日本国際博覧会公式記録』   2006   発行：2005年日本国際博覧会協会	<i>The 2005 World Exposition, Aichi, Japan, Official Report</i> , 2006   Owned by NAMA	
<b>1975 沖縄国際海洋博覧会（沖縄海洋博）</b>		
<b>木村俊彦「水族館構造設計資料」</b>	<b>KIMURA Toshihiko "Aquarium Structural Documents"</b>	
基礎・2階伏図   1:200   1973   プリント、トレーシングペーパー   520×780	Foundation, 2nd Floor Plan   Print on Tracing Paper	14-72-037
基礎・3階伏図   1:200   1973   プリント、トレーシングペーパー   530×772	Foundation, 3rd Floor Plan   Print on Tracing Paper	14-72-038
PC軸組図 (1)   1:200   1973   プリント、トレーシングペーパー   520×775	PC Framing Elevation (1)   Print on Tracing Paper	14-72-043
PCユニット配筋詳細図   1:20   1973   プリント、トレーシングペーパー   520×770	Details of PC Unit Reinforcement   Print on Tracing Paper	14-72-053
PC床版詳細図   1:20, 1:5   1973   プリント、トレーシングペーパー   520×770	Details of PC Floor Slab   Print on Tracing Paper	14-72-058
ショープール 伏図・軸組図   1:200   1975   プリント、鉛筆、トレーシングペーパー   540×795	Show Pool (Open Air Pool), Plan and Framing Elevation   Print and Pencil on Tracing Paper	14-72-010
ショープール つり屋根緑架設計   1975   鉛筆、インク、プリント、紙、青焼き、感熱紙	Show Pool (Open Air Pool), Documents of the Suspended Roof   Pencil, Ink, Print on Paper, Blueprint, Thermal paper	14-539
『沖縄海洋博建築写真集 自然と海と人間の記録』   1975   発行：株式会社新建築社   村田豊旧蔵書誌	<i>EXPO'75, OKINAWA ARCHITECTURE IN PHOTOGRAPHS</i>   Collected by MURATA Yutaka	02436
「[寄稿] 魚クラスター 横文彦」『建築画報 98号』   1975   発行：建築画報社   村田豊旧蔵書誌	"Fish Cluster" by MAKI Fumihiko, <i>A Monthly Journal of Photograph Architecture</i>   Collected by MURATA Yutaka	02485
<b>菊竹清訓「アクアポリス」</b>		
比較検討表   -   -   インク、トレーシングペーパー   1294×850   所蔵：株式会社情報建築	Comparison Chart of Building Types   Ink on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 15-1190-17
スケッチ   -   -   1973   鉛筆、トレーシングペーパー   332×255   所蔵：株式会社情報建築	Sketch   Pencil on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 文75-5
スケッチ   -   -   1973   インク、トレーシングペーパー、紙   450×384   所蔵：株式会社情報建築	Sketch   Ink on Tracing Paper and Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 0045-003
スケッチ   -   -   インク、トレーシングペーパー   426×606   所蔵：株式会社情報建築	Sketch   Ink on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 0045-007
スケッチ   -   -   インク、トレーシングペーパー   425×491   所蔵：株式会社情報建築	Sketch   Ink on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 0045-006
スケッチ   -   -   インク、トレーシングペーパー   425×607   所蔵：株式会社情報建築	Sketch   Ink on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 0045-008
一般図   1:500   -   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   588×845   所蔵：株式会社情報建築	Basic Drawing   Pencil and Ink on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 0046-003
全体立面図   1:200   1973   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   580×846   所蔵：株式会社情報建築	Whole Elevations   Pencil and Ink on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 0048-017
アクアポリス渡海橋一般図   1:500   -   プリント、トレーシングペーパー   597×843   所蔵：株式会社情報建築	Basic Drawing of the Sea Bridge to Aquapolis   Print on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 0050-009
広場面積の比較図   -   -   インク、スクリーントーン、トレーシングペーパー   584×548   所蔵：株式会社情報建築	Comparison of Various Plazas   Ink and Screen-tone on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 15-1190-16
外観（2点）   出典：沖縄国際海洋博覧会協会『沖縄国際海洋博覧会公式記録 総合編』	Exterior   Source: International Ocean Exposition Okinawa 1975, Official Report	
<b>村田豊「沖縄博への提案」</b>		
<b>MURATA Yutaka "Proposal for International Ocean Exposition, Okinawa 1975"</b>		
計画案 EXPO'75 OKINAWA 配置図   1:1000   1973   インク、トレーシングペーパー   595×418	Early Scheme EXPO 75 OKINAWA Site Plan   Ink on Tracing Paper	7-33-67
計画案 EXPO'75 OKINAWA 平面図   1:200   1973   インク、スクリーントーン、トレーシングペーパー   420×590	Early Scheme EXPO 75 OKINAWA Floor Plan   Ink, Screen-tone on Tracing Paper	7-33-78
計画案 EXPO'75 OKINAWA 断面図   1:200   1973   インク、スクリーントーン、トレーシングペーパー   420×598	Early Scheme EXPO 75 OKINAWA Section   Ink, Screen-tone on Tracing Paper	7-33-79
<b>村田豊「美蓉グループパビリオン」</b>		
<b>MURATA Yutaka "Fuyo Group Pavilion"</b>		
屋根伏図   1:100   1973-1975   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   595×845	Roof Plan   Pencil, Ink on Tracing Paper	7-32-76
1階平面図   1:100   1973-1974   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   594×847	1st Floor Plan   Pencil, Ink on Tracing Paper	7-32-69
北立面図 南立面図   1:100   1973-1974   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   597×834	North Elevation, South Elevation   Pencil, Ink on Tracing Paper	7-32-70
断面図   1:100   1973-1974   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   593×837	Sections   Pencil, Ink on Tracing Paper	7-32-29
キャットウォークタラップ詳細図   1:5, 1:20   1974   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   596×846	Details of Catwalk Ladder   Pencil, Ink on Tracing Paper	7-32-33
管理棟屋根植生計画   -   1975   鉛筆、色鉛筆、インク、トレーシングペーパー   548×798	Vegetation planning of Annex   Pencil, Colored pencil, Ink on Tracing Paper	7-32-97
計画案 1階平面図   1:100   1974   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   594×844	Early Scheme of 1st Floor Plan   Pencil, Ink on Tracing Paper	7-33-12
計画案 断面図   1:100   1974   鉛筆、色鉛筆、インク、トレーシングペーパー   594×840	Early Scheme of Sections   Pencil, Colored Pencil, Ink on Tracing Paper	7-33-15
<b>1985 国際科学技術博覧会（つくば科学万博）</b>		
<b>EXPO'85 Tsukuba</b>		
<b>国際科学技術博覧会会場計画第一次試案</b>		
<b>First Tentative Plan for the International Tsukuba Exposition Venue Plan</b>		
科学技術博覧会主会場委員会 議事録   1981   川添登資料	Minutes   KAWAZOE Noboru Archive	16-57-14
大高正人案   1981   大高正人建築設計資料	OTAKA Masato's Master Plan   OTAKA Masato Archive	（報告書より複製）
黒川紀章案   1981   川添登資料	KUROKAWA Kisho's Master Plan   KAWAZOE Noboru Archive	16-57-14
栗津潔案   1981   川添登資料	AWAZU Kiyoshi's Master Plan   KAWAZOE Noboru Archive	16-57-14
宋久庵憲司案   1981   川添登資料	EKUAN Kenji's Master Plan   KAWAZOE Noboru Archive	16-57-14
磯崎新案   1981   川添登資料、大高正人建築設計資料	ISOZAKI Arata's Master Plan   KAWAZOE Noboru Archive, OTAKA Masato Archive	16-57-14, 10-809-4
横文彦案   1981   川添登資料	MAKI Fumihiko's Master Plan   KAWAZOE Noboru Archive	16-57-14
菊竹清訓案   1981   川添登資料	KIKUTAKE Kiyonori's Master Plan   KAWAZOE Noboru Archive	16-57-14
7案の統合案（作成：曾根幸一）   1981   川添登資料、大高正人建築設計資料	Integrated Master Plan of the 7 Plans by SONE Koichi   KAWAZOE Noboru Archive, OTAKA Masato Archive	16-57-14
財団法人国際科学技術博覧会協会『会場基本計画案策定調査』（3冊）   1981   大高正人建築設計資料	The Association for International Exposition, Tsukuba, Japan, 1985, <i>Venue Master Plan Formulation Survey</i>   OTAKA Masato Archive	
全体配置計画   1982   大高正人建築設計資料	Whole Site Plan   OTAKA Masato Archive	10-1-2-1-727-34
主会場計画関連記録   1981.5～1981.9   川添登資料	Records of the Main Venue Planning   KAWAZOE Noboru Archive	16-51-61～65, 70～76
財団法人国際科学技術博覧会協会『国際科学技術博覧会会場計画第一次試案』   1981   複製   大高正人建築設計資料	The Association for International Exposition, Tsukuba, Japan, 1985, <i>First Tentative Plan for the International Tsukuba Exposition Venue Plan</i>   Duplication   OTAKA Masato Archive	

## 日本の万国博覧会 1970-2005

大高正人「Fブロック 外国館・エキスポホール」	OTAKA Masato "F Block Foreign Pavilions and Expo Hall"	
外国展示館 基本設計 配置図 (計画案)   1:500   1983   鉛筆、色鉛筆、トレーシングペーパー   593×837	Foreign Pavilion, Early Scheme of Site Plan   Pencil, Colored Pencil on Tracing Paper	10-605-48
Fブロックアクソノメトリック   -   -   鉛筆、トレーシングペーパー   593×820	F Block, Axonometric   Pencil on Tracing Paper	10-250-6
F BLOCK パース、配置図   -   -   インク、紙、トレーシングペーパー   486×343	F Block, Perspective and Site Plan   Ink, Papers on Tracing Paper	10-305-38
外国館 アクソノメトリック、断面図   -   -   インク、鉛筆、スクリーントーン、紙、トレーシングペーパー   415×292	Foreign Pavilion, Axonometric and Section   Ink, Pencil, Screen-tone, Papers on Tracing Paper	10-305-36
外国展示館 (F-1号館) 立面図 断面図   1:200   -   鉛筆、トレーシングペーパー   590×837	Foreign Pavilion, Elevations and Sections   Pencil on Tracing Paper	10-610-28
小ホール (エキスポホール) 2階平面図   1:100   1985   鉛筆、トレーシングペーパー   595×840	Expo Hall, 2nd Floor Plan   Pencil on Tracing Paper	10-616-12
小ホール (エキスポホール) 断面図   1:100   1985   鉛筆、色鉛筆、トレーシングペーパー   595×840	Expo Hall, Sections   Pencil, Colored Pencil on Tracing Paper	10-616-16
小ホール (エキスポホール) 立面図   1:30   1985   鉛筆、色鉛筆、トレーシングペーパー   596×844	Expo Hall, Elevation   Pencil, Colored Pencil on Tracing Paper	10-603-11
エキスポホール 鉄骨姿図   -   -   インク、鉛筆、トレーシングペーパー   605×840	Expo Hall, Steel Structure Diagram   Ink, Pencil on Tracing Paper	10-246-8
菊竹清訓「Bブロック外国館」	KIKUTAKE Kiyonori "B Block Foreign Pavilions"	
平面図   -   1984   鉛筆、色鉛筆、青焼き、紙   596×1195   所蔵：株式会社情報建築	Floor Plan   Pencil and Colored Pencil on Blueprint and Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 15-2007-050
植栽工事平面図   1:50   -   プリント、鉛筆、トレーシングペーパー   594×1120   所蔵：株式会社情報建築	Planting Construction Floor Plan   Print and Pencil on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 15-2010-025
断面詳細図   1:50,1:10   -   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   596×841   所蔵：株式会社情報建築	Detailed Section   Pencil and Ink on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 15-2021-011
立面図   1:200   -   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   596×841   所蔵：株式会社情報建築	Elevation   Pencil and Ink on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 15-2021-008
断面図   1:200   -   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   596×841   所蔵：株式会社情報建築	Section   Pencil and Ink on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 15-2021-009
配置計画   1:500   1983   鉛筆、インク、トレーシングペーパー   591×840   所蔵：株式会社情報建築	Site Plannig   Pencil and Ink on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 15-2012-011
スケッチ (9点)   1983   インク、鉛筆、色鉛筆、プリント、トレーシングペーパー   所蔵：株式会社情報建築	Sketches   Ink, Pencil, Colored Pencil, Print on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 15-2007-11, 15-2007-16, 15-2007-17, 15-2009-43, 15-2016-2, 15-2016-
高橋てい一+第一工房「迎賓館 (協会本部別館)」	TAKAHASHI Teiichi + DAICHI-KOBO "Guest House"	
レセプションホール断面図   1:30   1984   プリント、鉛筆、トレーシングペーパー   591×841	Reception Hall Section   Print and Pencil on Tracing Paper	23-415-43
立面図   1:100   -   プリント、トレーシングペーパー   594×998	Elevation   Print on Tracing Paper	23-414-90
屋根伏図   1:100   -   プリント、トレーシングペーパー   596×999	Roof Plan   Print on Tracing Paper	23-414-89
平面図   1:100   -   プリント、トレーシングペーパー   596×999	Floor Plan   Print on Tracing Paper	23-414-88
展開詳細図   1:50   -   プリント、トレーシングペーパー   591×838	Interior Elevation   Print on Tracing Paper	23-414-98
展開詳細図   1:50   -   プリント、トレーシングペーパー   591×840	Interior Elevation   Print on Tracing Paper	23-414-99
1990 国際花と緑の博覧会 (花博)	EXPO'90 Osaka	
磯崎新「国際陳列館」「水の館」	ISOZAKI Arata "International Exhibition Hall", "Water Hall"	
磯崎新 外国展示館 模型写真   -   1993   プリント、紙   297×420   館蔵大高正人建築設計資料	Isozaki Arata, Model of International Exhibition Hall   Print on Paper   OTAKA Masato Archive	10-5980
磯崎新 外国展示館 基本計画図 1階平面図   -   1993   プリント、紙   297×420   館蔵大高正人建築設計資料	Isozaki Arata, 1st Floor Plan of International Exhibition Hall   Print on Paper   OTAKA Masato Archive	10-5980
磯崎新 外国展示館 基本計画図 立面図   -   1993   プリント、紙   297×420   館蔵大高正人建築設計資料	Isozaki Arata, Elevations of International Exhibition Hall   Print on Paper   OTAKA Masato Archive	10-5980
磯崎新 外国展示館 基本計画図 断面図   -   1993   プリント、紙   297×420   館蔵大高正人建築設計資料	Isozaki Arata, Sections of International Exhibition Hall   Print on Paper   OTAKA Masato Archive	10-5980
『国際花と緑の博覧会記録写真集』   1990   編集：花と緑EXPO'90出版事務局、発行：開隆堂	The International Garden and Greenery Exposition, Osaka, Japan 1990 - Photograph Album, 1990   Owned by NAMA	
『国際展示館記録集』   1990   編集・発行：財団法人国際花と緑の博覧会協会	Record of The International Exhibits Hall, 1990   Owned by NAMA	
『新建築 1990年5月号』   1990   発行：株式会社新建築社	SHINKENCHIKU, 1990   Owned by NAMA	
13フォリー	Osaka Follies	
世界の建築家花博につどう実行委員会主催「世界の建築家花博につどう 都市と住宅 人間環境再考」   -   1990   プリント、紙   所蔵：建築・都市ワークショップ	"Architects from around the world gather at the EXPO 1990: Rethinking the human environment: cities and housing"   Pamphlet   Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
『大阪フォリー』 Architectural Association of London、建築・都市ワークショップ、1991   所蔵：建築・都市ワークショップ	"OSAKA FOLLIES", Architectural Association of London and Workshop for Architecture and Urbanism, 1991   Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
マクドナルド&サルター フォリー1   -   1991   プリント、紙   229×458   館蔵『OSAKA FOLLIES』 Architectural Association of London、建築・都市ワークショップ、1991   所蔵：建築・都市ワークショップ	Macdonald & Salter, Folly 1   Print on Paper   Source: "OSAKA FOLLIES" Architectural Association of London and Workshop for Architecture and Urbanism, 1991   Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
模型写真   撮影：アトリエモバイル、所蔵：建築・都市ワークショップ	Model Photo   Photo by Atelier Mobile, By Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
アーキテクチュルビュロー・ボレス＝ウィルソン フォリー2   -   1991   プリント、紙   229×229   館蔵『OSAKA FOLLIES』 Architectural Association of London、建築・都市ワークショップ、1991   所蔵：建築・都市ワークショップ	Architekturbüro Bolles-Wison, Folly 2   Print on Paper   Source: "OSAKA FOLLIES" Architectural Association of London and Workshop for Architecture and Urbanism, 1991   Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
模型写真   撮影：ピーター・ウィルソン、所蔵：建築・都市ワークショップ	Model Photo   Photo by Peter Wilson, By Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
ザハ・ハディッド フォリー3   -   1991   プリント、紙   229×229   館蔵『OSAKA FOLLIES』 Architectural Association of London、建築・都市ワークショップ、1991   所蔵：建築・都市ワークショップ	Zaha Hadid, Folly 3   Print on Paper   Source: "OSAKA FOLLIES" Architectural Association of London and Workshop for Architecture and Urbanism, 1991   Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
模型写真   撮影・所蔵：建築・都市ワークショップ	Model Photo   By Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
鈴木二 フォリー4   -   1991   プリント、紙   229×687   館蔵『OSAKA FOLLIES』 Architectural Association of London、建築・都市ワークショップ、1991   所蔵：建築・都市ワークショップ	SUZUKI Ryoji, Folly 4   Print on Paper   Source: "OSAKA FOLLIES" Architectural Association of London and Workshop for Architecture and Urbanism, 1991   Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
模型写真 (2点)   撮影・所蔵：建築・都市ワークショップ	Model Photo   By Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
クック&ホーリー フォリー5   -   1991   プリント、紙   229×229   館蔵『OSAKA FOLLIES』 Architectural Association of London、建築・都市ワークショップ、1991   所蔵：建築・都市ワークショップ	Cook & Hawley, Folly 5   Print on Paper   Source: "OSAKA FOLLIES" Architectural Association of London and Workshop for Architecture and Urbanism, 1991   Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
模型写真   撮影：安藤和弘、所蔵：建築・都市ワークショップ	Model Photo   Photo by ANDO Kazuhiro, By Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
コップ・ヒンメルブラウ フォリー6   -   1991   プリント、紙   229×687   館蔵『OSAKA FOLLIES』 Architectural Association of London、建築・都市ワークショップ、1991   所蔵：建築・都市ワークショップ	Coop Himmelb(l)au, Folly 6   Print on Paper   Source: "OSAKA FOLLIES" Architectural Association of London and Workshop for Architecture and Urbanism, 1991   Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】

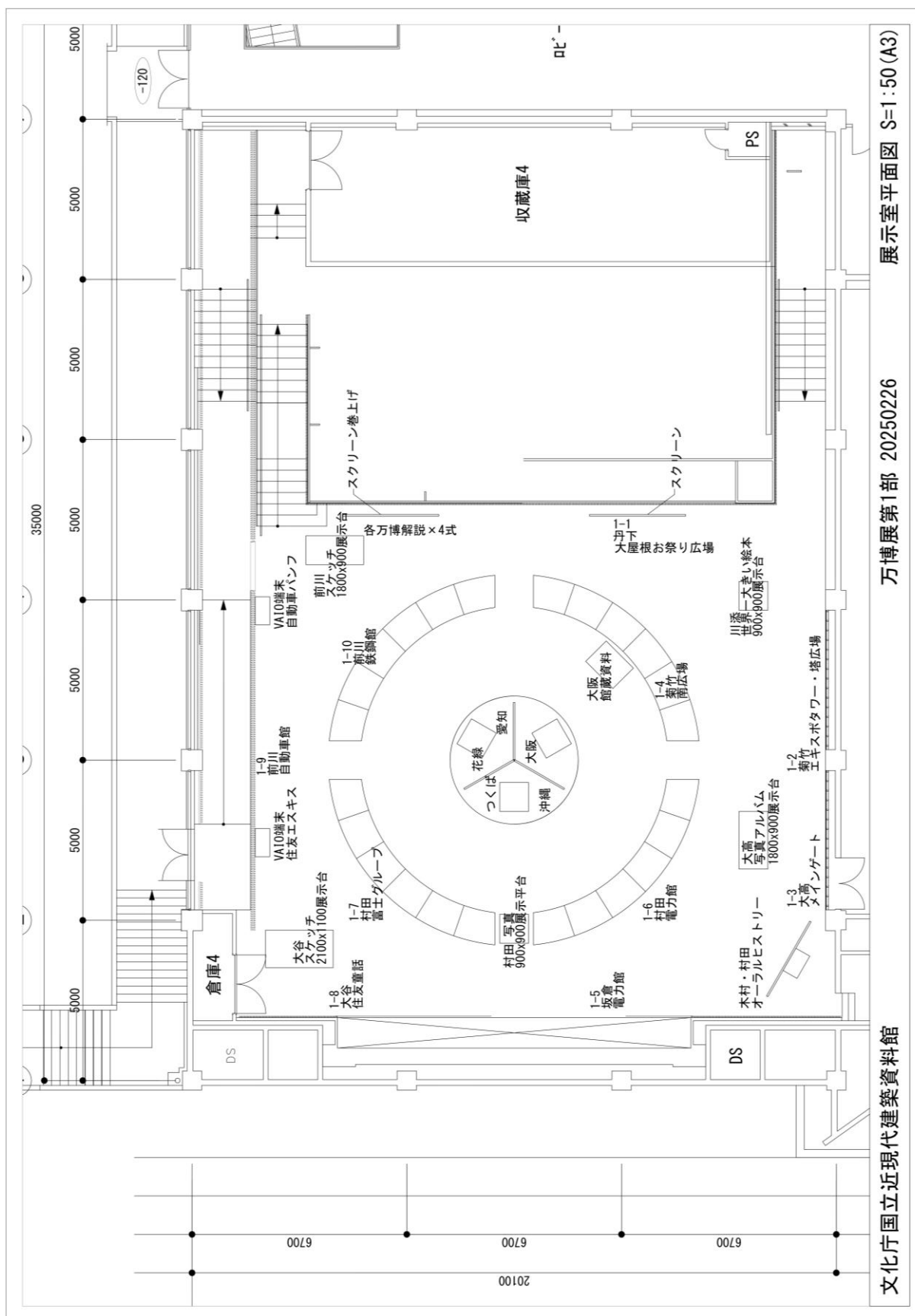


## 日本の万国博覧会 1970-2005

模型写真   撮影・所蔵：建築・都市ワークショップ	Model Photo   By Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
マルティネス・ラベニャ&トーレス アーキテツツ フォリー7   -   1991   プリント、紙   229×229   館蔵『OSAKA FOLLIES』 Architectural Association of London、建築・都市ワークショップ、1991   所蔵：建築・都市ワークショップ	Martínez Lapeña – Torres Architects, Folly 7   Print on Paper   Source: "OSAKA FOLLIES" Architectural Association of London and Workshop for Architecture and Urbanism, 1991   Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
外観 (3点)   撮影・所蔵：建築・都市ワークショップ	Exterior   By Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
モーフシス フォリー8   -   1991   プリント、紙   229×229   館蔵『OSAKA FOLLIES』 Architectural Association of London、建築・都市ワークショップ、1991   所蔵：建築・都市ワークショップ	Morphosis, Folly 8   Print on Paper   Source: "OSAKA FOLLIES" Architectural Association of London and Workshop for Architecture and Urbanism, 1991   Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
模型写真 (2点)   撮影・所蔵：建築・都市ワークショップ	Model Photo   By Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
ダニエル・リベスキンド フォリー9   -   1991   プリント、紙   229×687   館蔵『OSAKA FOLLIES』 Architectural Association of London、建築・都市ワークショップ、1991   所蔵：建築・都市ワークショップ	Daniel Libeskind, Folly 9   Print on Paper   Source: "OSAKA FOLLIES" Architectural Association of London and Workshop for Architecture and Urbanism, 1991   Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
模型写真   撮影・所蔵：建築・都市ワークショップ	Model Photo   By Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
アンドレア・ブランツィ フォリー10   -   1991   プリント、紙   229×229   館蔵『OSAKA FOLLIES』 Architectural Association of London、建築・都市ワークショップ、1991   所蔵：建築・都市ワークショップ	Andrea Branzi, Folly 10   Print on Paper   Source: "OSAKA FOLLIES" Architectural Association of London and Workshop for Architecture and Urbanism, 1991   Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
外観 (2点)   撮影・所蔵：建築・都市ワークショップ	Exterior   By Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
ジガンテス&ゼンゲリス フォリー11   -   1991   プリント、紙   229×229   館蔵『OSAKA FOLLIES』 Architectural Association of London、建築・都市ワークショップ、1991   所蔵：建築・都市ワークショップ	Gigantes Zenghelis, Folly 11   Print on Paper   Source: "OSAKA FOLLIES" Architectural Association of London and Workshop for Architecture and Urbanism, 1991   Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
模型写真   撮影：八束はじめ	Model Photo   Photo by YATSUKA Hajime	【借用】
八束はじめ フォリー12・13   -   1991   プリント、紙   229×458   館蔵『OSAKA FOLLIES』 Architectural Association of London、建築・都市ワークショップ、1991   所蔵：建築・都市ワークショップ	YATSUKA Hajime, Folly 12, 13   Print on Paper   Source: "OSAKA FOLLIES" Architectural Association of London and Workshop for Architecture and Urbanism, 1991   Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
模型写真 (2点)   撮影：八束はじめ	Model Photo   Photo by YATSUKA Hajime	【借用】
「テレスコープ4号」 Autumn1989、建築・都市ワークショップ   所蔵：建築・都市ワークショップ	TELESCOPE the printed city, Autumn1989, Workshop for Architecture and Urbanism   Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
国際花と緑の博覧会フォリー写真   1990   35mmポジフィルムをデジタル複製   サイズ可変   館蔵建築・都市ワークショップ作成スライドマウントファイル「国際花と緑の博覧会フォリー写真」   所蔵：建築・都市ワークショップ	Photo Record of the International Garden and Greenery Exposition   Digital Images   Courtesy of Workshop for Architecture and Urbanism	【借用】
2005 日本国際博覧会 (愛・地球博 / 愛知万博)		EXPO2005 Aichi
菊竹清訓「グローバル・ループ」		KIKUTAKE Kiyonori "Global Loop"
GLレベル全体平面図   1:1500   2002   プリント・トレーシングペーパー   842×595   所蔵：株式会社情報建築	Whole Floor Plan at GL Level   Print on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 ループ-012
柱脚部掘削計画図   1:2000 1:120   2002   プリント・トレーシングペーパー   594×842   所蔵：株式会社情報建築	Excavation Plan of Column Base   Print on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 ループ-054
パーゴラ詳細図   1:100 1:30 1:10   2002   プリント・トレーシングペーパー   594×842   所蔵：株式会社情報建築	Pergola 1Detailed Drawing   Print on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 ループ-048
ループ構造種別標準図   1:150   2002   プリント・トレーシングペーパー   842×594   所蔵：株式会社情報建築	Loop Standard Drawing of Structural types   Print on Tracing Paper   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】 ループ-015
2005年日本国際博覧会 (愛知万博) 基本計画   2001   発行：財団法人2005年日本国際博覧会協会   所蔵：株式会社情報建築	Basic Design Plan   Japan Association for the 2005 World Exposition   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】
2005年日本国際博覧会 ループ建築実施設計業務 報告書   工区   2003   青焼製本   発行：財団法人2005年日本国際博覧会協会、菊竹清訓建築設計事務所・環境システム研究所設計共同体   所蔵：株式会社情報建築	Detailed Design Work for the Loop, Report   Blueprint   Japan Association for the 2005 World Exposition, KIKUTAKE Kiyonori・ESCO   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】
2005年日本国際博覧会 会場基本計画作成業務 報告書   2001   発行：財団法人2005年日本国際博覧会協会   所蔵：株式会社情報建築	Master Plan Development, Report   Japan Association for the 2005 World Exposition   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】
2005年日本国際博覧会 会場基本設計業務 (ループ) 基本設計計画書   2002   発行：財団法人2005年日本国際博覧会協会、菊竹清訓建築設計事務所・環境システム研究所設計共同体   所蔵：株式会社情報建築	Master Plan Development(Loop), Basic Design Plan   Japan Association for the 2005 World Exposition, KIKUTAKE Kiyonori・ESCO   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】
2005年日本国際博覧会 会場基本設計業務 (ループ) 基本設計計画書 (概要版)   2002   発行：財団法人2005年日本国際博覧会協会、菊竹清訓建築設計事務所・環境システム研究所設計共同体   所蔵：株式会社情報建築	Master Plan Development(Loop), Basic Design Plan(Summary)   Japan Association for the 2005 World Exposition, KIKUTAKE Kiyonori・ESCO   ©KIKUTAKE Kiyonori	【借用】
『新建築 2005年5月号』   2005   発行：株式会社新建築社	SHINKENCHIKU, 2005   Owned by NAMA	
高橋てい一+第一工房「瀬戸愛知県館」		TAKAHASHI Teiichi + DAIICHI-KOBO "Aichi Pavilion Seto"
1階平面図   1:100   2003   プリント、トレーシングペーパー   592×840	1st Floor Plan   Print on Tracing Paper	23-413-20
2階平面図   1:100   2003   プリント、トレーシングペーパー   592×840	2nd Floor Plan   Print on Tracing Paper	23-413-21
南立面図   1:150   2003   プリント、トレーシングペーパー   592×840	South Elevation   Print on Tracing Paper	23-413-25
断面図   1:150   2003   プリント、トレーシングペーパー   592×840	Section   Print on Tracing Paper	23-413-28
矩形図   1:50   2003   プリント、トレーシングペーパー   592×840	Detailed Section   Print on Tracing Paper	23-413-33
構造概要図   1:200   2003   プリント、トレーシングペーパー   592×840	Structural Outline Drawing   Print on Tracing Paper	23-413-84
模型写真 (仮設時・3点)   -   -   館蔵高橋鉄一・第一工房資料	Model (Temporary)   TAKAHASHI Teiichi and DAIICHI-KOBO Associates Archive	
模型写真 (恒久部・3点)   -   -   館蔵高橋鉄一・第一工房資料	Model (Permanent)   TAKAHASHI Teiichi and DAIICHI-KOBO Associates Archive	
ロビー映像		Movie Contents
イントロダクション   2025   4分40秒   制作：文化庁国立近現代建築資料館   編集：吉原聖 / セイムービースタジオ	Introduction   4min 40sec   Production: National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs   Editing: YOSHIHARA Sei/SEI MOVIE STUDIO	

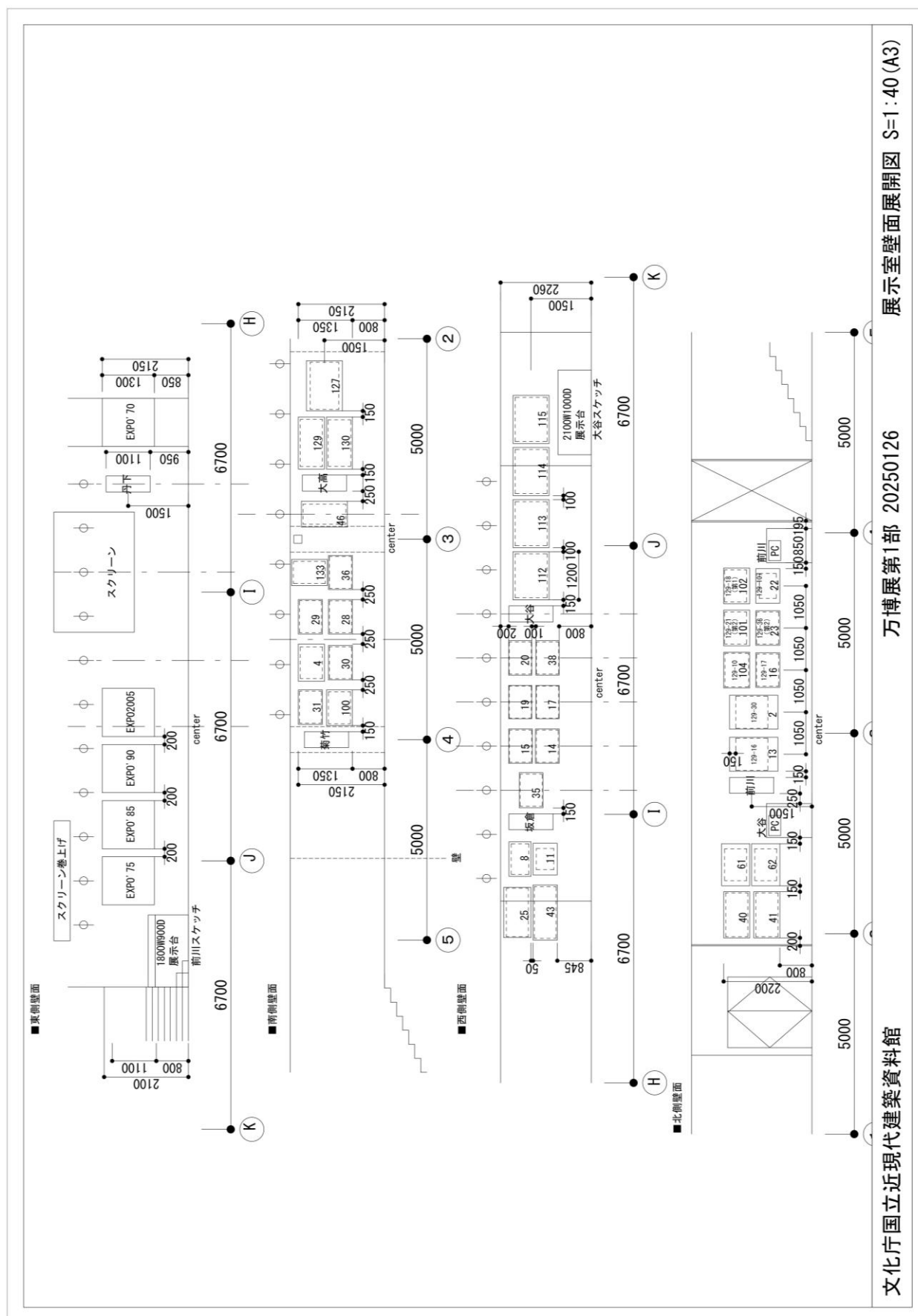
## 会場レイアウト図

## 第1部 展示室レイアウト

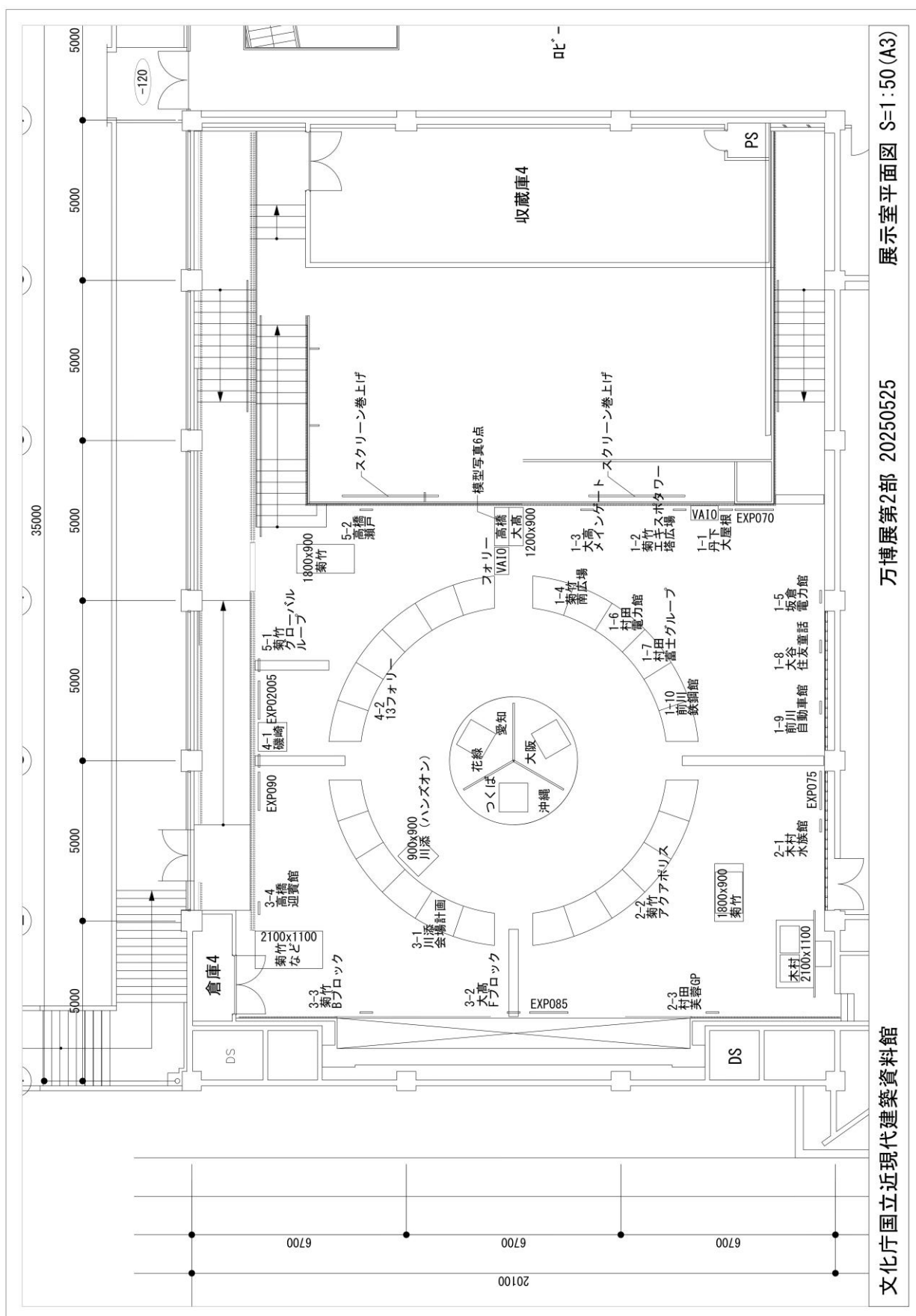




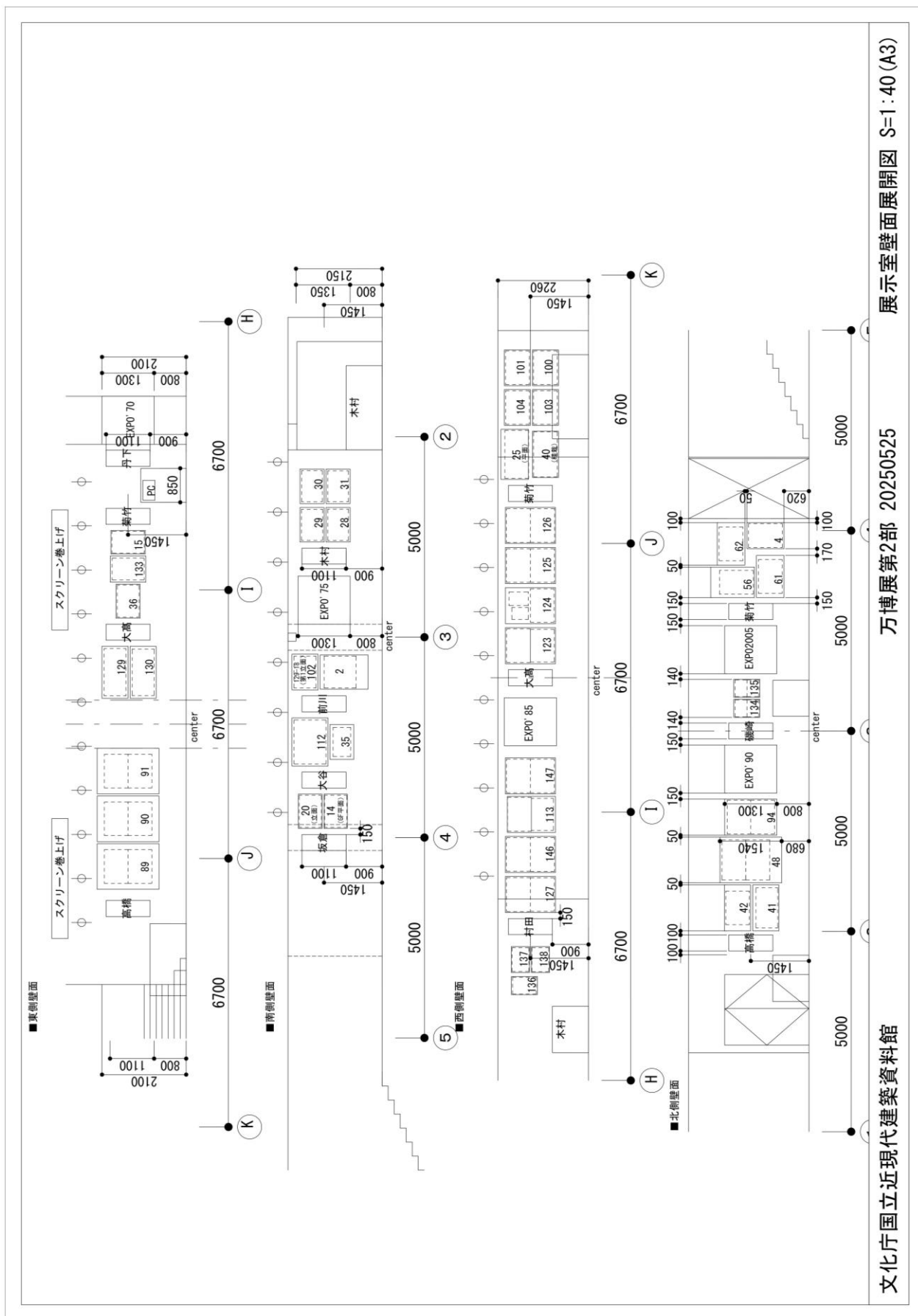
## 第1部 展示室壁面展開図



第2部 展示室レイアウト



## 第2部 展示室壁面展開図





会場写真

■第1部 会場写真

1-1 丹下健三「基幹施設計画 大屋根・お祭り広場」



1-2 菊竹清訓「南広場」



1-3 菊竹清訓「エキスポタワー・塔広場」



1-4 大高正人「メインゲート」





オーラルヒストリー 木村俊彦、村田豊



1-9 前川國男「自動車館」





中央円形台

1975 沖縄国際海洋博覧会（沖縄海洋博）、1985 国際科学技術博覧会（つくば科学万博）



中央円形台

1990 国際花と緑の博覧会（花博）、2005 日本国際博覧会（愛・地球博 / 愛知万博）

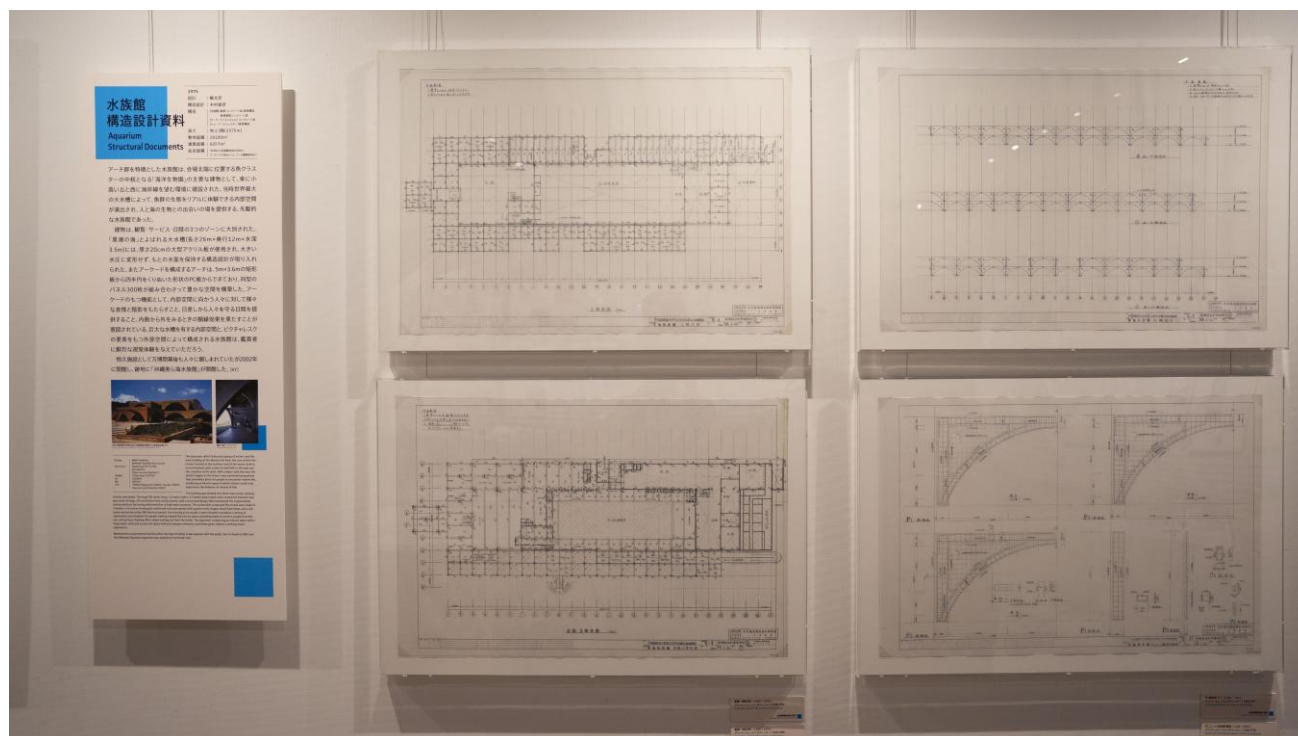




## ■第2部 会場写真

### 1975 沖縄国際海洋博覧会（沖縄海洋博）

#### 木村俊彦「水族館構造設計資料」



#### 村田豊「芙蓉グループパビリオン」



## 日本の万国博覧会 1970-2005

### 1985 国際科学技術博覧会（つくば科学万博）

#### 菊竹清訓「B ブロック外国館」



### 1990 国際花と緑の博覧会（花博）

#### 磯崎新「国際陳列館」「水の館」

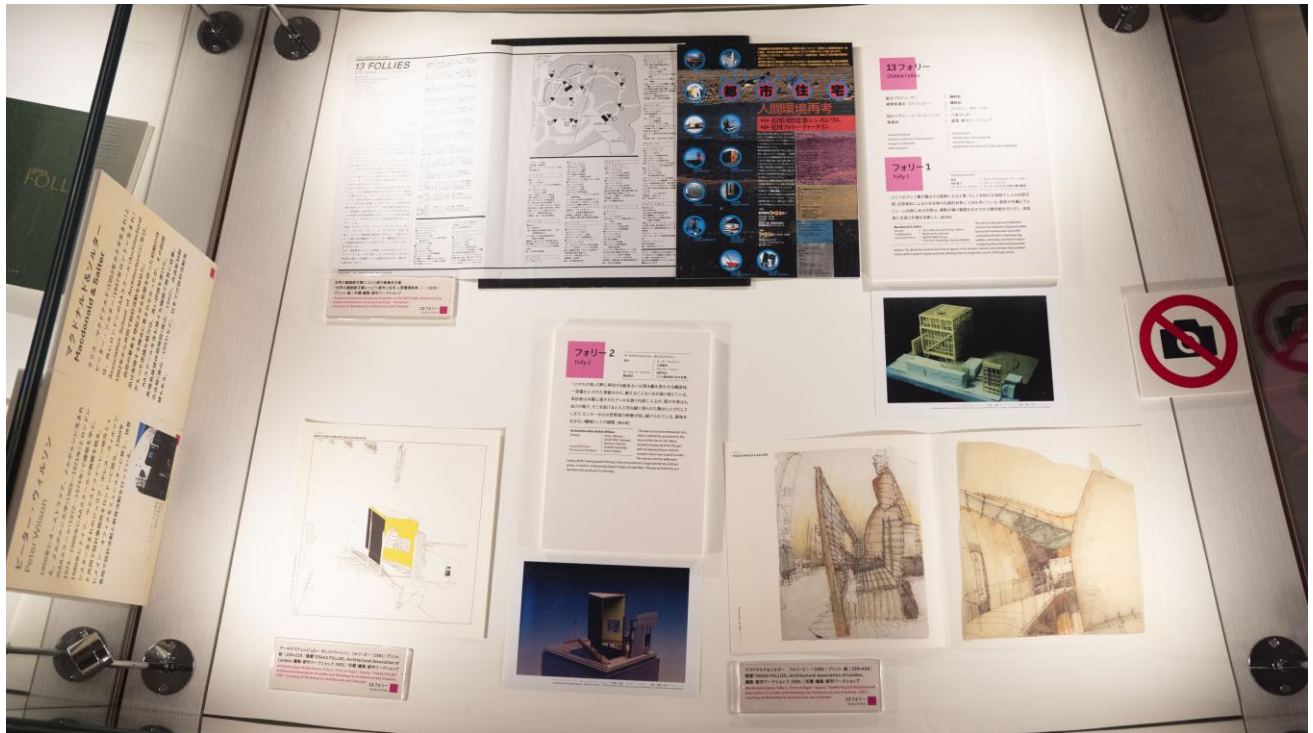




## 日本の万国博覧会 1970-2005

### 1990 国際花と緑の博覧会（花博）

#### 13 フォリー



### 2005 日本国際博覧会（愛・地球博 / 愛知万博）

#### 高橋てい＋第一工房「瀬戸愛知県館」



床サイン 1990 国際花と緑の博覧会（花博）



第2部 中央円形台





# ■当館展示担当職員によるガイドツアー

全日 14 時から約 50 分で開催

## 第1部 ガイドツアー

開催日	参加者数
4月3日(木)	10名
4月17日(木)	21名
5月1日(木)	18名
5月15日(木)	20名
合計	<b>69名</b>

## 第2部 ガイドツアー

開催日	参加者数
7月3日(木)	10名
7月17日(木)	17名
7月31日(木)	17名
8月21日(木)	26名
合計	<b>70名</b>

**合計 139名**





## 第1部 館内シンポジウム： 参加者 40名

日時：3月23日（日）14:00～15:30

主題：「EXPO'70（大阪万博）を回想し、再考する」

パネラーおよびテーマ：

「大阪万博の会場計画」田路貴浩（京都大学大学院工学研究科建築学専攻教授）

「お祭り広場のデザイン」前田尚武（京都美術工芸大学特任教授）

「世界の万博建築の系譜」小林克弘（当館主任建築資料調査官・東京都立大学名誉教授）

進行：王聖美（当館研究補佐員）

## 第2部 館内シンポジウム： 参加者 68名

日時：6月28日（土）14:00～15:30

主題：「知られざる試みと隠れた意義—EXPO'75以降の万博会場デザインについて」

パネラーおよびテーマ：

「幻のマスタープラン群つくば科学万博」

小林克弘（当館主任建築資料調査官・東京都立大学名誉教授）

「OsakaFollies/大阪フォリーは役立たず建築だったのか？花と緑の博覧会 1990年」

鈴木明（近現代建築論、工学博士）

「EXPOにみる建築のTURNING POINT—between analogue - digital」

宇野求（建築家、工学博士）

進行：王聖美（当館研究補佐員）



広 報



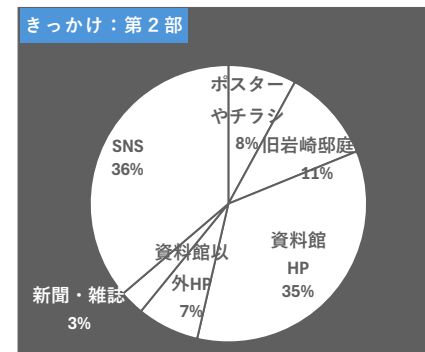
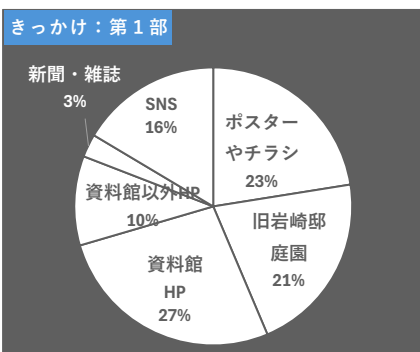
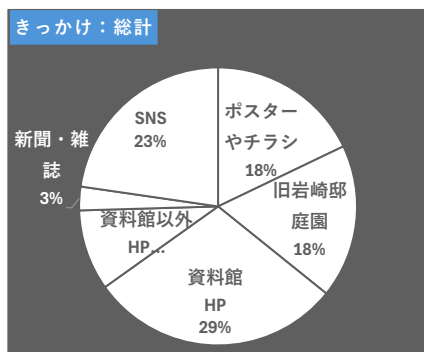
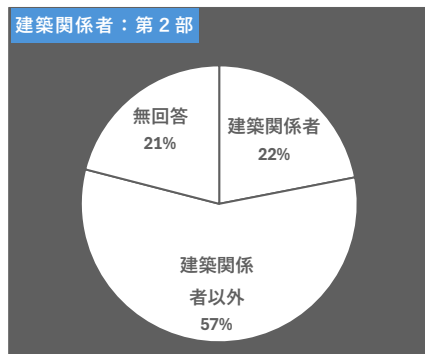
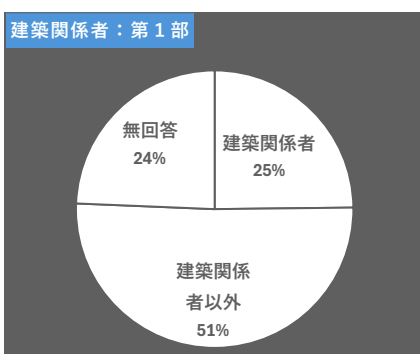
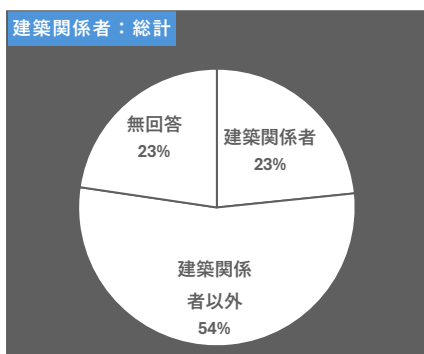
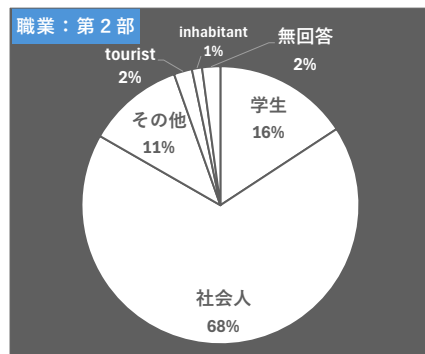
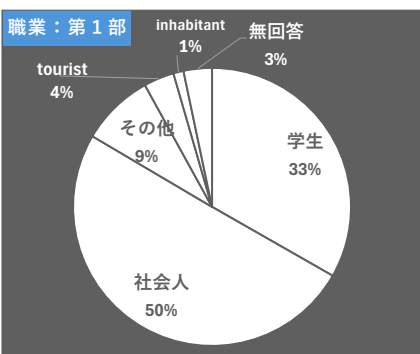
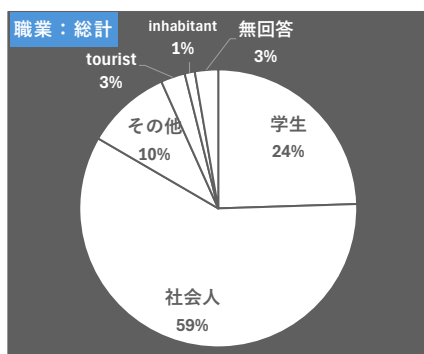
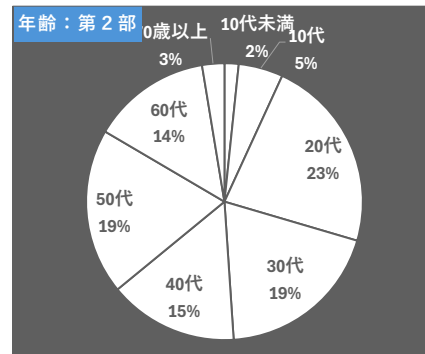
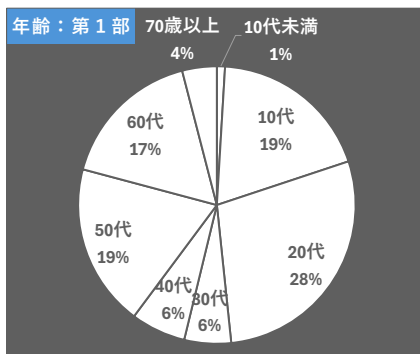
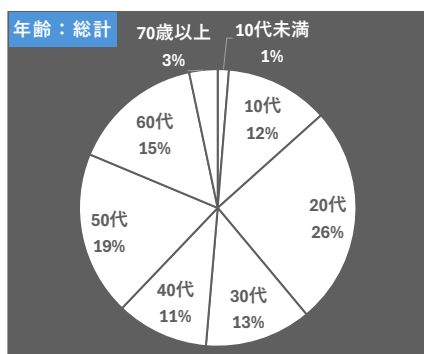
## 日別来場者数

月	日にち	曜日	入館者数			天気	連絡事項
			正門	岩崎邸	合計		
3	7	金	30	0	30	曇	※関係者プレビューの日
	8	土	0	73	73	曇のち雨	
	9	日	0	141	141	晴	
	10	月	7	0	7	晴	【休館日】神奈川県立図書館関係者 7名
	11	火	27	41	68	曇	
	12	水	38	42	80	曇のち雨	日本民家小委員会 7名
	13	木	37	31	68	晴	国交省・研修生 10名含む
	14	金	72	35	107	晴	テンプル大学学生 18名
	15	土	0	115	115	曇のち雨	
	16	日	0	41	41	雨	
	17	月			0	晴	休館日
	18	火	23	25	48	曇	
	19	水	19	18	37	雨/雪のち晴	
	20	祝・木	0	105	105	晴	
	21	金	78	94	172	晴	
	22	土	0	118	118	晴	
	23	日	9	133	142	晴	シンポジウム開催（参加者40名）関係者9名
	24	月			0		休館日
	25	火	30	54	84	晴	
	26	水	38	33	71	晴	
	27	木	22	58	80	晴	
	28	金	52	18	70	雨のち晴	
	29	土	0	39	39	雨	
	30	日	0	128	128	曇	
	31	月			0		休館日
4	1	火	17	5	22	雨	
	2	水	24	15	39	雨	
	3	木	27	21	48	雨	ガイドツアー（10名）
	4	金	42	45	87	晴	
	5	土	0	133	133	晴	
	6	日	0	122	122	曇	
	7	月			0		休館日
	8	火	24	25	49	晴	
	9	水	30	25	55	晴	
	10	木	33	20	53	曇	
	11	金	22	9	31	曇	
	12	土	0	156	156	晴	
	13	日	0	40	40	雨	
	14	月			0		休館日
	15	火	34	25	59	晴	
	16	水	34	22	56	晴	
	17	木	55	22	77	晴	ガイドツアー（21名）
	18	金	42	21	63	晴	
	19	土	0	112	112	晴	
	20	日	0	125	125	曇	
	21	月			0		休館日
	22	火	29	26	55	曇	
	23	水	10	14	24	雨	
	24	木	30	15	45	曇	
	25	金	123	32	155	曇	【団体見学・ガイドあり】①建設株式会社18名 ②サイエンスフロンティア高等学校63名
	26	土	0	112	112	晴のち曇	
	27	日	0	140	140	晴	
	28	月			0		
	29	祝・火	0	155	155	晴	
	30	水	60	48	108	晴	
5	1	木	63	66	129	晴	ガイドツアー（18名）
	2	金	14	33	47	雨	
	3	土	0	149	149	晴	
	4	日	0	520	520	晴	岩崎邸無料開園日
	5	祝・月	0	210	210	晴	
	6	振・火	0	43	43	雨	
	7	水	17	35	52	晴	
	8	木	45	29	74	曇	【団体見学・ガイドあり】青山学院大学 16名
	9	金	51	62	113	曇	【団体見学・ガイドあり】多摩美術大学 12名
	10	土	0	74	74	雨のち曇	
	11	日	0	155	155	晴	
	12	月			0		休館日
	13	火	33	33	66	晴	
	14	水	34	32	66	晴	
	15	木	126	42	168	晴	ガイドツアー（20名）【団体見学・ガイドあり】多摩美術大学 20名 フロリダ大学18名
	16	金	45	35	80	晴	
	17	土	0	58	58	雨	
	18	日	0	146	146	曇	国際博物館の日記念館内シンポジウム3回上映（1回目3人+2回目4人+3回目2人）
	19	月			0		休館日
	20	火	48	20	68	晴	【団体見学・ガイドあり】法政大学・千葉大学 30名
	21	水	80	33	113	晴	
	22	木	46	28	74	曇	
	23	金	75	43	118	曇	
	24	土	0	407	407	曇	東京建築祭ガイドツアー（30名）含む
	25	日	0	308	308	曇	
合計			1,795	5,388	7,183		

日本の万国博覧会 1970-2005

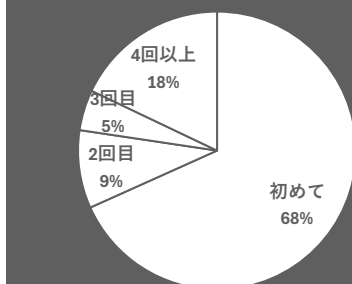
月	日にち	曜日	入館者数			天気	連絡事項
			正門	岩崎邸	合計		
							※関係者プレビューなし
6	14	土	0	87	87	曇/雨	
	15	日	0	53	53	曇	
	16	月			0		休館日
	17	火	40	12	52	晴	
	18	水	53	20	73	晴	
	19	木	50	8	58	晴	
	20	金	67	30	97	晴	
	21	土	0	101	101	晴	
	22	日	0	57	57	晴	
	23	月			0		休館日
	24	火	22	17	39	くもり	
	25	水	28	13	41	雨	
	26	木	30	15	45	曇	
	27	金	55	20	75	晴	
7	28	土	0	130	130	晴	シンポジウム開催（午前上映会参加者22人、午後シンポ参加者68人）
	29	日	0	80	80	晴	
	30	月			0		休館日
	1	火	33	11	44	晴・曇	
	2	水	26	28	54	曇	
	3	木	29	9	38	晴	ガイドツアー（10名）
	4	金	86	20	106	晴	高校生団体40名、文化庁職員 15名
	5	土	0	50	50	晴	
	6	日	0	54	54	晴	
	7	月			0		休館日
	8	火	22	20	42	晴	
	9	水	25	15	40	晴	
	10	木	18	11	29	晴	
	11	金	46	25	71	曇り	
	12	土	0	107	107	曇り	
	13	日	0	59	59	晴	
	14	月			0		休館日
	15	火	33	8	41	雨のち曇り	
	16	水	19	23	42	雨・曇	
	17	木	37	10	47	晴	ガイドツアー（17名）
	18	金	37	33	70	晴	習志野市建築士会見学（12名・ガイドあり）
	19	土		71	71	晴	
	20	日	0	97	97	晴	
	21	祝・月	0	70	70	晴	海の日
	22	火				晴	休館日
	23	水	32	15	47	晴	
	24	木	27	16	43	晴	
	25	金	29	21	50	晴	
	26	土	0	67	67	晴	
	27	日	0	62	62	晴	
	28	月			0		休館日
	29	火	60	11	71	晴	千葉大 19名
	30	水	16	15	31	晴	
	31	木	29	18	47	晴	ガイドツアー（17名）
8	1	金	25	18	43	曇・雨	
	2	土	0	51	51	曇・晴	
	3	日	0	68	68	晴	
	4	月			0		休館日
	5	火	17	18	35	晴（猛暑）	
	6	水	24	11	35	晴（猛暑）	
	7	木	23	18	41	晴	
	8	金	49	27	76	晴・雨	国交省見学者 20名
	9	土	0	62	62	晴	
	10	日	0	54	54	雨	
	11	祝・月	0	112	112	曇・雨	山の日 シンポジウム映像上映会（第1部）
	12	火			0		休館日
	13	水	43	32	75	晴	
	14	木	67	48	115	晴	
	15	金	67	43	110	晴	
	16	土	0	96	96	晴	シンポジウム映像上映会（第2部）視聴者16人（6人*10人）
	17	日	0	66	66	晴	
	18	月			0		休館日
	19	火	26	10	36	晴	
	20	水	45	18	63	晴	
	21	木	12	48	60	晴	ガイドツアー（26名）
	22	金	47	16	63	曇	
	23	土	0	86	86	晴	
	24	日	0	98	98	晴	シンポジウム映像上映会（第2部）視聴者18人（8人*10人）
	25	月			0		休館日
	26	火	149	41	190	晴	
	27	水	147	29	176	晴	
	28	木	148	31	179	曇	
	29	金	199	34	233	晴	
	30	土	0	415	415	晴	
	31	日	0	446	446	晴	
	合計		2,037	3,585	5,622		

アンケート結果 回答数：850 件（第 1 部 426 件、第 2 部 424 件）

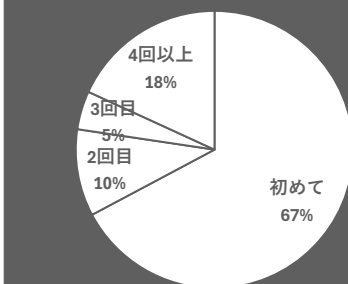




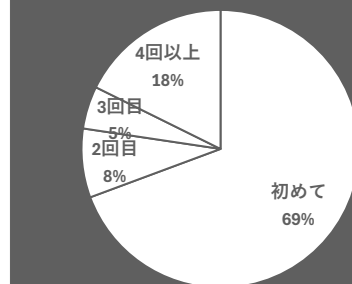
来館回数：総計



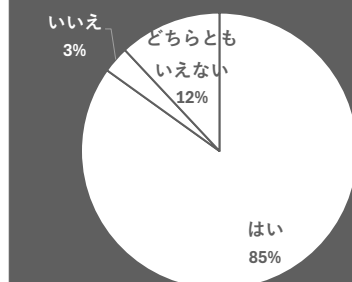
来館回数：第1部



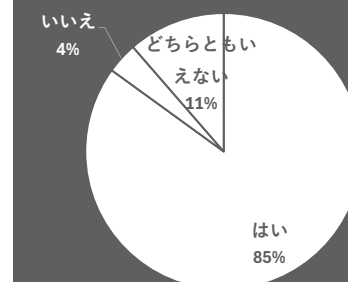
来館回数：第2部



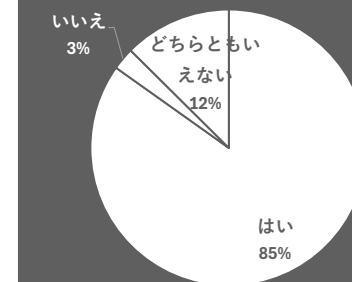
分かりやすさ：総計



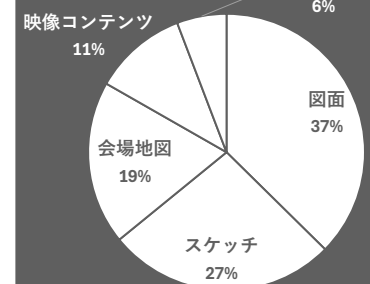
分かりやすさ：第1部



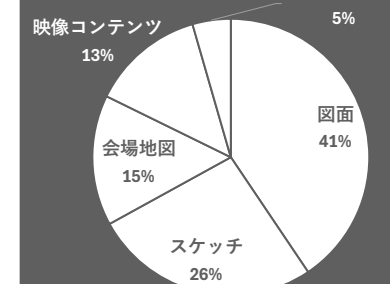
分かりやすさ：第2部



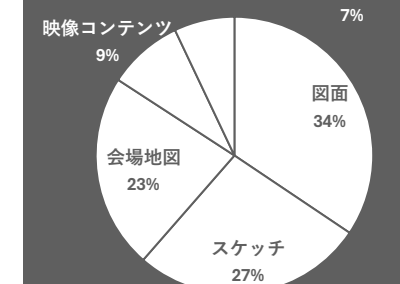
興味を持った内容：総計



興味を持った内容：第1部



興味を持った内容：第2部



## ■第1部 コメント（感想・ご意見）

- ・ CAD がまだ一般的ではない時代の建築家たちの熱い思いが伝わってきてよかったです
- ・ 来てよかった。第二部も行きたいし、友人と大阪・関西万博に行くのでその前にこの展示を見てもらうだけでも万博への理解が深まると感じた。
- ・ 日本で開催されたこれまでの万博が建築の観点から体系的にまとめられており、時代背景も含めて位置付けが理解できた。2025 大阪万博をより深く考える気付きを得られた。
- ・ 映像と合わせて貴重な資料が拝見できて興味深かったです
- ・ 建築図だけでなく設備図もあればなお良かった。
- ・ かつての大阪万博の資料が残っているのは凄い、手書きの図面が歴史を感じた
- ・ EXPO'70 当時は小学校3年生でした。1970 年の大阪万博の話を聞かされた時に、当時のカルチャーショックの思い出が蘇って、懐かしく思います。生まれて初めて洋式トイレを見たのも、この万博でした。今回の展示で、当時、設計や建築された方々の苦労や工夫や思いを映像で観ることができて、さらに EXPO'70 への思いが深まりました。ありがとうございました。
- ・ 建築の設計記録が保管されていて、興味深かった
- ・ 元々建築が好きで、こちらの資料館にも脚を運んでおります。  
万博は正直あまり興味がなかったのですが、友人の誘いをきっかけに EXPO2025 に行くことになり、下調べをし、行って参りました。建築好きにとってみれば天国でしかない場で、EXPO70 にも興味を持ちました。まだ CAD ではない手書きの繊細な図面は美術品質でした。また構想案も多数展示があり楽しめました。第2部も観にきます。図録が欲しいです。
- ・ 手書きであんなに美しい図面を描かれたことに驚き、あんなにのびやかなデザインの建築が沢山つくられていたことを知って驚きました。実際に見てみたかったです。
- ・ 毎回楽しみにしています。建築への迷いのないフォーカスが素晴らしいです。
- ・ 大阪博に合わせてだと思いますが、良いタイミングだと思います。過去の万博踏まえて、現代における答えは何なのか、自分の目でたしかめたくなり、行くことにします。
- ・ EXPO'70 のパビリオン建設に至る過程の一部を垣間見る有意義な1日でした。また、見に来たいです。
- ・ 図面が手書きで大変な作業になるなと感じた。そう考えると現在は技術やツールが誰でも手に入るので、設計者による違いが出にくくなるなと感じた。
- ・ 手書き図面の緻密さに感動しました。図面から建築への熱意があふれている。それが私にも伝わってくる。そういうところが今の CAD にはない喜びでした。ありがとうございました。
- ・ 図面を描いた人に話を聞きたい
- ・ 現在私塾を運営しています。建築に興味のある生徒たちに EXPO70 の図面を見せたいと思い、下見に来ました。とてもおもしろかったです。生徒を連れてまた来ます。
- ・ 展示の資料の記載内容が全体的に字が小さく少し読みにくかった。内容自体は興味深いものが多かった。
- ・ 過去の展示で好評だった回等、再展示を願います。この資料館の存在を知った時、安藤忠雄の回は既に終わっていて、パンフレットもメルカリで高額な値段で販売されていて、非常に残念でした。  
本来の目的とは異なる目的で来館（利用）される人がいる事も残念です。無料はありがたいですが、本人の ID と配布資料がひも付される等何か工夫がほしいです。
- ・ 興味深く拝見させていただきました。
- ・ スケッチが美術の粋に達していて図面の意味がわからずとも楽しめた
- ・ 2025 万博で働くので、歴史を知れて良かった。
- ・ 建築設計の仕事をするきっかけとなったのが EXPO70 の建築です。この幼少期の体験が現在の自分に大きな影響を与えました。主催された方に感謝します。
- ・ 思った以上にさびしい展示でした
- ・ 実際に複数回、会場に足を運んだ者としては様々な答え合わせのようなものでした。大変すばらしかったです。
- ・ 建築の知識をもう少し増やしてからもう一度来たいと思いました。
- ・ 丹下さんの大屋根を見たかった。
- ・ 他のパビリオンの図面資料も見たいです。
- ・ 万国博なのに、企業館のみに焦点が当たり、海外館の図面が全くないのが残念でした(外国館を日本人建築家がデザインすることはないので当たり前ですが・・・)
- ・ 万博が各地で開催されたことをすっかり忘れていました。
- ・ 学生の時建築を学びました。当時の図面、大変興味深く見学させていただきました。
- ・ 少しむずかしかった！
- ・ すごくいろんなものがありました
- ・ 昔の万博のほうが楽しそうでした
- ・ もう少し分かりやすくまとめてくれた方が良い。ワクワクしながら見るように工夫してくれたら若い層へ万博への興味が出ると思う。
- ・ 外部に CM 等もっと発信するべき
- ・ とても勉強になる展示で、たくさん建築士の方が関わっていると知ることができたので、大阪万博開催にあたってもっと多くの人が見てほしいと思った。
- ・ 良かったです。後半も楽しみです。
- ・ おちついて見られる施設でとても良かったです
- ・ 旧岩崎邸の見学で存在を知ったのですが、おもしろい展示をして良かった。過去の万博のことを知れて良かった。もっと存在をアピールした方がいいと思います！！（台東区民ですが知らなかったの）
- ・ 子供の頃に大阪に住んでいて、何回も親に連れて行ってもらいました。なつかしいですし、子供ながらに良く覚えていました。海外パビリオンの情報はないのでしょうか。海外で設計されていたのでしょうか。コインロッカーは簡単に使えるようにしてほしい。映像にライトが映り込んで写真がとりにくい。きれいに撮ることができない。
- ・ つくばには行ったので昔を思い出します。良い時代でした。大阪にはいきませんでした。今回 2025 の大阪は行きたいと思います。
- ・ 展示だけで興味をひかれなかった。各会場のジオラマ等があれば多少は面白いかも
- ・ 建築関係でないと分かりにくい内容だと思います。
- ・ 貴重な資料を拝見でき、とても参考になりました。

## 日本の万国博覧会 1970-2005

- ・他にもたくさんのパビリオンがあったかと思いますが、そちらの方は無くなってしまったのでしょうか？残念です。有れば展示していただければと思いましたので。太陽の塔はやはり無理でしたか。（でもなつかしく思い、感謝です）
- ・大阪万博を間近に控え、これまでの日本に於ける万博の歴史、そして EXPO の意義について学べました。
- ・大阪万博以外のパビリオンの建築物の図面がもう少し多かつたらいいなと思う（つくば出身なので）。
- ・村田豊の空気膜構造についてのコンテンツで興味深いことが話されていて印象に残った。
- ・ I hope the exhibition can provide audio guide for the visitor.
- ・生きてない時代のものであったが、現在にも通用するようなものでおもしろかった。模型が欲しかった。
- ・ガイドツアーわかりやすかったです。万博の各施設の映像展示があると実際どう動いていたのか、イメージがわくと思うのであったらぜひ見たかったです。ガイドツアーをこれからも継続して実施いただけるとありがたいです。
- ・1970 年の一部でも確認できまして、うれしく思います。
- ・1970 年建築家のパワーを感じた。2025 年の万博でも同じことを感じるだろうか？
- ・素晴らしい！
- ・Will come again if there is any other interesting Topic Other Japan architecture exhibition.
- ・1985 つくば EXPO がなつかしかったです。
- ・70 大阪万博を体験した者としては非常に感慨深い展示内容でした！（当時小学 3 年）
- ・お祭り広場以外のパビリオンも知ることができてよかったです。どのパビリオンも今見ても新しい印象を受けました。今建築を勉強しているので、将来自分も万博にたずさわりたいです。また 4 月 13 日からはじまる万博にももっと興味がわきました。
- ・第 2 部楽しみにしております。
- ・素晴らしいです！他では見たことがない資料ばかりで感動いたしました。また別展も来ようと思います。展示レイアウトも大変みやすかったです。
- ・お祭り広場、太陽の塔との関係を深く知りたかった。
- ・大阪万博に行きたくくなりました。
- ・こちらの施設へ一度来館してみたいと常々思っており、やっと実現しました。地方の人間なので、なかなか見られない貴重な資料ばかり、感動しました。父が建築業者、娘が建築に興味を持っているので、本人たちにも見て欲しかったです。今年は大阪万博の年でもあり、機会があれば、今年の万博にも行って、現地の建築物を観てみたいと考えております。今回はすばらしい展示、有難うございました、とても楽しませていただきました。
- ・建築の図面などが多くて難しめだった。もう少し色合いが多いと楽しめそう。
- ・筑波の万博跡や他の博物館に行きたくくなりました。興味をも持たせていただき誠にありがとうございます。
- ・大阪万博に行きたくくなりました。大阪万博の紹介もあると、より楽しめたかと思います。
- ・興味ある分野をより知れて良かった。
- ・注目ポイントがあれば、それを示してくれているともっと面白いと思う。（本屋さんのポップみたいに）模型も見たいです！
- ・建築資料館をこれからもっと大きく 博物館になって欲しいと思います。
- ・一度も万博に行ったことはありませんが、万博に対する多くの人々の熱気が建築を通して十分感じられました。後期もまた来ます。期待しています。ありがとうございました。
- ・えんぴつと色えんぴつで書いている図面がキレイだなあと思いました。
- ・6 月の展示も来たいと思います。図面は読み慣れていないですが、じっくり拝見でき、興味を持ちました。
- ・モリゾーがなつかしかった！
- ・I appreciate texts + Columns in English
- ・Blueprints were beautiful!
- ・もう少し当時の写真等があれば、建築物に対する解像度が上がったように感じます。個々の万博ごとの展示はそれぞれを比較できておもしろかったです。
- ・落ちついて観覧できた。配置も見やすかった。インタビューの音声がかきとりづらかった。字幕もずっと見ているとつかれてくる。クリアにイコライズしていただけたら助かります。
- ・初めて見る物が多かった。
- ・前回の大阪万博や花博は経験していないため、建築という観点から学ぶことができ、面白かったです。当時検討に関わった方々のインタビュー映像が残っているのは非常に貴重だと感じました。
- ・大阪万博、花博、沖縄博に興味をもっていたので、よかったです。アークアボリスの図面があれば…、花博フォリーの写真があれば…
- ・技術面からの解説が見れるとうれしいです。
- ・大変良かった。一部解像度の悪い写真があったのが残念。
- ・図面がとても正確に描かれていて、とても作るのに時間がかりそうだと感じた。また、芸術と安全の両立が難しいと感じた。
- ・寸法や部屋・廊下の配置などが描かれた図面や、普段見られないパビリオンの建物の構造についての資料など、建築とその過程などの概要を詳しく知れて良かったです。
- ・正直難しいとおもった図面なども、ガイドさんのわかりやすい説明により、図面・スケッチなどに興味を持つことができた。
- ・今年は万博に行くので、万博の建物のデザインが決まるまでの考え方やデザイン案を見られてとても面白かった。
- ・万博の建築の一つ一つが驚きにあふれていてとてもおもしろかった。エキスポタワーがとりこわされてしまって今見れないことを悲しく思ったが、なので多くの建築物が図面で見ることでできて良かった。
- ・昔と今の万博のちがいについて知ることができてよかった。将来建築について詳しくなれるようにがんばりたい。
- ・当時の図面は鉛筆なのに、きれいな線で、細くかかれていて驚きました。また建築士の大変さを知ることができました。見ていてとても面白かったです。
- ・ドームの天井の構造が美しくよかった。エキスポタワーの図面がとくによかった。
- ・菊竹清訓の設計したエキスポタワーの資料がとても良かった。
- ・菊竹清訓さんの図面が精密で迫力があり、印象に残った。
- ・wiki なり、クイズなりでしかみたことない人達が、実際に書いた設計図を見て、なんと表現すべきか、「生きている」というか、この目で見ることによりいっそう、自分のものになった気がする。



## 日本の万国博覧会 1970-2005

- ・ 一目見て凄ってなるものは見当たらなかったけど、図面をよく見るととても細かく描き込まれていて、噛めば噛むほど味がした。
- ・ 万博の建物ができる過程を知れて良かった。水や空気の建物も見難しそうだが、その工夫がわかり良かった。
- ・ そうぞう性が広がりました。建築中の建築家の考えが伺えたり、図面の情報が思ったよりはシンプルだったりで新たな発見がありました。
- ・ 万博の期間限定だったからこそできた前衛的な建築物の設計を見て実際その時に行ってみたいと思った。
- ・ 数多くある図面をそれぞれの建築家が手書きしていることに感銘を受けた。凄腕の建築家でもやはり試行錯誤していることに改めて気づき、建築・工学の面白さを感じた。
- ・ 建築についてあまり知識がない中でも楽しめるなと感じました。また、スケッチの線の一本一本が緻密に書かれており、美しいと感じました。
- ・ 当時の技術や建築家の考えを資料を通して理解できたので良かったです。
- ・ 当時の生の書きこみがされたスケッチが興味深かったです。
- ・ 建築家に興味があるため、プロの図面がたくさんみれて興味深かった。
- ・ ふだん見られないスケッチから建物が何を考えて作られているのか知ることができた。
- ・ 丁寧にきれいに描かれてあって見てて楽しかったです。また、パビリオンごとに説明があってとても楽しかったです。
- ・ 資料室にはどのような図面がねかっているのか気になりました。2025EXPO 展も見たいです。
- ・ わかりやすいスケッチ、解説、ありがとうございました。それぞれの特徴的な建物が見やすく、おもしろかったです！！
- ・ 他のパビリオンの図面や当時の苦労話なども聞きたい。（特に 70 年大阪万博）
- ・ 懐かしく、また、2025 との対比して見る上で参考になる。
- ・ まだ大阪万博（2025）は行っていませんが、だいぶ進歩しているな一と感じました。大阪万博が楽しみになりました！
- ・ 保存、管理の良さに今更ながら驚きます！永久に／未来に～。
- ・ 手描きの資料がキレイに残っていることと、当時の熱い想いが残っていることに感動した。
- ・ 前川事務所の図面のみごたえがよかった。
- ・ アナログの図面は人の手でかかれたと思えない程、精密で、見ていて感動しました。各博覧会でのテーマに合わせた建築のアイデアが独創的で面白かったです。
- ・ 小林先生の解説がたいへんわかりやすかった。今回の関西万博は“解体”に注目とのお話し参考になりました。
- ・ 図面をじっくり見たいけれど、つかれてしまって見られなかった。
- ・ 面白かったです。戦前に一度行う予定だったのは知りませんでした。大阪に行ってみようと思います。
- ・ 万博はつくばのみいきしましたが、懐かしく観覧しました。後期もうかがあります。
- ・ 企画展だけでなく常設展も実施して欲しい。それだけの資料はあるはず。
- ・ 照明が暗く、図面にみにくかった。
- ・ いつか今年の万博の図面も見たいですね、
- ・ もっと当時の写真等があるとわかりやすいなと思った。当時のことをほとんど知らないの。
- ・ みやくみやくもっと見たかった。母がエレベーターなくて見れなかった。
- ・ 大阪万博（1970 年）の時代はまだ幼かったので、魅力がわかりませんでしたが、年齢を重ねる中で、興味と感心が高まりました。貴重な資料に感動です。
- ・ もっとスケッチや模型が見てみたい
- ・ 手描きで良く細かくかかれていて見ごたえがあった。
- ・ 建築に詳しくないので難しかったです。
- ・ 図面の解説が多めで良かったです。
- ・ Archives としての経緯を見られたのが面白かった。
- ・ 建築家の思考の過程が理解できました。ありがとうございました。
- ・ 今ちょうど万博をやっているのでも今までの万博についてを知ることができて良かったです。
- ・ 万博の設計にかんする資料などをみれて、たのしかったです。
- ・ 手描きの図面を久しぶりに見て、そういえばこんなだったと感動しました。
- ・ 博覧会を見る前に、資料館の雰囲気は圧倒されました。地味な感じの外観でしたが、中に入ると別世界で、何より見学者の多さや熱心さに気分が高よりました。ガイドツアー参加してみたいです。
- ・ 本当に興味深い展示でした。愛知万博の図面も見たいです。
- ・ とても興味深く拝見しました。万博は建築的にとても意義がありますね。
- ・ 写真撮影が一部認められていたのが良かった点です。
- ・ もう少し初心者にも分かる展示をお願いします。
- ・ 今回も大変ワクワクする図面を拝見することができました。館内に蚊が多いので、対策して欲しいです。室内の温度をもう少しだけ下げてください。過去の展示から回顧展を企画して欲しいです。また、図面から読みとく空間についてなど企画していただけますと大変幸いです。
- ・ 書籍資料も読めるとよりよかったです。5/15 に来場しましたが、展示室内がかなり暑かったです。飲み物も飲めないため熱中症になりそうでした。空調をもう少し強くしていただきたいです。（せめて展示室前の空間だけでも）
- ・ Amazing work, wish there was A/C
- ・ 建築については全くの素人ですが、建築図面を見て実際の建築物を想像する楽しさを味わわせていただきました。（特に永久に残すことを想定していないからこそその突飛なデザインだからこそその楽しさかもしれません）大阪万博の翌年に生まれた私に取っては、想像することしかできないもので
- ・ 図面と映像で当時の雰囲気が感じられてよかった。今後紙で保存が少なくなっていく中、今後とも資料収集の大切さがよくわかったので、継続した資料収集に期待します。
- ・ 前回一人で見た時にはほとんど意味が分からなかったものも、小林先生の展示解説を聞いて理解できたり、興味を持てたりすることができました。後期も来たいし、できれば展示解説を聞いてみたいと思いました。
- ・ Great documents and drawings. I would like to see some books and to read them, some English ones.
- ・ 映像コンテンツでもありましたが、建築が最終型に至るまでに、建築家、構造設計、施工会社のやりとり、そのつみかさねが少しは具体的にイメージとしてとらえられて良かったです。1975 万博はもう少しパビリオンを残して欲しかったですね。万博が何のためにあるのか、万博に

## 日本の万国博覧会 1970-2005

- ・ として、建築がどのような意味を持つのか、今後にどう反映されるのか、それが知ることができたのも良かったです。
- ・ 日本の万博展・前期展では、パビリオンの設計図や地図、当時の万博会場に誇る周辺地区が面白そうでした。
- ・ 大学の設計課題では、毎回 CAD や 3D を用いて検討しているため、それが無い時代の手書き図面の迫力に圧倒された。どんな時間と労力をかけてこれを作り上げているのだろうと思った。スケッチやダイアグラムから思考の過程を垣間見れたのも面白かった。また、日本自動車工業会の第二パビリオンのステージ部分にあった円形の物は何だったのか気になった。開催時の写真や内観パースがもっとあったら、建築を学んでいない人にもより分かりやすかったと思う。
- ・ 各国の技術の象徴や、当時注目されていた膜構造がふんだんに使われていて、日本の建築の勢いを感じた。また、CAD が使われていない時代に、手書きで製作された圧巻の図面はとても見応えがあった。
- ・ 途中のスケッチやイメージなどが展示されていたので、複雑な建築をどのように考えて言ったのか、思考の過程を辿れる気がして分かりやすかったと思います。
- ・ 想像していたよりも沢山の図面やコラム、スケッチがあって過去の万博の建築物、パビリオンについて深く知ることができとても有益な時間でした。入って左側に展示されていた図面の寸法が現在の方向と逆読みで書かれていたのが何か理由があるのかとても気になりました。また、第二回のひと・自然・環境の方もとても興味があるので是非参加したいです。
- ・ 普段目にするのでできない、手書きの原本図面の数々や、貴重な会談の映像資料などを見る事ができとても有益でした。ただ図面や模型を見るだけでなく、どこに工夫を凝らしたのかなどの過程を知る事ができた事が、今後、勉学や研究を行う上でとても良い学びになりました。
- ・ 建築図面を切り口に大阪万博について学ぶことで、時代背景をふまえて建築を見ることの面白さを知ることができた。どのようなメリットとデメリットからこの構造を選んだのか、この建築によってどんな可能性を示していたのか、考えながら見ることで現代にも通じるものが見えてきた。また課題も明らかになると思った。
- ・ 展示の内容のボリュームに驚きました。日本の建築資料を国内に留めておくために、国立近現代建築資料館の存在を多くの人に知ってもらわなければならないと感じました。
- ・ 多くが手書きの図面となっており、手書きの線ならではの図面表現に感動しました。また、村田豊氏の空気膜構造のパビリオンや、ストレートに表現が現れている住友童話館など、パビリオンならではの挑戦と実験の成果、当時の勢いと意気込みを感じさせる力強さがありました。プレキャスト工法を用いた、十字の部材による効率的な施工を目指したり、大屋根を少しずつ持ち上げていく方法で建設したり、大阪万博としてのあの規模感のものを完成させるために当時はものすごく力が入っていたのだなと感じました。
- ・ どの資料も普段の学生生活では見る事が難しいようなものばかりだった。図面やテキスト、ドローイング等の資料を見比べながら当時の建築家の考えていたことや、どのような世の中だったのかを知ることができた。同時にツアーを行なって頂き万博の熱い熱気や実験的な空気感を知ることができました。
- ・ わたしが生まれる前の万博建築を、スケッチ段階のものから詳しく見ることができて、とても勉強になりました。
- ・ 2025 年の大阪万博に行きたくなるような展示だった。
- ・ 巨匠たちがどのように作品を作っていたかが垣間見えたのが面白かったです。
- ・ 展示物の量や選出が素晴らしいと感じました。見ていて疲れない物量でありながら、建築物ができるまでのプロセスがしっかりと伝わります。また 1970 年の万博ということで、建築に求められる機能や役割が今とはひと味違いますが、未知の技術・空間を創り出そうとする建築家たちの情熱や想いが現在にくらべひと味強いように感じられました。
- ・ 貴重な資料ばかりで、特に図面を間近で見る機会はなかなかないため、大変勉強になりました。ガイドツアーのお話でもあったように、単に後から説明されるプロジェクトのプロセスとは異なり、実際の図面やスケッチ、当時の本などからプロセスを追って見ることができるのは、建築資料館だからできることの一つだと思います。また、万博という、今考えるべき大きなテーマを選んでいただけて、それを資料から学ぶという大切な機会を作っている大事な展示だと思いました。ありがとうございます。
- ・ 自分は過去の万博についての知識が全くなく、今回のツアーを通して学ばせていただきました。今回学んだ万博は一つだけでしたが、参加できたら 2 回目のツアーにも参加し、それ以降の沖縄、愛知の万博についても学べたらなと思いました。
- ・ 愛知や沖縄などでも万博が開催されていた事は知らなかった。他にも何度かあるのかもしれないが、なぜ自分の認知が薄いのか気になる。今年のお阪万博以前は 1970 年の大阪関西万博以降何もやっていないと思っていた。
- ・ その時代の社会の背景や建築家がどのようなことを考えて設計していたのか図面を通してここまで知れることを知って、図面により興味を持てました。
- ・ まず、万博の全貌を捉えた航空写真を初めて見ました。現在開催されている大阪万博の報道で流れる航空写真と似ているなと思いました。70 年万博は大屋根と太陽の塔しか知らなかったのも、どこか非現実のような、どこでやったのかも実感がないような印象でしたが、実際の航空写真を見たら、本当に大阪でやっていたんだと実感出来ました。
- ・ この展覧会を通じて大阪万博に行ってみたくて強く思うようになりました。また今までの背景や歴史を蓄えた上で今回の大阪万博はどのようなかとても楽しみにになりました。
- ・ 通常ではみられないような貴重な資料を見ることができ、実際の建築物の写真だけではわからない内情や、建築家たちの想いを感じられて面白かった。
- ・ 一般的に展示される図面は実際に建てられたものの図面が多いと思いますが、今回の展示で実際にできていない図面であったり、試作する段階でのスケッチや図面も含まれていたのも、各館がどのように出来上がったのか、どのような思いが込められているのかが少しでも想像できて面白かったです。
- ・ 私は万博について全く知識がなかったのですが、それでも建築や図面自体にとっても魅力があり、その図面という貴重な資料を間近で見る事ができ、とても興味深かったです。
- ・ キャプションを取り除き図面中心の展示は観やすい。基本設計、実施設計のみならずドローイング、ダイアグラム、さらには建設時の写真等設計者の人物像を見せる展示は面白かった。特に住友童話館の図面が興味深かった。構造としての柱のプロットとその構成部材、円盤上の浮遊した展示室のタイルには三角形が使われてメタボリズムの決定ルールが図面として見られたのは面白かった。

## 日本の万国博覧会 1970-2005

- ・隣で見ていたご夫婦が、このときは中学生だったなとか、あっこれ覚えてる！など話していて現在開催している万博を懐かしく思う日が来るのだと感慨深かった。日本の建築業界を作り上げてきた方々の図面はカッコ良かった。当時だからその図面の迫力があり、一枚の絵としてとても魅力的だった。特に日本自動車工業会パビリオンの立面図は人も細かく書かれており、大きく余白をとっているがその余白のバランスもよく拘りが感じられた。
- ・建築のことも、万博のこともよく知らないまま見学しましたが、手書きの図面や建築への思想が万博を形作っていることを実感できました。
- ・ Audio listening through device or app would help.
- ・ Stunning! Beautiful exhibit, wish I had more information about the physical materials.
- ・ マナーのない写真撮影が多いように思えた。いっそ全て禁止にしてもいいのではないだろうか。撮っているのと、ダメなのがわかりにくい。
- ・ シンポジウム映像は時間がなくて全部見るができなかったのも、土・日に1日2回位でよいので映していただけとありがたいです。説明パネルや中央の全万博パネル、会場図がとても見やすくてよかった。
- ・ 手書の図面は映像コンテンツでも言われていたように“人の営み”が見えて興味深い・映像コンテンツは設計字の苦労話や先生方の人柄を感じられる本音のトークがおもしろかった。
- ・ 万博の商業化はNYから始まった、とここで知った。又 五輪の商業化もLAから、そして再開発つても元々英国で伝染病対策で始まったのが、米国の大恐慌の時、失業・雇用対策で取り入れられ財政赤字から民営化されたいということと今すぐにもやめてほしい。もちろん「IR」も…赤字も絶対払いたくない！
- ・ 昔の資料のはずなのに、未来を感じさせる不思議な建築ばかりで、本当にこれが建っていたのか…？と思った。面白かったです。
- ・ 当時のガイドブック（案内図）を見られるといいと思いました。
- ・ 万博が行われた時代を生きていないので、図面だけでなく完成した建物の写真もみてみたいと思った。

### ■第2部 コメント（感想・ご意見）

- ・ 5つの博覧会をただ並べただけで、その遷移や意義を示してもらえると素人に判りやすい。素人対象でないならこの限りではないです。すみません。
- ・ それぞれの万博についても単体で掘り下げて企画してほしいと思いました。
- ・ All Good ^-^ Nice exhibition.台湾から
- ・ 人が多い中、万博へ行こうと思えずにいましたが、前回の万博の建物が私の好きな建築家達が手がけていたことを知り、伺いました。彼等の発想や実現させた技術者も素晴らしいと思いました。その後の万博でも建築家達が面白い建築や取り組みをしてきたことを知り、今回の大阪行ってみるかなと思っていますところ。
- ・ つくばの色がむらさき色でうれしかったです。図面をたくさん見ることができて良かったです。手描きの図面の美しさ。
- ・ 今年の万博に機会があれば行ってみようと思っており、そんな中で過去の万博の図面が見られるということで参加した。貴重な図面スケッチを生で見ることができ、勉強になった。
- ・ EXPO2025の展示も企画待ってます。よろしくおねがいします！

- ・ 専門的なことは全然わからないなりに楽しかったです。ありがとうございました。会場内に「出口はこちら」という案内があると助かります。（入っているのかわからなかったのも。たまたま他の方が行かれたので、気付いた）
- ・ すげえと思った。こんなアイデア思い付きません。
- ・ 万博の時期にこういうものを見てよかった。私も夏に行くので楽しみです。
- ・ 建築学生ではないですが、図面から実際に建物ができることに対する魅力を感じました。万博は独創的な建築が多くみていて楽しかったです。
- ・ おもしろい形のけんちくが多くて内そうもみ力的だった。
- ・ 設計者の意図や過程も見られたので、とても勉強になりました。
- ・ 館内中央の資料ブースの展示法が良かったです。
- ・ 太陽の塔の図面も見かったです。
- ・ 1970年の万博は生まれた年なので、リアルに知らないのですが、あの時代ならでは熱量や夢や遊び心にあふれた空気を感じることができました。太陽の塔も入れて欲しかった！あと模型！！
- ・ 住友児童館の初期イメージスケッチが特に印象的でした。
- ・ 図録がほしいのでまた2期に来ます。
- ・ 仕事で万博の建物の設計のお手伝いをしたので、過去の建物の図面が見られたのは良かったです。いつか2025年の万博を取り上げるような展示があれば嬉しいです。
- ・ 第2部も楽しみにしています。
- ・ 1970年大阪万博の建物の設計図や案を実際に見ることができ、とても良かったです。（手書きの良さを感じる）
- ・ 前半は図録が配付されないのが残念でした。
- ・ 1970大阪万博パビリオン等の貴重な資料（図面）が間近で見られて良かったです。
- ・ 親から大阪万博（'70）についての話を聞いて育った世代なので、改めて規模感が感じられて、驚きました。図面など素人なのでわかりませんが、巨大なプロジェクトであったと実感。
- ・ 図録なし、時刻前に追い出し残念。

- ・ タイムリーな展示でとても楽しめました。資料も充実している印象でした。
- ・ 大阪万博エキスポ70の図面が見れてとても良かったです。まだ展示されていないエキスポ70の図面資料をあらためて展示して欲しいと思います。
- ・ 現在の大阪万博の same scale も展示して頂けたら、さらに考えることができたかと思います。
- ・ It's my first time, and it's very educative. Thank you for providing English translations!
- ・ 第1部を見学に来て、よかったので第2部にも来ました。
- ・ 映像コンテンツが多ければよかった。大変貴重な資料が多くおどろいた。
- ・ 現在開催中の大阪関西万博と比較して建築の変化が感じられた。又、当時、訪れる事ができなかった万博を知ることが出来良かった。
- ・ すばらしいです。入り口が少し分かりづらかったです。



## 日本の万国博覧会 1970-2005

- ・ 1970 大阪はよくとりあげられるが、その他の万博の展示は目にしたことがなく、とても興味深く観覧しました。特に 1985 つくばは何度も会場を見たので感慨深い思いをしました。
- ・ I enjoyed this exhibition, good job.太陽の塔 reminds the most impression to me, Excellent
- ・ 実際の図面やスケッチが迫力があつた
- ・ 唯一記憶に残っている愛知博の資料が興味深かった。意外に資料が少ないと思いました。
- ・ 会場全体の図と写真の方向が同じだともっと見やすいかなと思いました。
- ・ 夏休みに向けた小中学校用にかみくだいたツアー等があると嬉しいです。（自由研究用）
- ・ 1970～2005 図面が進化していた。昔の緻密な図を見ると得意でない人もいたのかなと思った。今回の万博も比較できたら面白そうだなと思いました。
- ・ Cool exhibition, I think the collection between the drawings was hard to find. A tiny site map with the location of each building would be nice.
- ・ 展示内容はよかったのですが、説明がもう少し詳しく知りたいです。
- ・ 平日しか来れないので手がすいた学芸員さんいてほしい。
- ・ 素敵な展示でした。花の万博のフォリーにスポットをあてて頂きありがとうございます。各博覧会の時代背景とテーマも面白いのでご展示お考えください（レガシーも）
- ・ 昔万博がかいさいされていた所が、今はテーマパークになっていたりして活用されていて安心した。大阪万博のゆめしまは工業都市だけで終わったら何になるのか気になりました。なにもなくなったらさみしいですね。
- ・ 当時の写真の資料がもっとあるとより分かりやすく心に残りやすいかもしれない。
- ・ 展示量はもう少し多い方が、各博覧会の特色を把握しやすいように思います。
- ・ 生産設計（施工図）の仕事をしています。おさまりや意匠の意図をくんだ図面とは、現場に伝える図面とは…の視点で展示を拝見しています。もうすぐ東京を離れ関西に移ります。関西にもぜひ、この様な展示がある事を切に願います。（図面に焦点をあてた展示はなかなかないので）
- ・ 図面に加え、写真資料も充実しており、わかりやすかった。解説も読みごたえがありました。
- ・ とても細かかったのでおどろいた。
- ・ 子供が建築に興味があり、図面を見せたら感動していました。
- ・ 私は小学 4 年で EXPO'70 を経験し、独創的な建築に魅了されました。その後今回の展示は沖縄博以外は行っています。つくば以後はあまり印象に残る建築が無かったと思ったのですが、今回の展示でそれぞれ創意工夫があったことを知り勉強になりました。今年の大阪関西万博は 5 回行っていますが、大屋根リング以外にあまり印象に残らないのが残念。
- ・ 設計者やコンセプトに各時代の流行がうかがえた。
- ・ もっと愛知万博に触れた内容が見たい。
- ・ 通行料が高すぎる。国立民族学博物館を利用するときは、万博記念公園を無料で通行できる。
- ・ とても良い企画展だと思います。
- ・ 図面のほか当時の写真、新聞記事など具体的に視覚的にイメージできるとよかった。マスコットキャラや記念グッズなどもほしい。
- ・ EXPO2005 に行ったので、なつかしい気分になった、つくばの外国館 B の「EU」は当時なかったので正しくはヨーロッパ諸国（現 EU）などが正しいかと
- ・ 2 期に渡って充実していました。
- ・ 数あるパビリオンでなぜそれだけが選ばれたのかが知りたかった。
- ・ 既存しているのか否かが知りたい。
- ・ 現大阪万博の導入を多少入れても良かったか
- ・ 建物に EV がなく、ひざが悪い友人は苦勞しました。追加すべきでは
- ・ オンライン等で広く見られるようになってうれしい
- ・ 仕事以外で図面を読む事は普段無いので面白かったです。
- ・ 万博にも建築にも触れたのは初めてでした。そのため、多少難しい所もありましたが、万博の歴史に触れたことは大変貴重で良かったです。
- ・ スケッチや図面と実際の建築と違う点などを解説でつけておいて下さるともっと楽しいと思う。
- ・ 今回の展示ガイドツアーのお話から、アイデアを出してまとめていく過程の話が非常におもしろいことに気がきました。コンセプトをまとめる日本の技術・芸術たずさわった方々の情熱が伝わってきた。
- ・ せっかくの展示を多くの人に発信していただくため、他の美術館 etc にもリーフレットを置いてはいかがでしょうか？
- ・ 付された説明文と合わせて展示を見ていると当時の熱意が伝わってくるようでした。
- ・ 貴重な資料だから仕方ないとは思いますが、せっかくの図録等が広がっているページしか見ることができないのは残念だなと思いました。デジタル化としてそれを電子書籍のごとく閲覧できたらもっとよかったです。物（図面・スケッチ・写真）それぞれを結びつける、その関係性が分かりやすい展示だとより楽しめるように思います。 ※庭園側ではないほうから入場したためか、はじめの入口が全く分からず困りました（守衛さんがいたあたり）ありがとうございました。
- ・ 1940 年に計画されていた日本の万博に興味を持ってました。
- ・ 実際に会場に行くことが出来たのはつくば万博だけでしたが、プランに関わっていた方々、建築家の方々が日本を代表する、建築史やデザイン史に残る方々ばかりで驚きました。
- ・ たいへんよい展示だから、六本木ヒルズや TOTO 間からうまくお客さんがこっちにくるといいですよねえ
- ・ 以前より万博の歴史（ロンドン～現在）に興味があり、数回ですが、EXPO2025 に行き、今後も行く予定をしています。この展示と、他館の万博関連の展示をみたことにより、より一層深く万博をたのしめると思います。ありがとうございました。
- ・ 意匠が中心となっており、昨今の省エネや SDGs の観点からも設備に関する展示を増やして欲しいです。
- ・ 土・日・祝日の入場について、旧岩崎チケッ売り場でも明記したほうがわかりやすいかと思います。
- ・ パビリオンによる歴史的な建築物や、設計図、地図など人と環境のデザインがとても印象に残りました。
- ・ いつも貴重な資料の展示ありがとうございます。今回は万博協会認定の Expo の展示でしたが、1990 年前後の景気が良い時に全国で行われていた各地の都市博の資料もお持ちでしたら見てみたいです。福岡のアジア太平洋博等
- ・ 図録で手許に置いて、じっくり観たいです。

## 日本の万国博覧会 1970-2005

- ・ 実際に行った万博もあったので、思い出したり、このような図面から建物が出来たのか、知れて良かった。 それぞれの万博を一つずつ見ることの出来る企画もあると良いなと思いました。
- ・ 手書き（スケッチ、文字）は、迫力があり、当時の関わった人達の想いを読みとれたような気がします。誌面やステージの上の人たちの生の声を、人間らしい声を聞いた気がしました。企画頂き、有難うございました。
- ・ 今年の万博に対する見方が変化した。図面やスケッチ、計画案等を見たいと思った。
- ・ いつも無料で立派な展示を見せてもらえてありがたい。
- ・ 85'つくば EXPO 世代でしたが、資料が少なく感じました。残念。展示はまとまっていたイメージです。
- ・ 知らなかったが、たまたま訪れることが出来、とても有意義だった。もっと PR して良いと思う。
- ・ 時間がなくよく見ることが出来なかったで、次回は余裕をもって見学したい。また、こういう行事があまり知られていないのは残念に思う
- ・ 視点が専門的なので、パネルがあると知識がなくても楽しめるかな？だが私がターゲットに入っていないだけなので、展示としてではなく、空間として楽しめた。
- ・ 全品スマホで撮影している人がいて、シャッター音が気になり困った。座れるところがあり、助かりました。
- ・ SNS で知り、来訪しました。内容の充実ぶりや、他に建築、万博関連の展覧会が多く開催されているタイミングも考えると、もっと話題になっていたはず。
- ・ ガイドツアーの回数がもう少し多ければ参加できたのですが
- ・ 当時の貴重な資料が見られ、川口さんのインタビューもみることでできて良き。また次回の展示も楽しみにしております。
- ・ 第一部を見に来た際は、各パビリオンの破天荒とも言えるようなデザインを楽しみました。 第二部においては、パビリオンの解体のしやすさ、再利用を主眼においた、博覧会会場の全体を考えた設計（イメージスケッチ）などを楽しませていただきました。時代の変遷を感じます。
- ・ 毎回、そして今回も建築への興味を増やしてくれる良い展示であった。
- ・ 高橋第一工房の作品の完成度の高さ。
- ・ どのパビリオンがなんの万博か少し分かりづらい…
- ・ 入場無料なのにしっかりとした内容の図録がいただけるのが申し訳ない気持ちになったりします。任意の募金箱などあれば少しでも支援できるのに…と思います。
- ・ キャプション（解説）が非常に良かった。写真がもう少し多くても良いように思う。 9:55 に合同庁舎の入口から入ろうとしたら警備員に10時間開館だからそれまで待つように注意された。入口から資料館まで5分かかるのだから5分前に入れるようにしてほしい。酷暑の中、5分でも待つのは大変。柔軟な対応を。
- ・ FANTASTIC EXHIBITION, GREAT PRIMER. FOR A VISIT TO EXPO 2025 IN OSAKA.
- ・ 前半をみれなかったで、機会があることを願います。
- ・ 私は庭園から来ましたが、展示だけでなく無料というのはとても驚きです。見応えありました。大阪から来て、今回の万博も来場済みだったので、とても楽しかったです。
- ・ もっと広報してください。最初の展示も知っていれば見に行けたのに。
- ・ 普段、図面を見ることがないのでとてもおもしろかったです。
- ・ 様々な種類の資料がバランス良く設置されていて、好奇心を程良く刺激された。
- ・ ぼんやりとしていた「万国博覧会」のイメージが変わった。
- ・ 分かりやすかった。たてものの写真があるともっとイメージしやすいと思った。
- ・ かつて見た博覧会の自分の知らない側面を見ることができてたいへん興味深かったです。
- ・ 模型やスケッチ、図面を見ただけで、建てる前のワクワクを感じられた。
- ・ 来る時間が遅かったため、見る時間がなかったので、また機会があれば行きたい。
- ・ 時間がたらず、まわりきれなかったで、またきたい
- ・ 2005年の生まれの自分にとってみれば、全て伝聞や映像でしか知らなかった。日本でのそれまでの万博を身近というか、面白く知れてよかった。
- ・ 万博に興味があったが、建築には疎く、そこまで楽しめなかった。
- ・ 兵庫県から来ました。展示物がすばらしいですが、この展示会はあまり知られていない。ぜひ関西万博会場で告知してほしいです。（会期のこりわずかですが）
- ・ すばらしい企画だが、あまり一般の人に知られていないのが残念。もう少し告知してもいいのではないか
- ・ 通常見れない資料が非常に興味深かったです。もっと周知されていれば良かったかも
- ・ 原寸大の図面が見られて面白かった。もっと細かい部分の図面も見られるとより面白い。とても面白く、満足しました。ありがとうございました。
- ・ 中の映像コンテンツは1人ずつしか見られない置き方なので、壁かけにして欲しいです。
- ・ 当時の建築技術と文化の発展が見え面白かった。現在行われている関西万博の建物にも興味がわいたので、次回訪れる際は注目したいと思う。
- ・ 建築に興味があったわけではなかったが、博物館の1つの展示として見に来たら、思いのほかおもしろくて良かった。EXPO'70 大阪万博の展示は入口から入って右側には展示せず、一方向になるようにしても良いのかと感じた。
- ・ 手描きの図面群は見応えがありました。会場写真が多いのもっとイメージしやすいかもしれません。
- ・ 建築の分野には明るくないのですが、何かと話題になる“万博”を普段とは異なる視点から見るができる良い機会・展示でした。残るもの、解体されるものと様々ですが、どちらの影にも多くの人々が関わっていることが改めて分かりました。
- ・ 万博について、実施をしていた記憶があるのは愛知からなのですが、過去の催しも大変興味深く、当時の記録資料などをもっと確認したくなりました。ありがとうございました。
- ・ 万博 2025 に6回行って楽しかった！花博も昔行ったことがあるらしいので展示で見れてうれしい
- ・ 沖縄の万博会場跡地が美ら海水族館になったことを初めて知った。今年大阪関西万博と万博記念公園に行ったので、1970年の万博の展示が特に興味深かった。（当時と現在の様子のちがいなど）
- ・ 当時の万博の様子やその先進的な技術、建築を数十年経った現在でまた知ることができてよかった。各万博の記念公園跡地にも行って見たくなった。

## 日本の万国博覧会 1970-2005

- ・大阪万博に通う中で過去の万博にも興味が出てきたので、非常によい機会でした。また数十年後に今万博もこうしてふりかえりたいです。
- ・撮って良い資料と撮ってはいけな資料の分けがやや不親切に感じる。警備員に注意されたが（愛・地球博の資料あたり）、もっと分かりやすく撮って良いものとダメなものを示すべきだ。
- ・2025年の万博はすでにいったが、過去の万博がどのような意図で何を展示していたか知らなかったので、万博の歴史というたての軸で今年の万博をとらえ直すことができて面白かった。
- ・図録も内容が濃くまとめられており、帰宅後の読書が楽しみです。
- ・図面中心での構成でここまでコンパクトで見ごたえがあるとは思わず、非常に興味深く観覧しました。
- ・1期の展示も見ておけば良かったのですが、SNSでたまたま知り伺いました。
- ・6月に万博に行き、10月にも再度行きます。建築の魅力が増してきました。ありがとうございました。
- ・万博の全体的な設計図について分かりやすく学べた。つくば万博でいったんまとまった集成的デザインが、分散型のデザインになった経緯をもっと知りたかった。
- ・大阪・関西万博につながる内容ですごくよかった。関西でも展示されてほしい。
- ・大阪万博が開催されている中で、タイミングの良い展示だと思った。一方、建物の外からは万博展をやっているというインパクトがうすかったので、太陽の塔の写真や模型等を置いてほしいとも思った。
- ・建築関係者ではないが製品設計をしているので図面を興味深くみることができた。できれば図面の解説があれば良かった。
- ・大阪・つくば・愛知万博以外に1975年の海洋博や1990年の花博の資料を見ることができ、記念公園に興味がわきました。機会があったら見に行きたいです。
- ・それぞれの時代の博覧会に熱量や想いが感じられ、残り少ない万博の期間がより楽しみになりました。今回の展示を見て、少しでも興味を持った東京や関東、東日本の人が万博に足を運ぶきっかけになるように期待しています。
- ・先日万博に行ってきました。とても楽しかったのですが、父や母が話しかつての万博の「ワクワク感」はもっと強かったような気がして、過去の万博に興味がわき来館しました。設計図の書き方なども、今はデジタルなんだろうなと違いを感じたり、面白かったです！2025EXPOのパビリオンの展示もぜひしてほしいです。ありがとうございました。
- ・万博を一貫して見ることで、時代の変化と建築に求められるものの移り変わりを理解できました。各万博で、何を必死に模索していたのかも面白かったです。
- ・過去のEXPOにおける建築様式を見ると、様式美がとてもすばらしいと思った。また、今回の大阪関西万博2025についても建築面からの考察などができるタイミングで見てみたいと思った。
- ・こんなに沢山の万博が行われていたことにおどろきました。今年行われている大阪・関西万博もう一度行ってみたいくなりました。ありがとうございました！
- ・70年大阪万博の太陽の塔を始め、沖縄海洋博のアクアポリスの図面を見ることができたことは、とても貴重でした。
- ・2000年生まれで、今回の大阪万博は初の万博となりましたが、建築目線で見てみると、とても興味深いです。（愛地球は行けませんでした。が、今回の資料で拝見できてよかったです。）
- ・展示終了間際にSNSで知ったので、第1部のEXPO'70についての展示を逃してしまったのが悔やまれました。配付のパンフレットも内容が十分にあり、ありがたいです。贅沢を言うなら1部のパンフレットもあれば、とても嬉しかったです。本展では、貴重な資料が沢山あり、説明も分かりやすかったです！
- ・今年の万博についても特集おねがいします。
- ・展示会を機に建築物に対する見方が変わるような気がしました。
- ・設計図やスケッチがきれいな状態で保存されていること、またそれを見ることができたことがうれしいです。大阪万博に行く予定があるのでより楽しみになりました。
- ・大変おもしろかったです。これをやっているということを全然しなかったもので、前期見れずに残念でした。公式のXアカウント作ってもらえないでしょうか。
- ・図録の配付大変ありがとうございます。
- ・資料館自体を知らない建築のド素人でしたが、大阪万博をきっかけに興味を持ち来館しました。今回の展示に限らずこれからも訪れようと思います。もっと若い人に知られるべき資料館なのでは？と思いました。
- ・建築に対する造詣がないと理解しづらいところはどうしてもある（テクニカルタームを知らない問題）
- ・自分は'03年度の生まれで、'05年度の愛知万博当時は1歳、何を見たかは覚えていないのですが、何となく、展示を見るのと懐かしく感じました。また、過去の万博のアイデアなどが、今回の万博にも生きていることを強く感じました。
- ・愛・地球博は行ったことがあるので特に興味深く拝見しました。今まで、こちらの資料館のことは存じあげていませんでしたが、万博きっかけで知れてよかったです。他の企画展も来たいと思います。
- ・当時のものすごい熱量が図面やスケッチから伝わってきました。図録やWEB、メディアからの刺激もいいのですが、やっぱりリアルに現物を見ると改めて思いが伝わってきました。明日から仕事を頑張れそうです。
- ・現在開催されている万博に合わせて、過去の万博の展示がされるのとても興味深く、行ってみたいという気持ちになりやすかったです。
- ・ミyakミyak（現万博のマスコット）を持った来館者も多いため、大阪万博会場でもっと大々的に宣伝しても良いのではと思う。
- ・貴重な資料を展示していただき、ありがとうございました。建築関係の知識はありませんでしたが、おもしろかったです。
- ・先月大阪万博に行き大変感銘を受けたタイミングで、たまたま上京した+近所に用事があったときにXでこの展示会のポストを見て来ました。万博の建築面における歴史がちょっとわかりました。面白かったです。
- ・もりだくさんでしたが、紹介しきれなかったパビリオンも多いと思うので次回は5期くらいで！
- ・パビリオンの図面やスケッチ案は、あまり目にすることがなかった資料なので面白かったです。建築には特段深い興味を持たずにいたが、来て拝見できてよかったです。
- ・元々、昔の手書き図面が好きで、仮設で建てられたものの図面やスケッチをみることができて、楽しかったです。この施設自体、はじめて知りました。過去の展示も魅力的で知ってたら良かったです。
- ・1970～2005までの万博を一堂に集めて見られる展示により各回の特徴や、大阪で3回も万博が開かれたこと、あまり知らずにいた海洋博や科博、花博についても知ることができる有意義な展示だったと思う。



## ■コメント（ガイドツアー・シンポジウム）

- ・ 図面を見ただけではわからない話なども聞けたりして、ツアー後にそれを振り返ることで二度楽しむことができました。
- ・ 見るだけ、読むだけではわかりにくいので講師による対面講座は理解を促す。
- ・ ガイドツアーに参加して、全体像や位置付けが先によくわかったので、展示が楽に見られました。（全部解説文を読もうとするといつも疲れてしまうので）理解が深まりました。ありがとうございました！
- ・ ガイドツアーに参加出来、眺めるだけでは分からなかった点やプラスαの情報を説明して頂き、非常に分かりやすかったです。
- ・ 知らずに来場して運良くガイドツアーに参加できて理解が深まりました。
- ・ 詳しくご説明いただき、各万博の背景や特徴について深く知ることが出来た。特に、万博が開催されるまでの過程や経緯についての説明が興味深かった。ありがとうございました。
- ・ 一つの万博の説明ごとに資料を見る時間を設けていただくとより見やすかったと思いました。説明は分かりやすいと思いました。
- ・ ガイドツアーがとても分かりやすくてペース配分もちょうど良くてありがたかったです。
- ・ 前田先生の「空間から環境へ」からのご説明は胸が熱くなりました。
- ・ とても充実していました
- ・ すばらしかった
- ・ 良い時間配分だと思いました。
- ・ ガイドツアー土日(月1回でも)にも開催されると嬉しいです
- ・ 大阪万博の内容が分かる写真などビジュアルしりょうもあったらもっと見やすくなると思った。
- ・ 7.で書いた目的で見る分には自分で見て回った方が見やすいと思った。
- ・ ありがとうございました。
- ・ とても興味深くまわることができました。ご説明わかりやすく楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ 詳細を丁寧に説明いただき興味深かったです。新たな視点を持つことができました。
- ・ 大変わかりやすく説明していただきました。ありがとうございます。
- ・ 次回も参加します。
- ・ すべての建築家のプロフィールを説明して頂いて興味深かったです。
- ・ 説明していただけると、見るポイントなどが分かりやすいのでより楽しめました。
- ・ 一人で見てもよくわからなかった図面をよく解説してくださり楽しいと感じました。
- ・ とてもわかりやすく、聞きやすかったです。
- ・ 紙に書いてある説明以外を説明してくれてわかりやすかった。
- ・ 説明がとてもわかりやすく、建築に対する興味関心が深まりました。
- ・ ガイドの方の説明がとてもわかりやすく、理解が深まったとともに興味がわいた。親族に建築に携わる人が多いので、話してみたいと思った。
- ・ ガイドさんの説明は、ポスターに書いてあることよりもさらに分かりやすく、要点がまとまっていました。
- ・ 図面やスケッチからはわからない作者の話が背景をしれるのがとても良いと思った。
- ・ 展示だけでは知れないことも知ることができた。

- ・ とても説明が分かりやすく、分析することができた。
- ・ 限られた時間の中で、沢山丁寧に説明をして下さった。ありがとうございました！
- ・ 見るための指標ができてよかったです。
- ・ 風船の例えが分かり易かったです。ありがとうございました。
- ・ 資料についての分かりやすい説明が聞けて、面白いと思いました。
- ・ ガイドさんのわかりやすい説明で、色んな資料のすごさや貴重さを知れました。
- ・ 丁寧に展示されている物への説明をしいていただき、理解をより深めることができてとてもよかったです。
- ・ 大阪万博の建築の説明が分かりやすく、楽しくまわることができました。
- ・ 図面の見方のヒントや建築の考え方も知れて面白かった。
- ・ 当時の状況やしりょうが集められている理由、どのような建物だったかをていねいに説明されてよかった。
- ・ 万博に行かなくてはと思った。知ることは学ぶことにもつながるものだった。
- ・ 資料を眺めるだけでは分からない背景や本質を説明を受けて知ることができてよかった。
- ・ 展示を見るだけでは、スゴイとしか思わないだろうし、興味がありそうなところしか見なかったと思いますが、説明を聞いたことによって、展示しているもののスゴさがよりわかったし、より、興味がそそられました。
- ・ 分かりやすく、優しい説明でとてもよかった。
- ・ とても具体的に図面を見るだけでは分からないことを言うてくださったので、より楽しく建築資料を見ることができました。
- ・ 図面だけでなく、その図にいたった経緯など周辺の知識を知ることができたので、よかったです。
- ・ 1つ1つについて説明してくださって分かりやすかったです。
- ・ 自分で読んでいただけじゃ分からない背景を知れて面白かったです。
- ・ 当時の写真見せてもらったのが面白かった。
- ・ くわしく楽しそうに話してくださっていてとても楽しかったです。
- ・ ガイドの方の説明が丁寧に分かり易かったです。
- ・ 図面やスケッチでは分からない、当時の評判や現在の姿についての説明があり、展示内容への理解をより深められた。
- ・ 図面を見ただけじゃ分からなかった建物についての背景を教えてください分かってやすかったです。
- ・ ありがとうございました！！
- ・ 次回はガイドさんの話を聞きたいです。
- ・ わかりやすくよかったです。建築を知るのにはすぐにはできないので、知見のある人からの話がいちばん理解しやすいです。
- ・ 資料の見どころが分かりやすい。展示解説ももう少しあると良い。
- ・ 実際の写真なども見せて下さり、1から詳しい説明を聞けておもしろかった。次の展示もぜひ参加したいです。
- ・ くわしく説明いただけておもしろかった。
- ・ とても参考になりました。第2部も来たいと思いました。（愛知県から来ました）
- ・ ゆったりした語り口と、後でもう一度展示を見直そうと思わせて下さる説明に楽しませていただきました。

## 日本の万国博覧会 1970-2005

- ・ とても丁寧に説明いただきました。ありがとうございました。
- ・ 展示に至るまでの経いや事情もわかってよかった。
- ・ 今改めて 50 年前の EXPO の美しい図面等を眺めると、実際に見てみたかったと心から思えるので、今回の万博をもっと丁寧に見て回ろうと思いました。どうもありがとうございました。
- ・ スタッフの説明が分かりやすく、資料から読み取れない理解が得られた。とても良かったです。
- ・ ガイドでご説明くださったので、展示の意図がよく分かりました。ありがとうございました。
- ・ 万博の歴史や変せん、地図など解説がわかりやすく、ツアーやシンポジウムだけでなく、展示の方が楽しかったです。
- ・ 1 時間位のちょうどいい規模感でただ見ているだけでは分からない情報を知ることができました。
- ・ また他の参加者の方の建築に対する掛け合いなど、突発的なお話も聞いていて楽しかったです。
- ・ ガイドして下さった為、普段目を向けない所や、説明してくださらないとわからない点を明確に知る事ができ、有意義な時間を過ごす事ができました。
- ・ 順を追った説明や図面の見方などを聞けて良かった。他の展示や図面を見る際にも同じようにしてみようと思った。
- ・ 今回の展示の意図や各資料について詳しく説明してくださったり、資料だけではわからなかった部分を知れて充実した時間になりました。
- ・ 図面の順番や消しゴムの跡、メモ書きから読み取れる設計者の思考の過程、形状の変化、当初の思い、そして何を一番実現させたかったかなど、心情まで読み取ろうとした説明をしてくださいました。普段図面を見る時、そのようなことはあまり意識しておらず、収まりがどうなるかなどに注視していたため、その意図まで図面から読み取れる可能性があるということに新たな発見がありました。
- ・ 大阪万博での人々の勢い、建築の勢いを感じた。住友美術館で広場を作る考えで建築を 40m 上へ持ち上げたこと、そこへのアプローチが階段と EV 1 つということに驚いた。また図面やドローイング、写真等を鑑賞して最初の発想からそれが建築になってしまうことの怖さと建築の夢みたいなものを感じた。
- ・ 建築がとても楽しそうに建ち上がっていき、想像を超える新たな技術と世界を夢見るように構造設計者と建築家が協働してできる建築がとても印象に残りました。
- ・ 社会の中で、建築を立てる喜びを共有していた時代なんだと感じました。
- ・ スケッチの見方や、展示物の展示理由など自分だけでは知ることのできないことを教えていただいて、今回はもちろん今後の展示を見る際にも応用できそうな知識を身につけることができました。
- ・ オウさんのガイドツアーがとても丁寧でずっと聞いていたくなりました。特に史料の裏話や展示を見るだけでは知り得ないような情報を教えていただけたのが良かったです。
- ・ わかりやすく流れの良い進行で、展示全体の構成がわかったことと、日本万博博覧会の一つ一つの建築・パビリオンについてのポイントをご説明いただいて、その後詳しく図面やスケッチ、映像資料を見たときに、ただ見るよりも理解が深まったことがガイドツアーに参加できて良かったと思った点です。ありがとうございました！
- ・ 今回学校の方とツアーガイドの方の連携のおかげで、貴重な体験をさせていただきました。タメになる知識や裏話を教えていただき、夏に行く

- ・ 予定の万博が楽しみになりました。先生方、ガイドの方ともに、今回はガイドツアーに参加させていただき本当にありがとうございました。
- ・ 詳細な図面などがあっても、それが一体どういう詳細な事を表しているのか、どんなことを目指して作られた物なのかというのが、解説がある事でわかりやすく聞けた
- ・ 万博ごとの違いや、それぞれの展示のポイントなど展示内容以上に知れたことが良かったです。特に、その建築の時代背景や関係性を知ることによって展示内容の理解が深まりました。
- ・ 実物の図面を見れたのは良い機会だと思いました。筆圧で鉛筆の塗りが光っているものや、人や木をスタンプで表現しているものなど、CAD では無い書きの魅力があり、かっこいいと思いました。特に良かったのは前川國男さんの図面とスケッチです。また、学芸員さんと犬飼先生の解説があったので、理解しやすかったのと、当時は実験的な試みが多く、夢を感じるというお話は、「万博」の本質を感じました。そこで今回の万博を考えると、建築の実験的な試みというよりは、AI などのデジタル世界の実験的な試みの面が大きいのかなと感じます。AI 含め、医療の発達や新素材に関することなどの展示を包む、器のような役割が、今回の万博で建築に求められていることなのかなと思いました。
- ・ 通常ではみられないような貴重な資料を学芸員の方の説明を聞きながら見ることができ、とても楽しかった。
- ・ ガイドツアーで各館の特徴をピンポイントで紹介していただいただけではなくて、説明文が書かれていない資料まで詳しく紹介していただいたので、とても貴重な機会に参加してよかったと思いました。
- ・ ガイドの方の説明も面白かったのですが、先生の構造に関する補足説明もとても興味深く、面白く聞いていました。第 2 弾も気になります。
- ・ 中央の展示では日本で行われた万博が同スケールで見られたのは比較とも言えるし、時代の流れとも言えるし、当時の日本の経済状況と万博とが対応していたり比較できるのが面白かった。
- ・ 一般開放しているわりに守衛室の態度が横柄でした。何さまのつもりでしょう。
- ・ 足つかれた。
- ・ わかりやすく、ご案内いただけて大変勉強になりました。資料を見る上で批評できない視点も重要だと感じました。
- ・ 展示同士の関係性を頭に入れた状態で見学できたため、理解が深まりました。
- ・ 説明が 1 つ 1 つ丁寧に分かりやすかった。
- ・ MORE MOVIE CONTENTS WHAT FUTURE FOR WORLD FAIR IN JAPAN.
- ・ 万博の歴史や裏話について聞けてよかった。
- ・ とても興味深い内容でした。
- ・ 大阪関西万博に行っています。過去の万博をふまえて、現在も新たな建築が表現され、残っていると感じました。またこのような会に参加したいです。
- ・ 図面だけではわからなかったことが理解しやすかったです。
- ・ 回数が少なく参加できませんでした。遠くからきている者には日時を合わせるのは難しいです。
- ・ I would be interested in the aftermath of these exhibitions what happens with these places when the fair is over? Is there a use afterwards? It would be nice to see an Exhibitions on the after and the system as such with bring forth single use architectures.
- ・ ガイドツアーも参加したいと思います。（休日だと有りがたいです）

## 日本の万国博覧会 1970-2005

- ・ とてもいいでよくわかりました。
- ・ 第 1 部に続きガイドツアーに参加しました。わかりやすい説明でとても参考になりました。ありがとうございました。
- ・ 分かりやすい解説で行った事のない博覧会を知る事が出来ました。博覧会終了後のゆくえ建物についても、話題がありましたが、これをテーマにした展示もこれからの時代に役立つと思いました。
- ・ また参加したいと思う。
- ・ 見るだけでは分からない説明が分かりやすかったです。
- ・ と中からの参加になってしまいましたが、パネルやキャプションにないお話もあり、ガイドツアーに参加したお得感があり、非常に良かったです。
- ・ 鉛筆が書きにくいです。
- ・ 大変分かりやすい解説をしていただき、ありがとうございました。
- ・ 特に利用者なし。展示を楽しみにしていただき歴史に取り組むことです。
- ・ 小林さんの解説は分かりやすくおもしろかったです。見どころがつかめました。
- ・ シンボはネットでも公開していただきたいです。2 回目は参加できなかったのもので
- ・ ガイドツアー日を増やしてほしい。少ないと思います。



■ 国立近現代建築資料館公式 website

<https://nama.bunka.go.jp/exhibitions/2503>

[illegible][illegible]

公式ウェブサイトアクセス数（2025 年 3 月～8 月）

訪問数：46,344 件、閲覧数：152,432 件

万博展ページアクセス数（2025年3月～8月）：18,058件

## ■ PR times リリース

## 第1部

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000922.000047048.html>

## 第2部

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000975.000047048.html>

独立行政法人

国立近代建築美術館

National Museum of Contemporary Architecture, Agency for Cultural Affairs

プレス案内

2025年2月8日

## 企画展「日本の万国博覧会 1970-2005」開催のご案内

文化庁立近代建築美術館では、2025年3月8日より企画展「日本の万国博覧会 1970-2005」を開催いたします。

公式サイトページ <https://www.hanka.go.jp>

【展覧会名】 日本の万国博覧会 1970-2005

【概要】

万国博覧会（国際博覧会、エクスポ、という）は、元々は、19世紀に各国の優れた物品を集めて展示する博覧会として始まり、現在では、国際博覧会条約（1876年制定、1928年成立）に基づいて行われる多数の国が参加する博覧会を指します。その内容も、産業に限ら

ず。イベント、アミューズメントも含めて多様化してきました。

万国博覧会の記録は、世界の遺産として知られたいずれのものですが、近代史の証人にも大きな役割を果たしました。世界の万国博覧会では、1953年にロンドンで開催された、その展示館が「クリスタル・パレス（水晶宮）」は、鉄骨造の展示館をガラスで包み込んでデザイン

であり、館とガラスの境界の区別を消さねた。また、1889年パリ万国博覧会に際して、会場のゲートおよび噴水として建設されたエッフェル塔は、当時最先鋭の鉄骨造建築であり、今日でもパリのランドマークとして親しまれています。万国博覧会が、国際関係をかち取る場であると同時に、短期間で大規模な土木建築を成し、都市を大規模的に再構築すること、その結果、万国博覧会開催の都市にも見られることになったのです。

日本国内では、これまで日本万国博覧会（大阪万博、EXPO'70、1970年）、沖縄国際博覧会（1975年）、つくば国際科学技術博覧会（1985年）、国際園芸と緑の博覧会（1990年）、日本国際博覧会 愛・地球博（2005年）の5回の万国博覧会が開催されてお

1

丸の内

国立近代建築資料館

National Institute of Modern Architecture Archives and Library

プレス案内

り、大版・両面方向2025年4月13日(日) - 10月13日(月) 184日間開館がそれに続き、6回目を迎えることとなります。

本展覧会は、当初が特選する国庫や金銭控除の資料を中心とした展示を通じて、東洋館の発展に、これまで約30回の万国博覧会の会場デザインと施設デザインに関する情報を提供してきましたことを旨としています。

本展覧会は、2期に分けて、約4年間開催されます。本展覧会を通じて、万国博覧会が果たした建築史上の役割の一端を把握していただき、日本の万国博覧会の発展および博覧会建築ならではの建築デザイン上の創造工夫を鑑賞いただけることを願っております。

#### ■基本情報

- 【主催】 文化庁
- 【企画】 文化庁展示近代建築資料科
- 【協力】 公益財団法人 東京都市建設基金
- 【協賛】 文化庁展示近代建築資料科  
(〒113-8555 東京都文京区湯島4-6-15 湯島地方合同庁舎内)
- 【会期】 第1期「EXPO 70 技術・デザイン・展覧の融合」 2025年3月8日(土) - 5月25日(日)

第2期「EXPO 70 ひと・と・自然・環境へ」 2025年6月14日(土) - 8月31日(日)

休館日：毎週月曜日 但し、祝日の月曜日は開館し翌平日休館。

(5月5日、6日、7月20日、8月11日開館。7月22日、8月12日休館)

(3月26日 - 6月13日 日曜会入場券入場につき休館)

【開館】 10:00 - 16:30

【入館方法】

●観覧券の有料の組合 (平日のみ)

湯島地方合同庁舎より入館。無料、日中各回観覧には入場できません。

●日中各回観覧と夜間観覧の組合 (土・日祝、及び平日)

都立美術館より入館。有料、日中各回観覧入館券 (一泊4回 100円) が必要。

2

## ■文化庁公式 X

[https://x.com/prmag\\_bunka/status/1890218611631091948](https://x.com/prmag_bunka/status/1890218611631091948)



2/14 : リポスト 51、いいね 136

5/8 : リポスト 7、いいね 31

5/9 : リポスト 5、いいね 18

5/27 : リポスト 11、いいね 35

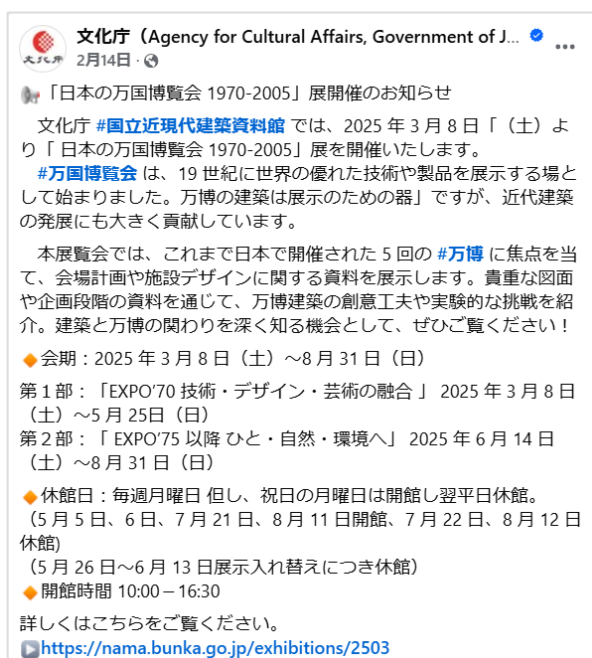
6/23 : リポスト 5、いいね 22

7/30 : リポスト 11、いいね 32

8/22 : リポスト 12、いいね 32

## ■文化庁公式 Facebook

<https://www.facebook.com/photo?fbid=936975898616085&set=a.246283364352012>



2/14 : いいね 134、シェア 35

5/8 : いいね 176、シェア 35

5/9 : いいね 127、シェア 7

5/27 : いいね 139、シェア 22

6/23 : いいね 122、シェア 25

7/30 : いいね 130、シェア 21

8/22 : いいね 116、シェア 25

## ■ 国立近現代建築資料館 公式 Instagram

<https://www.instagram.com/nama.japan/>



nama.japan

nama.japan 【「日本の万国博覧会 1970-2005」展を3/8から開催します】

文化庁国立近現代建築資料館では、3月8日（土）より「日本の万国博覧会 1970-2005」展を開催いたします。

日本国内では、これまで日本万国博覧会（大阪万博、EXPO'70、1970年）、沖縄国際海洋博覧会（1975年）、つくば国際科学技術博覧会（1985年）、国際花と緑の博覧会（1990年）、日本国際博覧会 愛・地球博（2005年）の5回の万国博覧会が開催されています。来月開幕する大阪・関西万博[2025年4月13日(日)～10月13日(月) 184日間開催]はこれに続き、6回目ということになります。

本展覧会は、当館が所蔵する万国博覧会関連の図面や企画段階の資料を中心とした展示を通じて、来館者の皆様に、過去5回の万国博覧会の会場計画と施設デザインに関する理解を深めていただくことを目的としています。

会期は、2部に分けて、約半年間開催されます。  
本展覧会を通じて、万国博覧会が果たした建築史上の役割の一端をご理解していただきつつ、日本の万国博覧会の変遷および博覧会建築ならではの建築デザイン上の創意工夫を鑑賞いただ

3月7日

	ビュー	いいね
2/13	1,767	38
3/6	1,229	40
3/7	958	38
3/7	2,164	35
3/8	996	42
3/9	1,099	36
3/10	954	38
3/12	999	22
3/15	1,161	25
3/21	1,188	23
4/2	1,388	28
4/10	1,097	34
5/5	1,432	47
5/9	1,398	26
5/27	1,514	52
5/29	1,254	28

	ビュー	いいね
6/23	1,556	48
6/30	1,395	21
7/2	1,836	29
7/3	1,838	22
7/16	2,619	84
7/30	2,549	28
8/21	3,302	56
9/3	2,248	69



## 広報掲載一覧

媒体	掲載先（企業名）	掲載紙面、WEB
SNS	坂倉建築研究所 Sakakura Associates	Facebook・坂倉建築研究所 Sakakura Associates
WEB	株式会社 PR TIMES	<a href="https://prtimes.co.jp">https://prtimes.co.jp</a> <a href="https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000922.000047048.html">https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000922.000047048.html</a>
WEB	BIGLOBEニュース ビッグロブ株式会社（英文商号：BIGLOBE Inc.）	<a href="https://news.biglobe.ne.jp/economy/0210/prt_250210_5003217535.html">https://news.biglobe.ne.jp/economy/0210/prt_250210_5003217535.html</a>
WEB	株式会社SDアート	<a href="https://sdart.jp/">https://sdart.jp/</a>
WEB	NEWSRELEA.SE	<a href="https://newsrelea.se">https://newsrelea.se</a>
WEB	Tokyo Art Beat	<a href="https://www.tokyoartbeat.com/events/-/World-Fair-in-Japan-1970-2005/E43-F6156/2025-03-08">https://www.tokyoartbeat.com/events/-/World-Fair-in-Japan-1970-2005/E43-F6156/2025-03-08</a>
WEB	時事通信社/時事ドットコム	<a href="https://www.jiji.com/jc/article?k=000000922.000047048&amp;g=prt">https://www.jiji.com/jc/article?k=000000922.000047048&amp;g=prt</a>
WEB	日経nikkeiNo reproduction without permission.	<a href="https://www.nikkei.com/compass/content/PRTKDB000000922_000047048/preview">https://www.nikkei.com/compass/content/PRTKDB000000922_000047048/preview</a>
WEB	株式会社サードイノベーション TokyoDays	<a href="https://tokyo.publishing.3rd-in.co.jp/article/8558664c-e750-11ef-bf81-9ca3ba0a67df#gsc.tab=0">https://tokyo.publishing.3rd-in.co.jp/article/8558664c-e750-11ef-bf81-9ca3ba0a67df#gsc.tab=0</a>
WEB	museumnews.jp	<a href="https://x.com/museumnews_jp/status/1888789977607406033">https://x.com/museumnews_jp/status/1888789977607406033</a>
WEB	サードニュース	<a href="https://news.3rd-in.co.jp/article/42c7c46e-e74e-11ef-8a69-9ca3ba083d71#gsc.tab=0">https://news.3rd-in.co.jp/article/42c7c46e-e74e-11ef-8a69-9ca3ba083d71#gsc.tab=0</a>
SNS	Tak(たけ) @『いちばんやさしい美術鑑賞』	<a href="https://x.com/taktwi/status/1888763159017820206">https://x.com/taktwi/status/1888763159017820206</a>
WEB	株式会社カーリン	<a href="https://www.fashion-press.net">https://www.fashion-press.net</a>
WEB	美術手帳	<a href="https://bijutsutecho.com/magazine/news/exhibition/30247/pictures/2">https://bijutsutecho.com/magazine/news/exhibition/30247/pictures/2</a>
WEB	YAHOO! J A P A N ニュース	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/20a2cda6804e2111d85c9cf875506c8c7f1db016">https://news.yahoo.co.jp/articles/20a2cda6804e2111d85c9cf875506c8c7f1db016</a>
SNS	青山デザインファオラーム	<a href="https://www.facebook.com/login/?next=https%3A%2F%2Fwww.facebook.com%2Fstory.php%3Fstory_fb_id%3D944991831118538%26id%3D10006">https://www.facebook.com/login/?next=https%3A%2F%2Fwww.facebook.com%2Fstory.php%3Fstory_fb_id%3D944991831118538%26id%3D10006</a>
WEB	ADF WEBmagazine	<a href="https://www.adfwebmagazine.jp/architect/exhibition-world-fair-in-japan-1970-2005-to-be-held-at-national-archives-of-modern-architecture-agency-for-cultural-affairs/">https://www.adfwebmagazine.jp/architect/exhibition-world-fair-in-japan-1970-2005-to-be-held-at-national-archives-of-modern-architecture-agency-for-cultural-affairs/</a>
WEB	Exhibitions, museums, art galleries, memorial halls 展覧会・博物館・美術館・記念館	<a href="https://abc0120.net/2025/02/11/175745/">https://abc0120.net/2025/02/11/175745/</a>
WEB	いま気になるモノとコト。antenna.	<a href="https://antenna.jp/articles/25718795">https://antenna.jp/articles/25718795</a>
SNS	EXPO CAT@expo2025_cat	<a href="https://x.com/expo2025_cat/status/1890263610292851033">https://x.com/expo2025_cat/status/1890263610292851033</a>
SNS	文化庁@prm_ag_bunka	<a href="https://x.com/prmag_bunka/status/1890218611631091948">https://x.com/prmag_bunka/status/1890218611631091948</a>
WEB	にこにこニュース	<a href="https://news.nicovideo.jp/watch/nw17198903?news_ref=top_newComments">https://news.nicovideo.jp/watch/nw17198903?news_ref=top_newComments</a>
WEB	日本の万国博覧会 1970-2005 - Tokyo Now	<a href="https://tokyonow.tokyo/event/225958/">https://tokyonow.tokyo/event/225958/</a>
WEB	はてなブックマーク	<a href="https://b.hatena.ne.jp/entry/s/nama.bunka.go.jp/exhibitions/2503">https://b.hatena.ne.jp/entry/s/nama.bunka.go.jp/exhibitions/2503</a>
SNS	美術手帳 WEB版	<a href="https://x.com/bijutsutecho_/status/1891314122974712156">https://x.com/bijutsutecho_/status/1891314122974712156</a>
WEB	株式会社 建報社	<a href="https://kenchiku.co.jp/event/evt20250218-2.html">https://kenchiku.co.jp/event/evt20250218-2.html</a>
雑誌	株式会社 近代建築社 編集部 泉並袖	月刊雑誌近代建築3月号
WEB	ぴあエンタメ情報	<a href="https://lp.p.pia.jp/article/news/412735/index.html?detail=true">https://lp.p.pia.jp/article/news/412735/index.html?detail=true</a>
WEB	建築情報サイト「KENCHIKU」(は株式会社建報社)	<a href="https://kenchiku.co.jp/event/evt20250218-2.html">https://kenchiku.co.jp/event/evt20250218-2.html</a>
WEB	eXcite ニュース	<a href="https://www.excite.co.jp/news/article/pia_jp_a0027e25_c023_4507_940c_efedddcc0b1e8/">https://www.excite.co.jp/news/article/pia_jp_a0027e25_c023_4507_940c_efedddcc0b1e8/</a>
WEB	ウーマンエキサイト	<a href="https://woman.excite.co.jp/article/lifestyle/rid_LP_P_PIA_a0027e25_c023_4507_940c_efedddcc0b1e8/">https://woman.excite.co.jp/article/lifestyle/rid_LP_P_PIA_a0027e25_c023_4507_940c_efedddcc0b1e8/</a>
WEB	建設通信新聞DIGITALkensetsunews.com	<a href="https://www.kensetsunews.com/archives/1050889">https://www.kensetsunews.com/archives/1050889</a>
WEB	さんたつby散歩の立つ人	<a href="https://san-tatsu.jp/pressrelease/381324/">https://san-tatsu.jp/pressrelease/381324/</a>
WEB	nifty ニュース	<a href="https://news.nifty.com/article/entame/movie/12178-3839587/photo/">https://news.nifty.com/article/entame/movie/12178-3839587/photo/</a>
WEB	大阪ログピィ	<a href="https://osaka-log.com/">https://osaka-log.com/</a>
WEB	livedoor News	<a href="https://news.livedoor.com/pr_article/detail/28127920/image/45838521/">https://news.livedoor.com/pr_article/detail/28127920/image/45838521/</a>
WEB	建築系検索エンジンKENKEN	<a href="https://www.kenchikukenken.co.jp/event/?ca=event&amp;pref=chiba">https://www.kenchikukenken.co.jp/event/?ca=event&amp;pref=chiba</a>
WEB	こどもとお出かけ情報サイト「いこーよ」	<a href="https://iko-yo.net/events/480700">https://iko-yo.net/events/480700</a>
WEB	Pinterest	<a href="https://jp.pinterest.com/pin/580190364529057973/">https://jp.pinterest.com/pin/580190364529057973/</a>
WEB	一般社団法人 茨城県建築士会	<a href="https://i-shikai.com/category/gyousei">https://i-shikai.com/category/gyousei</a>
WEB	Tokyo Live & Exhibits スタジオミーム代表 関根かんじ	<a href="https://tokyo-live-exhibits.com/pum_tkbnk_nationalarchivesofmodernarchitecture/">https://tokyo-live-exhibits.com/pum_tkbnk_nationalarchivesofmodernarchitecture/</a>
雑誌	文の京ミュージアムネットワーク加盟施設	文京スクエア4月号
WEB	Threads・@tamatama2	<a href="https://www.threads.net/@tamatama2/post/DGphP4Gx2m2">https://www.threads.net/@tamatama2/post/DGphP4Gx2m2</a>

## 日本の万国博覧会 1970-2005

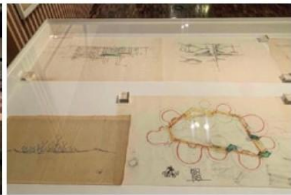
媒体	掲載先（企業名）	掲載紙面、WEB
WEB	事務局Archi Future 運営事務局（株式会社プロプラン内） ArchiFutureWeb	<a href="https://archifuture-web.jp/finder/3038.html">https://archifuture-web.jp/finder/3038.html</a>
WEB,SNS	ウェブ版「美術手帖」編集部	<a href="https://bijutsutecho.com/exhibitions/15497">https://bijutsutecho.com/exhibitions/15497</a>
WEB	DOCOMOMO Japan	2025年3月31日発行第37号 <a href="https://docomomojapan.com/">https://docomomojapan.com/</a>
WEB	BUNGANET	<a href="https://bunganet.tokyo/banpakuten/">https://bunganet.tokyo/banpakuten/</a>
WEB	日経BP 日経クロステック編集 / 日経アーキテクチャ	日経クロステック 建築・住宅 <a href="https://xtech.nikkei.com/top/building/">https://xtech.nikkei.com/top/building/</a> ▼日経アーキテクチャ <a href="https://xtech.nikkei.com/media/NA/">https://xtech.nikkei.com/media/NA/</a>
雑誌	季刊『庭』編集部 河野 華子 HANAKO KONO	雑誌（季刊『庭』 <a href="https://niwamag.net/">https://niwamag.net/</a> ）
雑誌	文の京ミュージアムネットワーク加盟施設	文京スクエア5月号
ポスター	上野ミュージアムウィーク	上野ミュージアムウィークポスター
雑誌	株式会社新建築社 新建築社編集部「新建築」	『新建築』4月号（4/1発売）の展覧会紹介欄にて本展を紹介
WEB	株式会社JDN	つくる、使う、考える人のデザイン情報サイト「JDN」 <a href="http://japandesign.ne.jp">japandesign.ne.jp</a> つくる人と場をつなぐ求人サイト「デザインのお仕事」 <a href="http://jobs.japandesign.ne.jp">jobs.japandesign.ne.jp</a> クリエイティブを学び、将来を考える「デザインノトビラ」 <a href="http://school.japandesign.ne.jp">school.japandesign.ne.jp</a> 日本最大級のコンテスト情報サイト「登竜門」 <a href="http://compe.japandesign.ne.jp">compe.japandesign.ne.jp</a> Contest iroha -コンテスト相談所- <a href="http://compe.japandesign.ne.jp/contest-iroha">compe.japandesign.ne.jp/contest-iroha</a>
	株式会社ティーケープランニング	昭文社刊「東京大人のミュージアム」の制作
WEB	Webメディア「しゃかいか！」	<a href="https://www.shakaika.jp/?p=39880&amp;post_type=news&amp;preview=1&amp;_ppp=689c28df62">https://www.shakaika.jp/?p=39880&amp;post_type=news&amp;preview=1&amp;_ppp=689c28df62</a>
雑誌	株式会社ブラックフィッシュ	東武鉄道の月刊沿線情報誌「マンスリーとうぶ」
WEB	株式会社 VUELO(ヴエロ) Walker+（ウォーカープラス）制作チーム	<a href="https://www.walkerplus.com/event/ar0313e551399/">https://www.walkerplus.com/event/ar0313e551399/</a>
WEB	株式会社ブンガネット（BUNGA NET Inc.）代表取締役	ネットマガジン「BUNGA NET」 <a href="https://bunganet.tokyo/">https://bunganet.tokyo/</a>
WEB	Tokyo Live & Exhibits スタジオミーム代表 関根かんじ	<a href="https://tokyo-live-exhibits.com/pum_tkbnk_nationalarchivesofmodernarchitecture/">https://tokyo-live-exhibits.com/pum_tkbnk_nationalarchivesofmodernarchitecture/</a>
雑誌	株式会社ブラックフィッシュ	東武鉄道沿線情報誌「マンスリーとうぶ」 2025 年8 月1 日

## 『新建築』2025年4月号

### 日本の万国博覧会1970-2005 第1部「EXPO'70 技術・デザイン・芸術の融合」

開催中

©国立近現代建築資料館／東京  
2025.3.8～5.25



左：展示風景。会場中央に日本で開催された万国博覧会の概要と資料、その周囲にEXPO'70の図面や資料が展示される。／中央：「住友重話館」構想スケッチ。／右：会場中央のEXPO'70資料。大高正人、村田豊、坂倉準三、川澄登のEXPO'70についての日誌書誌と、大高による円下、菊竹、大谷/ペリオンの施工写真を展示。

日本国内で開催されてきた万国博覧会（1970年日本万国博覧会、1975年沖縄国際海洋博覧会、1985年国際科学技術博覧会 つくば科学博、1990年国際花と緑の博覧会、2005年日本国際博覧会 愛・地球博）の、図面や写真等の資料を通じ、万国博覧会の会場計画や建築デザインを紐解く展覧会。第1部となる本展では、1970年に開催された日本万国博覧会（以下、EXPO'70）の資料を中心に紹介する。

会場には円下健三の「基幹施設計画 大屋根・お祭り

広場」（本誌7005）や菊竹清訓の「エキスポタワー」（同7005）など、10計画の資料が展示される。たとえば大谷幸夫の「住友重話館」（同7006）は直径13～24mのドームが9つ浮かび上がり、1階を広場として開放した「ペリオン」。写真や図面と共に手描きスケッチが展示され、当初から風船のように浮遊する建築を構想していたことが分かる。CADが使用されていなかった当時に、浮遊するドームの構造計算を手計算でまとめ、実際につくり上げた努力が窺える。また、

前川國男の「自動車館」は、ふたつの円錐型の展示館と交通ゲームスペースの他、開放的な広場が計画された。隣接する住友重話館と街並みをつくりたいという大谷幸夫の提案に応えたという。さまざまな挑戦がされ、新しい未来を示す展示と一体となったEXPO'70の建築を、ものとして見ることでできる機会であり、その後の日本の建築の発展に大きな影響を与えたイベントであることを再認識するものであった。

## BUNGA NET (2025年3月7日掲載)

### 「充実資料がうらやまし過ぎる！万博総まくり展@国立近現代建築資料館が開幕」

# BUNGA NET

充実資料がうらやまし過ぎる！万博総まくり展@国立近現代建築資料館が開幕

● 2025年3月7日  
◎ カテゴリー：建築、建築関係  
▲ myazawa\_bunga

Tweet

かつて雑誌の編集長をやっていた人間から見ると、「このタイミングでこんな充実した資料を使って万博総まくりの特集ができるなんてあり得ない！うらやまし過ぎる！」という感じだ。3月8日（土）から東京・港島の文化庁国立近現代建築資料館で始まる「日本の万国博覧会 1970-2005」第1部の内覧会に行ってきた。理由は後述するが、本展で必ず見てほしいのはこの2点の図面だ。



筆者（空沢）はこの資料館が開館したときからほとんどの展覧会を見ており、珠の図面が寄贈されているかも大体知っている。なので、前・大阪万博がテーマと聞いて「誰のどのプロジェクトが出る」とおおよそ想像がついた。想像はほぼ当たっていたのだが、今回は、知っているプロジェクトでも「見たことのない図面」がたくさん出ている！

例えば、菊竹清訓の図面はここで何度も食い入るように見てきた（ご存じない方もいるかもしれないが筆者は犬の菊竹ファンで『菊竹清訓遺稿』という本も過去に出している）のだが、冒頭に載せた「エキスポタワー・塔広場」の検討中図面は初めて見た。

筆者が知る「エキスポタワー」はこのように、3本足で立ち、上の方にキャンピングがごちゃごちゃとからみつく。

日本国内では、これまで日本万国博覧会（大阪万博、EXPO'70、1970年）、沖縄国際海洋博覧会（1975年）、つくば国際科学技術博覧会（1985年）、国際花と緑の博覧会（1990年）、日本国際博覧会 愛・地球博（2005年）の5回の万国博覧会が開催されており、大阪・関西万博（2025年4月13日（日）-10月13日（月））がそれに続き、6回目ということになります。

本展覧会は、当館が所蔵する図面や企画段階の資料を中心とした展示を行い、これまでの5回の万国博覧会の会場計画と施設デザインに関する理解を深めていただくことを目的とします。本展覧会を通じて、万国博覧会が果たした建築史上の役割の一掃を理解しながら、博覧会建築ならではの建築デザイン上の創意工夫をご鑑賞ください。



会期は約半年の長丁場で、前半（3月8日～5月25日）の第1部は「EXPO'70 技術・デザイン・芸術の融合」、後半（6月14日～8月31日）の第2部は「EXPO'75 関 ひと・自然・環境へ」だ。つまり、すぐに見られる第1部は、1970年開催の前・大阪万博のプロジェクトが中心である。



キュレーションを担当した小林亮弘氏（東京都立大学名誉教授）が説明してくれた

もう1つの必見プロジェクトが、大谷幸夫の「住友重話館」。55年前にこれが本館に実現したということが信じられない。



## 実施記録

日本の万国博覧会 1970-2005

実施日程（2024年12月1日～2025年10月31日）

	実施項目	実施日程／締切	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
管理・記録 (7-1)	委託業務成果報告書及び納品物データ一式	10/31締切											●
	実施計画（体制表、工程表）		●										
	業務記録	随時	●	●	●	●							
	来場者集計・アンケート分析	第2部実施予定											
	広報効果の集計、収集、記録	プレスリリース以降随時			●	●							
	会場記録映像・写真撮影	3/17、6/16撮影				●			●				
	会場記録映像編集	9/末納品										●	
調査 (7-2)	有識者による章（博覧会毎）解説執筆		●										
	有識者による助言		●										
教育普及 (7-3)	有識者による講演	3/23、6/28シンポジウム開催				●			●				
	アウトリーチ兼記録	3/23、6/28シンポジウム開催				●			●				
コンテンツ制作 (7-4)	視聴覚映像編集（オールヒストリー）	2/26 第1部 納品		●	●								
	視聴覚コンテンツ制作	3月編集、4月末納品				●	●						
	映像コンテンツ編集（スライドショー、導入動画）	2/26 納品		●	●								
資料借用・輸送・権利処理 (7-5)	輸送	12/18 実施	●										
	借用・使用に係る事務手続き		●										
翻訳 (7-6)	館長挨拶 翻訳（中・韓）	2/10 納品			●								
	館長挨拶 翻訳（英）				●								
	チラシ、プレスリリース 解説文、翻訳（英）		●	●									
広報 (7-7)	広報媒体制作												
	広報媒体制作（キービジュアル）	2/3 納品		●	●								
	広報媒体制作	2/3 納品		●	●								
	広報媒体制作（ポスター・チラシ）	1/29 入稿、2/3 再入稿、2/10 納品		●	●								
	広報物発送	12/26 発送先リスト納品 2/14 発送	●	●	●			●					
	プレスリリース	2/10			●								
看板制作（7-8） 鑑賞補助サイン制作（7-9）	看板・サイン制作	（第1部）2/14 入稿、2/27納品 （第2部）5/26			●			●	●				
展示設営・撤去 (7-10)	造作	2/27、2/28、3/1、3/4、3/5			●	●							
	展示設営・額装	（第1部）2/27、2/28、3/1、3/4、3/5 （第2部）6/10、6/11			●	●			●				
	映像・スライドセッティング	2/27、2/28			●								
	美術照明シューティング	（第1部）3/5 （第2部）6/10				●			●				
	撤去・現状復旧	（第1部）6/4 （第2部）9/1、9/2							●			●	
	廃棄	9/2										●	
	記録図面作図	8月中納品									●		
図録・冊子制作 (7-11)	冊子	2/18入稿、2/26再入稿			●								
	冊子印刷	3/5納品			●	●							
	図録	5/8入稿、5/26再入稿					●	●					
	図録印刷	6/16納品						●	●				
	図録発送	6月中							●				

2024年	
12月3日	キックオフミーティング
参加者	小林、王、川瀬、齋藤、秋岡/NAMA トーマス・ダニエル 藤井、成田、森田/midoris 風坂/芸宣、加納、福田/SD アート
内容	・仕様書読み合わせ ・全体スケジュール確認 ・体制についての確認 ・連絡、データのやり取りについて確認
12月23日	キービジュアル会議
参加者	小林、王、川瀬/NAMA 藤井、成田、森田/midoris 加納、福田/SD アート
内容	・キービジュアル4案の提案→2案に絞り込み ・プレスリリース、チラシ・ポスター、冊子デザイン関連スケジュール調整 ・印刷物の仕様、紙質について検討 ・動画コンテンツに関する仕様書、スケジュール確認 ・広報物送付先リスト、送付内容の確認
2025年	
1月20日	映像コンテンツ会議
参加者	小林、王、川瀬/NAMA 吉原/セイムービースタジオ 加納、福田/SD アート
内容	・仕様書、依頼内容確認 ・納期、撮影スケジュール調整 ・連絡、データのやり取りについて確認
1月27日	冊子、パネルのデザイン関連会議
参加者	小林、王、川瀬/NAMA 藤井、成田、森田/midoris、加納、福田/SD アート
内容	・冊子、パネルのデザイン案の確認 ・チラシ・ポスター入稿、印刷、発送スケジュール確認
2月6日	展示・設営関連会議
参加者	小林、王、川瀬/NAMA 風坂/芸宣、加納、福田/SD アート



内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーン・プロジェクタ取り付け確認</li> <li>・菊竹エキスポタワー図面展示方法の検討</li> <li>・第1部設営スケジュール調整、確定</li> </ul>
2月27日	第1部設営1日目
参加者	小林、王、川瀬/NAMA 風坂、作業員5名/芸宣、杉田、作業員1名、福田/SDアート
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示資料の倉庫から展示室への移動</li> <li>・展示用什器移動</li> <li>・外看板の制作、サイン看板貼り付け</li> <li>・中央円型台用パネル制作</li> </ul>
2月28日	第1部設営2日目
参加者	小林、王、川瀬/NAMA 風坂、作業員5名/芸宣、 中村、泉澤/トップアート鎌倉、福田/SDアート
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外看板の設置（3か所）</li> <li>・額装</li> <li>・スクリーンの巻きつけ用台、新規スクリーンの設置</li> <li>・額の壁面設置</li> </ul>
3月1日	第1部設営3日目
参加者	王、川瀬/NAMA 風坂、作業員5名/芸宣、福田/SDアート
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・額の壁面設置</li> <li>・入り口横大型図面つり上げ設置</li> </ul>
3月4日	第1部設営4日目
参加者	小林、王、川瀬/NAMA 風坂、作業員5名/芸宣、竹下/サムサラ
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライティング作業</li> <li>・パネル設置</li> </ul>
3月5日	第1部設営5日目
参加者	小林、王、川瀬/NAMA 風坂、作業員5名/芸宣、加納/SDアート
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パネル設置</li> <li>・サイン看板の設置</li> </ul>

3月17日	第1部記録映像・写真撮影
参加者	小林、王、川瀬/NAMA 吉原、アシスタント1名/セイムービースタジオ、福田/SDアート
内容	会場の記録映像、写真撮影
3月23日	第1部シンポジウム開催
参加者	小林、王、川瀬/NAMA 田路貴浩、前田尚武 吉原、アシスタント1名/セイムービースタジオ、福田/SDアート
内容	主題：EXPO'70（大阪万博）を回想し、再考する 資料館ロビーにて開催
5月26日	第2部看板・サインのシール貼り
参加者	王、川瀬/NAMA 風坂、作業員3名/芸宣、福田/SDアート
内容	第2部開催に伴う予告シール+日程表記の重ね貼り
6月4日	第1部撤去
参加者	王、川瀬/NAMA 風坂、作業員5名/芸宣、中村/トップアート鎌倉、福田/SDアート
内容	第1部展示の額装図面の取外し片付け、展示台移動
6月10日	第2部設営1日目
参加者	小林、王、川瀬/NAMA 風坂、作業員5名/芸宣、杉田、作業員1名、中村/トップアート鎌倉、福田/SDアート
内容	・中央円型台のサイン貼り、 ・額装
6月11日	第2部設営2日目
参加者	王、川瀬/NAMA 風坂、作業員5名/芸宣、竹下/サムサラ、福田/SDアート
内容	・額の壁面設置 ・ライティング作業
6月16日	第2部記録映像・写真撮影
参加者	小林、王、川瀬/NAMA 吉原、アシスタント1名/セイムービースタジオ、福田/SDアート
内容	会場の記録映像、写真撮影
6月28日	第2部シンポジウム開催

参加者	小林、王、川瀬/NAMA 鈴木明、宇野求 吉原、アシスタント 1 名/セイムービースタジオ、福田/SD アート
内容	主題：知られざる試みと隠れた意義—EXPO'75 以降の万博会場デザインについて 資料館ロビーにて開催
9月1日	第2部撤去1日目
参加者	王、川瀬/NAMA 風坂、作業員 1 名/芸宣、福田/SD アート
内容	・外看板、サインの取り外し ・ロビー内ポスター掲示（新規追加、全体の調整）
9月2日	第2部撤去2日目
参加者	王、川瀬/NAMA 風坂、作業員 5 名/芸宣、泉澤/トップアート鎌倉、福田/SD アート
内容	・額装図面の取外し、片付け ・中央円型台、展示室内のサインシール剥し ・廃棄物の回収、撤去



2024年12月23日 キービジュアル会議



2025年1月20日 映像コンテンツ会議

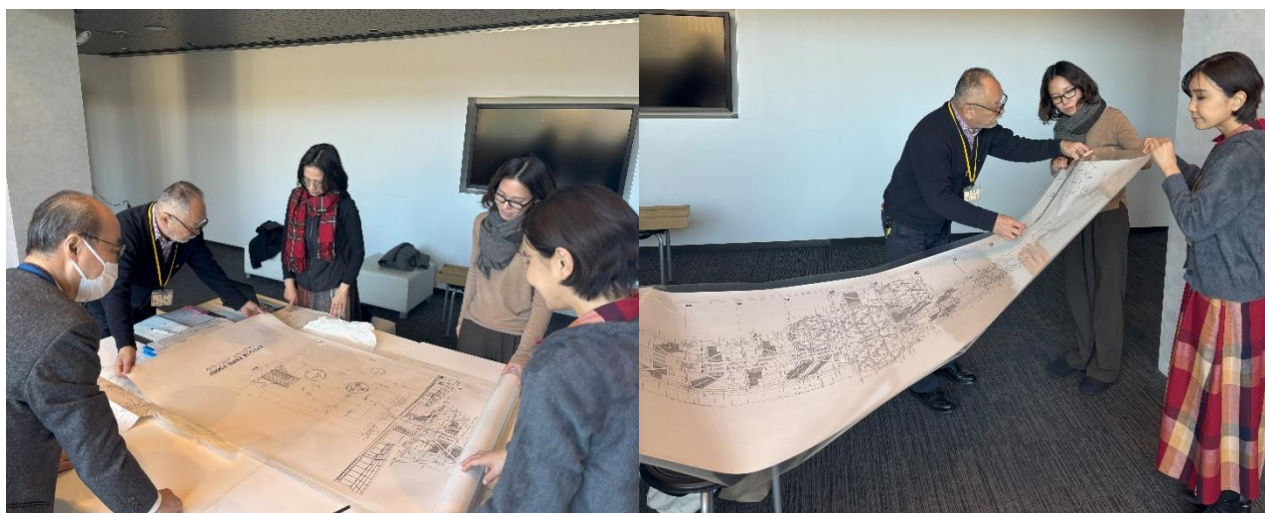


2025年1月27日 冊子、パネルのデザイン関連会議

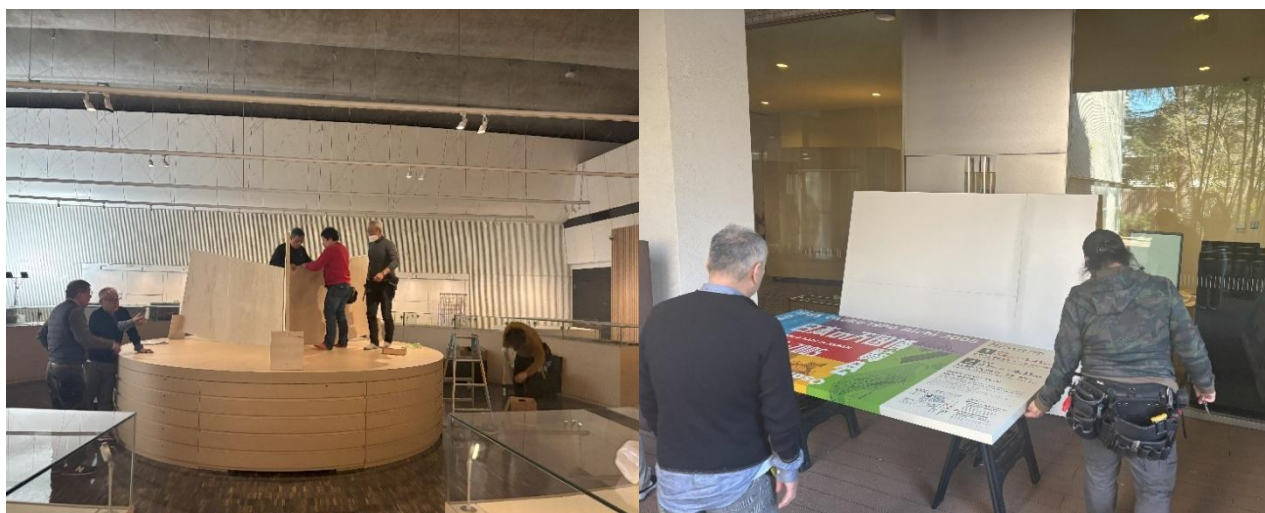




2025年2月6日 展示・設営関連会議



2025年2月27日 第1部設営1日目



2025年2月28日 第1部設営2日目



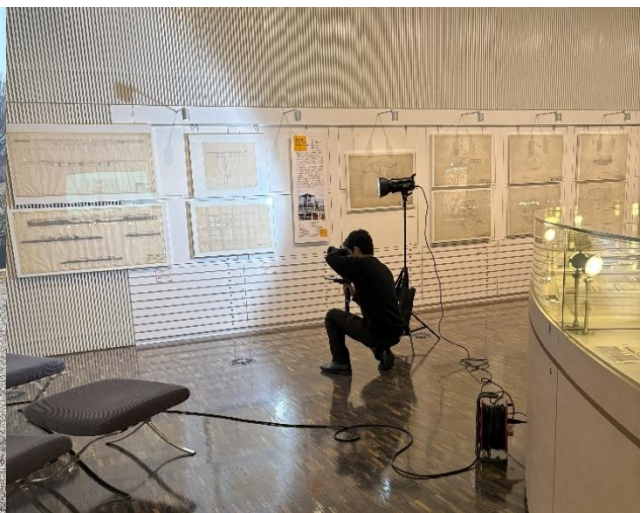


## 日本の万国博覧会 1970-2005

2025年3月1日 第1部設営3日目



2025年3月17日 第1部記録映像・写真撮影



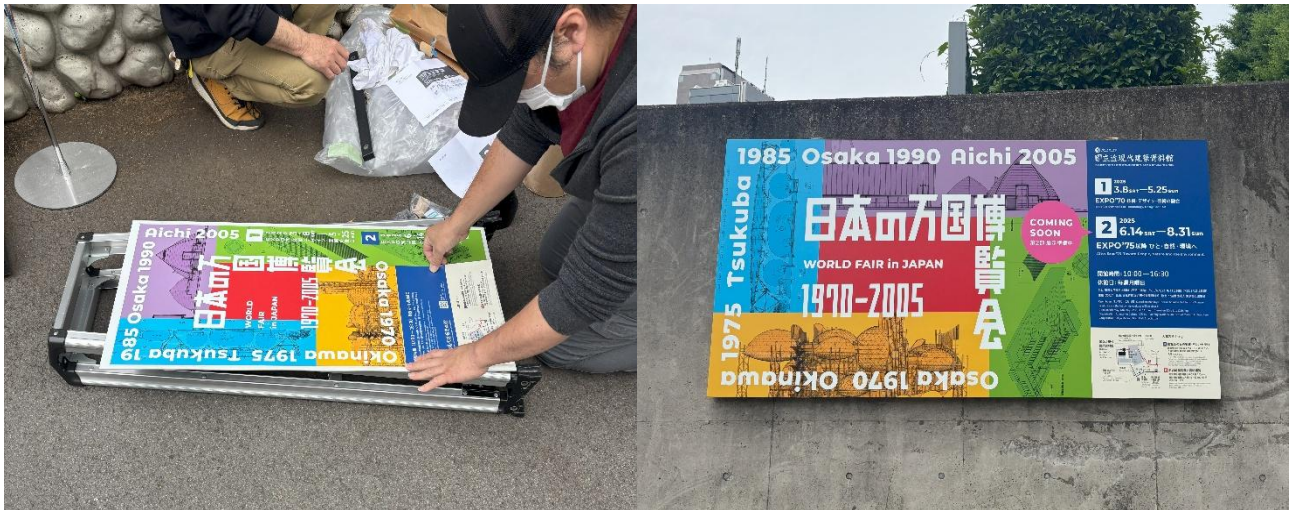
2025年3月23日 第1部シンポジウム開催





## 日本の万国博覧会 1970-2005

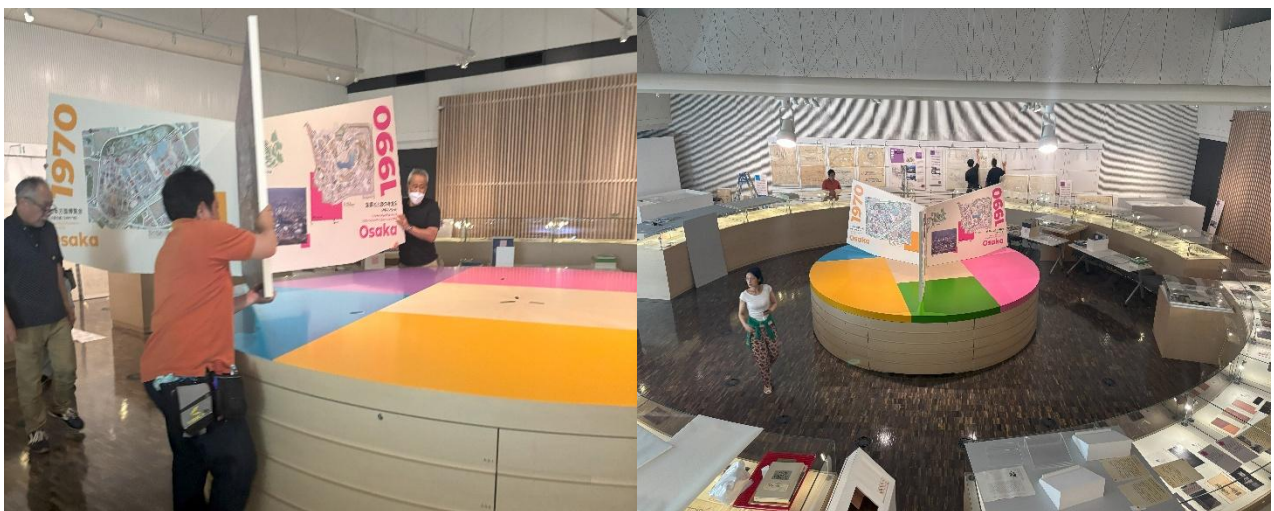
2025年5月26日 第2部用看板、パネルシール貼り



2025年6月4日 第1部撤去



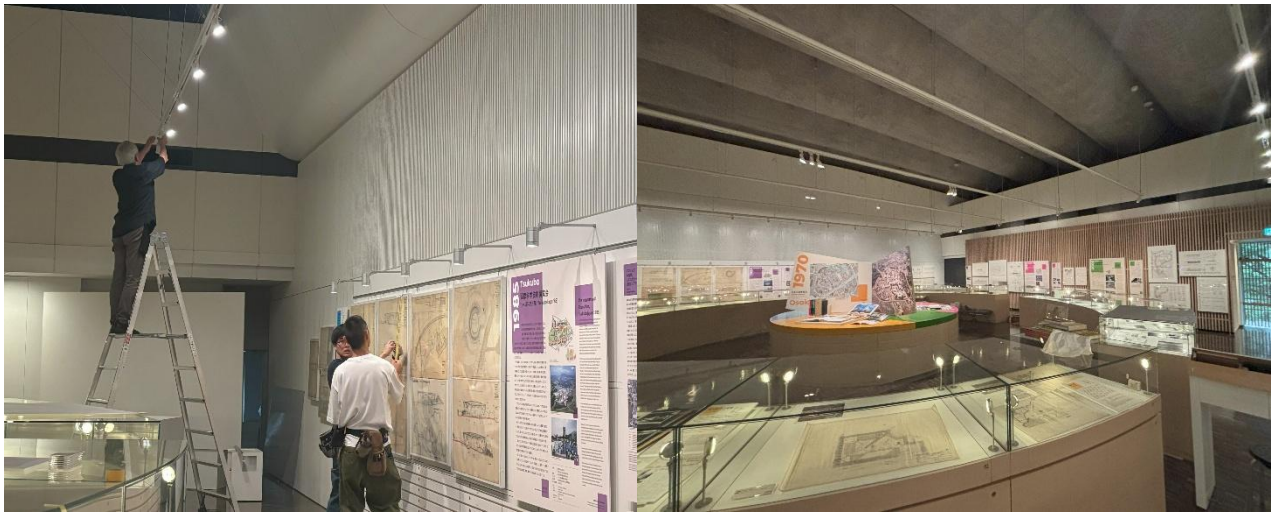
2025年6月10日 第2部設営1日目



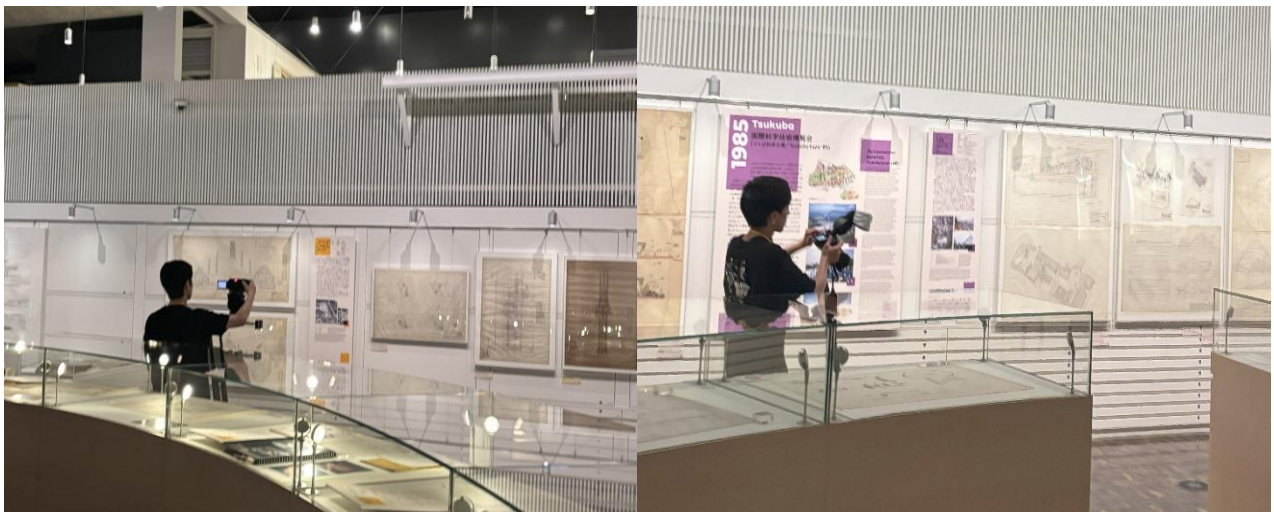


## 日本の万国博覧会 1970-2005

2025年6月11日 第2部設営2日目



2025年6月16日 第2部記録映像・写真撮影



2025年6月28日 第2部シンポジウム開催





日本の万国博覧会 1970-2005

2025年9月1日 第2部撤去1日目



2025年9月2日 第2部撤去2日目





体制・協力者

## 日本の万国博覧会1970-2005 体制表

### 文化庁国立近現代建築資料館 (NAMA)

- ・資料原物調査
- ・文献調査
- ・企画／作品選定
- ・展示構成（レイアウト）
- ・導入及び鑑賞補助ツール（序文、資料群紹介、解説等）
- ・資料整理、寄贈契約、目録作成
- ・展示及び図録に必要な資料のデジタル化
- ・開催案内メール（プレス、過去職員）
- ・ウェブ、文化庁SNS、PRTIMES
- ・内覧会開催準備
- ・内覧会出席者名簿作成
- ・図録着払い送付

### 展覧会制作PM (SDアート)

- ・実施計画作成
- ・定例会議の開催
- ・委託業務全体の進行、管理、コーディネート、現場指導
- ・業務記録
- ・広報効果の集計、記録
- ・来場者集計・アンケート分析
- ・委託業務成果報告書作成、納品

#### 有識者

- ・解説執筆
- ・講演
- ・情報提供、助言

#### 翻訳

Thomas DANIELL  
スプリングヒル

- ・館長挨拶
- ・チラシ、プレスリリース
- ・作品解説

#### グラフィック デザイン midoris

- ・キービジュアル、
- ・チラシ、ポスター、看板
- ・冊子、図録

#### 展示設営

芸宣

- ・展示設営、撤去
- ・パネル制作
- ・造作制作

#### 記録スチル・ 映像

セイムーピースタジオ

- ・会場記録写真、映像撮影、編集
- ・視聴覚映像、コンテンツ編集、制作

#### 資料借用・輸送

トータルアートサービス  
HIGUCHI

- ・館外資料の輸送

#### 広報物発送

ジャパンメール

- ・チラシ、ポスター印刷、発送
- ・開催案内発送

#### 図録・冊子

シナノ書籍印刷

- ・図録、冊子の印刷、納品

【展覧会】

企画・資料担当

小林 克弘／主任建築資料調査官

王 聖美／研究補佐員

川瀬 優／研究補佐員

秋岡 安季／研究補佐員

齋藤 菜那／研究補佐員

運営

山崎 智紀／副館長

橋本 純／主任建築資料調査官

Lambiasi James／主任建築資料調査官

松本 文夫／主任建築資料調査官

平川 千絵子／事務補佐員

室田 恵実／事務補佐員

北島 真希子／事務補佐員

増田 悠子／事務補佐員

翻訳

Thomas DANIELL

グラフィックデザイン

成田 可奈子／MIDORIS

藤井 北斗／MIDORIS

森田 尚恵／MIDORIS

董 懿萱／MIDORIS

制作・設営

株式会社 SD アート

吉原 聖／Sei movie studio

株式会社 芸宣

株式会社 トップアート鎌倉

合同会社 サムサラ

警備・美観管理

株式会社 新東美装

【展覧会図録】

発行・監修

文化庁

編集

文化庁国立近現代建築資料館

執筆協力

宇野 求

鈴木 明

田路 貴浩

前田 尚武

翻訳

Thomas DANIELL

デザイン

成田 可奈子／MIDORIS

藤井 北斗／MIDORIS

森田 尚恵／MIDORIS

董 懿萱／MIDORIS

編集補助

株式会社アルク出版企画

印刷・製本

シナノ書籍印刷株式会社



## 日本の万国博覧会 1970-2005

報告書作成

株式会社 SD アート

150-6090 東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 20 番 4 号

担当者：福田 知美

[fukuda@sdart.jp](mailto:fukuda@sdart.jp) <https://sdart.jp/>